HP Universal CMDB

Windows および Solaris オペレーティング・システム用

ソフトウェア・バージョン: 8.04

参照情報

ドキュメント・リリース日: 2010 年 3 月 (英語版)
ソフトウェア・リリース日: 2010 年 3 月 (英語版)

利用条件

保証

HP の製品およびサービスの保証は，かかる製品およびサービスに付属する明示的な保証の声明において定められている保証に限ります。本ドキュメントの内容は，追加の保証を構成するものではありません。HP は，本ドキュメントに技術的な間違いまたは編集上の間違い，あるいは欠落があった場合でも責任を負わないものとします。

本ドキュメントに含まれる情報は，事前の予告なく変更されることがあります。

制限事項

本コンピュータ・ソフトウェアは，機密性があります。これらを所有，使用，または複製するには，HP からの有効なライセンスが必要です。FAR 12.211 および 12.212 に従って，商用コンピュータ・ソフトウェア，コンピュータ・ソフトウェアのドキュメント，および商用アイテムの技術データは，HP の標準商用ライセンス条件に基づいて米国政府にライセンスされています。

著作権

© Copyright 2005 - 2010 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標

Adobe® および Acrobat® は，Adobe Systems Incorporated の商標です。

Intel®Pentium®，および Intel® Xeon™ は，米国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

Java™ は，Sun Microsystems, Inc. の米国商標です。

Microsoft®，Windows®，Windows NT®，および Windows® XP は，Microsoft Corporation の米国登録商標です。

Oracle® は，カリフォルニア州レッドウッド市の Oracle Corporation の米国登録商標です。

Unix® は The Open Group の登録商標です。

文書の更新

本書のタイトル・ページには，次の識別情報が含まれています。

- ソフトウェアのバージョンを示すソフトウェア・バージョン番号
- ドキュメントが更新されるたびに更新されるドキュメント発行日
- 本バージョンのソフトウェアをリリースした日付を示す，ソフトウェア・リリース日付

最新のアップデートまたはドキュメントの最新版を使用していることを確認するには，次の URL にアクセスしてください:

http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals

このサイトでは，HP Passport に登録してサインインする必要があります。HP Passport ID の登録は，次の URL にアクセスしてください。

http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html

または，HP Passport のログイン・ページの［**New users - please register**］リンクをクリックしてください。

適切な製品サポート・サービスに登録すると，更新情報や最新情報も入手できます。詳細については HP の営業担当にお問い合わせください。

サポート

HP ソフトウェアのサポート Web サイトは，次の場所にあります。

http://support.openview.hp.com

この Web サイトでは，連絡先情報と，HP ソフトウェアが提供する製品，サービス，およびサポートについての詳細が掲載されています。

HP ソフトウェア・オンライン・ソフトウェア・サポートでは，お客様にセルフ・ソルブ機能を提供しています。ビジネス管理に必要な，インタラクティブなテクニカル・サポート・ツールに迅速かつに効率的にアクセスできます。有償サポートをご利用のお客様は，サポート・サイトの以下の機能をご利用いただけます。

- 関心のある内容の技術情報の検索
- サポート・ケースおよび機能強化要求の提出および追跡
- ソフトウェア・パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポートの連絡先の表示
- 利用可能なサービスに関する情報の確認
- ほかのソフトウェア顧客との議論に参加
- ソフトウェアのトレーニングに関する調査と登録

ほとんどのサポート・エリアでは，HP Passport ユーザとして登録し，ログインする必要があります。また，多くの場合，サポート契約も必要です。HP Passport ID の登録は，次の場所で行います。

http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html

アクセス・レベルの詳細に関しては次を参照してください

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

目次

ようこそ 9
本書の構成 9
対象読者 10
詳細情報の入手 10

第 1 章： HP Universal CMDB へのログイン 11
HP Universal CMDB へのアクセス 11
Lightweight シングル・サインオン (LW-SSO) での HP Universal CMDB へのログイン 12
ログインとログアウト 13
自動ログイン 14
トラブルシューティングおよび制限事項 16

第 I 部：
HP UNIVERSAL CMDB へのアクセス方法と操作方法

第 2 章： HP Universal CMDB ログイン認証 21
HP Universal CMDB ログインの認証 21
認証メソッドのセットアップ 22
LDAP 認証メソッドの有効化と定義 22
SSL (Secure Sockets Layer) プロトコルを使用するセキュリティ保護された接続の設定 23
ユーザ ID からの識別名 (DN) の解決 24
JMX コンソールを使用した LDAP 認証のテスト 25

第 3 章： HP Universal CMDB の操作 27
HP Universal CMDB ユーザ・インタフェースの操作 27
HP Universal CMDB ドキュメントを使った作業 29
メニューとオプション 32

第 4 章 : Lightweight シングル・サインオン認証 – 全般的な参照情報 39
Lightweight シングル・サインオンについて.....40
Web シングル・サインオン – 使用例 40
LW-SSO のシステム要件 42
HP LW-SSO に統合された製品 43
LW-SSO の制限事項 43
LW-SSO のセキュリティに関する警告 47
LW-SSO の重要情報 49
LW-SSO のトラブルシュ - ティング 50

第 5 章 : JMX コンソールを使った作業.....55
JMX コンソールへのアクセス 55
JMX 操作の実行 56
ユーザ名またはパスワードの変更.....56

第 II 部 : HP UNIVERSAL CMDB を使った作業

第 6 章 : レポートでの作業 61
レポートでの作業 - 概要.....62
レポートの生成.....62
レポートの発行.....63
レポートの注釈.....64
Adobe Flash Player を使用したレポートの表示.....64
レポートの生成.....65
PDF へのエクスポート時のフォントの有効化.....68
レポートでの作業のユーザ・インタフェース 69
トラブルシューティングおよび制限事項 88

第 7 章 : システムの状況.....91
システムの状況 – 概要.....92
システムの状況セットアップ・ウィザード – 概要 93
システムの状況の表示 94
モニタ・テーブルについて 98
サービスの再割り当てについて 99
システムの状況のデプロイとアクセス.....100
システムの状況確認 ー ワークフロー 105
HP Universal CMDB コンポーネント.....108
HP Universal CMDB プロセス 109
システムの状況モニタ 110
コンポーネントとモニタのステータス・インジケータケータ 117
システムの状況ユーザ・インタフェース 118
トラブルシューティングと制限事項 149

第 8 章 : テーブルを使用した作業 151
カラムのユーザ・インタフェース 151

第 9 章 : 正規表現の例 155
正規表現の例 155

第 10 章 : 関係の定義 157
関係タイプの定義 157

第 III 部 : 日付と時間

第 11 章 : 日付と時間 165
時間とタイム・ゾーン 165
クライアント・マシンの日付の形式 165
..... 166

第 IV 部 : トラブルシューティング

第 12 章 : 使用可能なトラブルシューティング・リソース 169
トラブルシューティング・リソース 169

第 13 章 : 英語以外のロケールでの作業 171
インストールとデプロイメントに関する問題 172
データベース環境に関する問題 172
管理に関する問題 173
レポートに関する問題 173
ディスカバリおよび依存関係マップに関する問題 174
多言語ユーザ (MLU) インタフェースのサポート 174

索引 177

ようこそ

本書では，HP Universal CMDB の全般的な参照情報を提供します。

本章の内容

➤ 本書の構成（9 ページ）

➤ 対象読者（10 ページ）

➤ 詳細情報の入手（10 ページ）

本書の構成

本書は，次の各章で構成されています。

第 I 部　HP Universal CMDB への アクセス方法と操作方法

HP Universal CMDB にログインする方法と，アプリケーション・ページ内を移動する方法について説明します。

第 II 部　HP Universal CMDB を使った作業

印刷，共有，レポートの格納の仕方などのレポートの使用方法，お使いのシステムの一部として実行しているサーバ，データベース，データ・コレクタの監視方法，ユーザ・インタフェースの一部であるテーブルのカスタマイズ方法について説明します。また，正規表現の例を提供し，HP Universal CMDB で使用する関係の一覧を示します。

第 III 部　日付と時間

HP Universal CMDB の日付と時刻の参照情報について説明します。

第 IV 部　トラブルシューティング

HP Universal CMDB での作業中または管理中に発生した問題について説明します。また，英語以外のロケールで作業する際の検討事項と制限事項についても説明します。

対象読者

本書は，次の HP Universal CMDB 利用者を対象としています。

- HP Universal CMDB 管理者
- HP Universal CMDB プラットフォーム管理者
- HP Universal CMDB アプリケーション管理者
- HP Universal CMDB データ・コレクタ管理者

本書は，エンタープライズ・システムの管理に関する知識と HP Universal CMDB に関する知識を持っていることを前提としています。

詳細情報の入手

HP Universal CMDB に含まれているすべてのオンライン・ドキュメントの一覧，その他のオンライン・リソース，最新版のドキュメントの入手情報，本書で使用する表記規則については，『**HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド**』（PDF）を参照してください。

第 1 章

HP Universal CMDB へのログイン

本章では，HP Universal CMDB へのログイン方法について詳しく説明します。

本章の内容

概念

➤ HP Universal CMDB へのアクセス（11 ページ）

➤ Lightweight シングル・サインオン (LW-SSO) での HP Universal CMDB へのログイン（12 ページ）

タスク

➤ ログインとログアウト（13 ページ）

➤ 自動ログイン（14 ページ）

参照先

トラブルシューティングおよび制限事項（16 ページ）

HP Universal CMDB へのアクセス

サポートされている Web ブラウザを使用して，HP Universal CMDB サーバへネットワーク接続 (イントラネットやインターネット) されている任意のコンピュータから，HP Universal CMDB にアクセスします。ユーザに許可されるアクセス・レベルは，ユーザ権限に依存します。ユーザ権限の付与の詳細については，『**モデル管理**』の「ユーザの設定」を参照してください。

Web ブラウザの要件や HP Universal CMDB を正しく表示するための最小要件の詳細については，『**HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド**』(PDF) の「ハードウェアおよびソフトウェア要件」を参照してください。

Lightweight シングル・サインオン (LW-SSO) での HP Universal CMDB へのログイン

HP Universal CMDB は Lightweight シングル・サインオン (LW-SSO) で設定します。LW-SSO により，HP Universal CMDB にログインをすることで，同じドメインで実行されているほかの設定済みのアプリケーションにログインしなくても自動的にアクセスできるようになっています。

LW-SSO 認証サポートが有効になっている場合，シングル・サインオン環境のほかのアプリケーションでも LW-SSO が有効になっており，同じ **initString** を使用していることを確認してください。

HP Universal CMDB へのシングル・サインオンを有効にするには，次の手順を実行します。

1. ファイル・システムのファイル **<HP Universal CMDB ルート・ディレクトリ>¥UCMDBServer¥j2f¥conf¥ucmdb_web_lwsso_conf.xml** にアクセスします。
2. フラグ **enableCookieCreation** を検索して，その値を **true** (標準設定値は false) に設定します。
3. Web ブラウザのアドレスに **http://< サーバ名 >:8080/jmx-console** と入力して JMX コンソールにアクセスします。**<サーバ名>** は HP Universal CMDB がインストールされているマシンの名前です。
4. **MAM** の下の **service=UCMDB UI** をクリックして［JMX MBEAN View］ページを開きます。
5. **reloadLWSSO** メソッドを検索します。
6. ［**Invoke**］をクリックしてメソッドを実行します。

HP Universal CMDB へのログインの要件の詳細については，13 ページ「ログインとログアウト」を参照してください。

ログインとログアウト

このタスクでは，ログイン・ページから HP Universal CMDB にログインする方法および HP Universal CMDB からログアウトする方法について説明します。

1 ログイン

a Web ブラウザで，URL **http:// ＜サーバ名＞ :8080/ucmdb** を入力します。**サーバ名**には HP Universal CMDB サーバの名前または IP アドレスを入力します。あるいは UCMDB またはネットワーク管理者の指示に従います。

HP Universal CMDB がリバース・プロキシを通すよう設定されている場合，**https://＜プロキシ・サーバ名＞:443** と入力します。**プロキシ・サーバ名**にはプロキシ・サーバの名前または IP アドレスを入力します。

Java の正しいバージョンがマシンにインストールされていない場合，sun.com または UCMDB サーバからバージョンを選択してダウンロードできます (Java をインストールせずにログインすると，正しく表示するための Java アプレットを必要とするページを見ることができません)。

b HP Universal CMDB システムで定義されたユーザのログイン･パラメータ (ログイン名およびパスワード) を入力し，［**ログイン**］をクリックします。ログイン後，ユーザ名がページ右上に表示されます。

最初のログインは，標準設定のスーパーユーザのログイン・パラメータ (ログイン名 = **admin**，パスワード = **admin**) で行います。システムのスーパーユーザは，不正なアクセスを防ぐため，このパスワードを直ちに変更することをお勧めします。パスワード変更の詳細については，『**モデル管理**』の「[ユーザ プロファイル］ダイアログ・ボックス」を参照してください。

HP Universal CMDB システムでのユーザ作成の詳細については，『**モデル管理**』の「[ユーザ］タブ」を参照してください。

HP Universal CMDB で使用できるログイン認証方法の詳細については，『**HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド**』（PDF）の「ログイン証明書の設定」を参照してください。

ログインのトラブルシューティング情報については，16 ページ「トラブルシューティングおよび制限事項」を参照してください。

注：HP Universal CMDB に安全にアクセスする方法の詳細については，『**HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド**』（PDF）の「HPUNIVERSAL CMDB の強化」を参照してください。

---

2 ログアウト

セッションが完了したら，不正な侵入を防ぐため，Web サイトからログアウトします。

ログアウトするには，ページ上部の［**ログアウト**］をクリックします。

自動ログイン

詳細なログイン・オプションでは，ログインの自動化，ログイン・アクセスの制限, HP Universal CMDB の特定のページへの直接ログイン機能の設定ができます。

ログイン・ページの自動ログインを有効にすると，次回の HP Universal CMDB へのアクセスでユーザが URL を入力すると，ログイン・ページが表示されなくなり，ログイン名とパスワードを入力する必要がなくなります。そして，そのユーザに対して設定された標準設定のページが自動的に開くようになります。

自動ログインを有効にするには，次の手順を実行します。

1. HP Universal CMDB のログイン・ページで，［**ログイン名とパスワードを保存する**］オプションを選択します。
2. セッションが完了したときに，ページ上部の［**ログアウト**］をクリックせず，ブラウザ・ウィンドウを閉じます。

   ログアウトすると自動ログイン・オプションが無効になり，この場合，次回 HP Universal CMDB へアクセスするときにログイン名とパスワードを入力する必要があります。

自動ログインの使用についてのガイドライン

このオプションを使用するときには，次のことに留意してください。

- HP Universal CMDB ページの上部にある［**ログアウト**］オプションを使用すると，自動ログイン・オプションが取り消されます。ユーザがログアウトすると，次にそのユーザがログインしようとしたときにログイン・ページが開き，ログイン名とパスワードを入力する必要があります。これは，別のユーザが異なるユーザ名とパスワードを使って同じマシンにログインする必要がある場合に役立ちます。
- このオプションはセキュリティ上のリスクになり得るので，使用には注意が必要です。

トラブルシューティングおよび制限事項

次の情報を使用して，HP Universal CMDB へのログインの失敗を引き起こすと考えられる原因を検証します。その他のトラブルシューティング情報については，HP ソフトウェア・セルフ・ソルブ技術情報を参照してください (HP Universal CMDB の［ヘルプ］メニューから［**トラブルシューティングとナレッジ ベース**］を選択してアクセスできます)。

問題/考えられる原因	解決方法
HP Universal CMDB が正常に起動しない。 **指標**：**jboss_boot.log** ファイルに次の行が含まれていない。 ======== server is up ========	**解決方法 1**：Web コンソール **http://＜サーバ名＞ :8080/web-console** にアクセスして，HP Universal CMDB サーバが起動していて実行中であることを確認します。**＜サーバ名＞**は，接続している HP Universal CMDB サーバの名前です。 **解決方法 2**：データベース接続を検査します。 **データベース・サーバの起動と実行を検査するには，次の手順を実行します。** 1 Web ブラウザを起動して，**http://＜サーバ名＞:8080/jmx-console**に移動します。**＜サーバ名＞**は HP Universal CMDB がインストールされているマシンの名前です。 2 Topaz の下で **service=CMDB Dal Services** をクリックして［JMX MBean View］を開きます。 3 customerID パラメータの値を **1** にして **java.lang.String getDbContext()** 関数を呼び出します。 4 操作の結果に問題がないかどうかを検査します。 **解決方法 3**：データベース接続パラメータが正しいことを検査します。インストール時に使用した認証を使用して，Oracle サーバまたは Microsoft SQL Server にログインできることを確認します。

問題/考えられる原因	解決方法
HP Universal CMDB が正常に起動しない。 （続き）	**解決方法 4**：ログ・ファイル EJBContainer¥cmdb.dal_ejb.log を使用して，デー タベース接続を確認します（詳細については，『**モデル管理**』の「CMDB Dal ログ」を参照してください）。 **解決方法 5**：データベース接続が有効であることを確認するには，Windows コマンド・インタープリタ（cmd.exe）に「sqlplus cmdb/cmdb@skazal」と入力します。
CMDB が壊れている（ユーザ・レコードが CMDB から誤って削除されたなど）。	以前にバックアップしたデータベース・ファイルをインポートします。詳細については，『**HP Universal CMDB データベース・ガイド**』（PDF）を参照してください。 **重要**：データベースのインポート中は HP Universal CMDB サーバを停止する必要があります。 **注**：以前にバックアップしたデータベース・ファイルをインポートすると，システムにそれまで存在していたすべてのデータは失われます。
HP Universal CMDB のログインに失敗する。ログイン名/パスワードの組み合わせが正しくない可能性がある。	ログイン・ユーザ名/パスワードの正しい組み合わせを入力します。
予期しないエラーのために HP Universal CMDB ログインに失敗する。	**解決方法 1**:［**スタート**］＞［**プログラム**］＞［**HP UCMDB**］＞［**UCMDBサーバのステータス**］を選択し，MAMBASIC サービスが実行されていることを確認します。 **解決方法 2**: 次のログ・ファイルでエラーを探します。 ➤ **<HP Universal CMDB ルート・ディレクトリ >¥UCMDBServer¥j2f¥log¥J2F_all.ejb.log** ➤ **<HP Universal CMDB ルート・ディレクトリ >¥UCMDBServer¥j2f¥log¥mam¥ucmdb_all.log** 未知のエラーが見つかったら，HP ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。

第 I 部

HP Universal CMDB への
アクセス方法と操作方法

第 2 章

HP Universal CMDB ログイン認証

本章では，HP Universal CMDB ログイン認証に関する情報を提供します。

本章の内容

概念

➤ HP Universal CMDB ログインの認証（21 ページ）

タスク

➤ 認証メソッドのセットアップ（22 ページ）

➤ LDAP 認証メソッドの有効化と定義（22 ページ）

➤ SSL (Secure Sockets Layer) プロトコルを使用するセキュリティ保護された接続の設定（23 ページ）

➤ ユーザ ID からの識別名 (DN) の解決（24 ページ）

参照先

➤ JMX コンソールを使用した LDAP 認証のテスト（25 ページ）

HP Universal CMDB ログインの認証

認証は次の方法で行うことができます。

➤ 内部 HP Universal CMDB サービスを使用

➤ Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) を使用

これらのオプションは，Web サービスのほかユーザ・インタフェースを使用したログインにも適用されます。

認証メソッドのセットアップ

標準設定の認証メソッドは内部 HP Universal CMDB サービスを使用します。標準設定のメソッドを使用する場合には，システムに変更を加える必要はありません。

内部 HP Universal CMDB サービスを使用する代わりに，専用の外部 LDAP サーバを使用して認証情報を格納できます。LDAP サーバは，すべての HP Universal CMDB サーバと同じサブネット上になければなりません。

LDAP 認証メソッドを定義する方法については，次の項を参照してください。

LDAP 認証メソッドの有効化と定義

HP Universal CMDB システムを対象に LDAP 認証メソッドの有効化と定義を行うことができます。

LDAP 認証メソッドを有効化して定義するには，次の手順を実行します。

1. ［**管理**］＞［**設定**］＞［**インフラストラクチャ設定マネージャ**］を選択します。［**Foundations**］コンテキストを選択し，リストから［**LDAP 認証**］を選択します。
2. ［**LDAP 認証 - LDAP 全般**］テーブルの中で，［編集］ボタンをクリックして［LDAP サーバの URL］ダイアログ・ボックスを開きます。
3. LDAP の URL 値を，ldap://＜ldapHost＞ [:＜port＞]/[＜baseDN＞] [??＜scope＞] という形式で入力します。

   たとえば，ldap://my.ldap.server:389/ou=People,o=myOrg.com??sub のようにします。
4. 新しい値を保存するには［**保存**］を，エントリを標準設定値 (空白の URL) で置き換えるには［**標準設定に戻す**］を，値を変更せずにダイアログ・ボックスを閉じるには［**キャンセル**］をクリックします。
5. ［**リモート ユーザ リポジトリ モード**］設定で［**Enabled**］を選択します。
6. ［**グループ ベース識別名**］に，一般グループの識別名を入力します。
7. ［**ルート グループのベース DN**］に，ルート・グループの識別名を入力します。

8 ［**ユーザの同期の有効化**］設定を探し，値が **True** に設定されていることを確認します。

LDAP サーバとの通信に使用される標準設定のプロトコルは TCP ですが，これを SSL に変更できます。詳細については，次の項を参照してください。

SSL (Secure Sockets Layer) プロトコルを使用するセキュリティ保護された接続の設定

ログイン処理では，HP Universal CMDB と LDAP サーバの間で機密情報がやり取りされるため，その内容に対して一定のレベルのセキュリティを適用するとよいでしょう。それには，LDAP サーバ上で SSL 通信を有効にして，SSL を使用できるように HP Universal CMDB を設定します。

HP Universal CMDB では，信頼できる認証局 (CA) から発行された証明書を使用する SSL をサポートしています。CA は Java の実行時環境に含まれています。

Active Directory を含む大半の LDAP サーバは, SSL ベースの接続を対象とするセキュリティ保護されたポートを公開できます。プライベート CA を利用する Active Directory を使用している場合，当該 CA を Java の信頼できる CA に追加する必要がある可能性があります。

SSL 通信をサポートするように HP Universal CMDB プラットフォームを設定する方法の詳細については,『**HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド**』（PDF）の「Secure Sockets Layer (SSL) 通信の有効化」を参照してください。

SSL ベースの接続を対象とするセキュリティ保護されたポートを公開するために，信頼できる CA に CA を追加するには，次の手順を実行します。

1 CA から証明書をエクスポートし, 次の手順に従って HP Universal CMDB で使用される JVM にインポートしてください。

   a UCMDB サーバ・マシンで，**UCMDBServer¥j2f¥JRE¥bin** フォルダにアクセスします。

   b コマンド **Keytool -import -file <自分の証明書ファイル> -keystore C:¥hp¥UCMDB¥UCMDBServer¥j2f¥JRE¥lib¥security¥cacerts** を実行します。たとえば，**Keytool -import -file c:¥ca2ss_ie.cer -keystore C:¥hp¥UCMDB¥UCMDBServer¥j2f¥JRE¥lib¥security¥cacerts** のようにします。

2 ［**管理**］＞［**設定**］＞［**インフラストラクチャ設定マネージャ**］へ移動し，［**Foundations**］コンテキストのリストから［**LDAP 認証**］を選択します。

3 ［**LDAP 認証 - LDAP 全般**］テーブルの中で，［**設定の編集**］ボタンをクリックして［LDAP サーバの URL］ダイアログ・ボックスを開きます。

4 **ldaps://<LDAP ホスト>[:<ポート>]/[<ベース DN>][??スコープ]** 形式で，LDAP の URL 値を入力します。たとえば，**ldaps://my.ldap.server:389/ou=People, o=myOrg.com??sub)** のようにします。「**ldaps**」の「**s**」に注意してください。

5 新しい値を保存するには［**保存**］を，エントリを標準設定値 (空白の URL) で置き換えるには［**標準設定に戻す**］を，値を変更せずにダイアログ・ボックスを閉じるには［**キャンセル**］をクリックします。

ユーザ ID からの識別名 (DN) の解決

ほとんどのディレクトリ・サービスでは，ユーザは認証のために完全な識別名を指定してログインする必要があります。DN は一般に，cn=John Smith, cn=Users, ou=Sales, dc=USA, dc=MyCompany, dc=COM のように非常に長いものです。このような長い文字列を入力するのは煩雑であり，間違いも多くなります。したがって，ディレクトリ・サービスとの統合を図るアプリケーションでは，ユーザの一意の ID (ログイン名など) を完全な DN に変換してから，それを認証方式にバインドするという方法が非常によく使われます。HP Universal CMDB もこの機能をサポートします。

一意の ID を使用して HP Universal CMDB にログインするには，次の手順を実行します。

1 LDAP データベースの中で検索を行う権限を持っているユーザの DN を入力します。［検索権限を持つユーザの識別名］エントリの横にある［**編集**］ボタンをクリックして，［検索権限を持つユーザの識別名］ダイアログ・ボックスを開きます。［**値**］フィールドに DN を入力します。

LDAP サーバへの匿名ログインを可能にするには，このフィールドを空のままにしておきます。ただし，匿名ユーザには，LDAP データベースを検索する権限が必要です。

2 新しい値を保存するには［**保存**］を，エントリを標準設定値で置き換えるには［**標準設定に戻す**］を，値を変更せずにダイアログ・ボックスを閉じるには［**キャンセル**］をクリックします。

3 LDAP データベースの中で検索を行う権限を持っているユーザのパスワードを入力します。[検索権限を持つユーザのパスワード] エントリの横にある [**編集**] ボタンをクリックして, [検索権限を持つユーザのパスワード]ダイアログ・ボックスを開きます。[**値**] フィールドにパスワードを入力します。

匿名ユーザを定義した場合は (手順 1), このフィールドを空のままにしておきます。

4 新しい値を保存するには [**保存**] を, エントリを標準設定値で置き換えるには [**標準設定に戻す**] を, 値を変更せずにダイアログ・ボックスを閉じるには [**キャンセル**] をクリックします。

注：設定を変更したら, 変更を有効にするためにサーバを再起動する必要があります。

JMX コンソールを使用した LDAP 認証のテスト

本項では, LDAP 認証設定をテストする方法について説明します。

JMX コンソールを使用して LDAP 認証をテストするには, 次の手順を実行します。

1 Web ブラウザを起動して, 次のアドレスを入力します。**http://<サーバ名>:8080/jmx-console<サーバ名>** と入力します。**<サーバ名>** には, HP Universal CMDB がインストールされているマシンの名前が入ります。

2 **MAM** の下の **service=MAM Security Services** をクリックして [JMX MBEAN View] ページを開きます。

3 **java.lang.String testLDAPAuthentication** を見つけます。

4 パラメータ **userName** の [**ParamValue**] ボックスに, ユーザ名を入力します。

5 パラメータ **password** の [**ParamValue**] ボックスに, ユーザ・パスワードを入力します。

6 パラメータ **LDAPServerURL** の [**ParamValue**] ボックスに, 次の形式で LDAP サーバの URL を入力します。

ldap://<ldapHost>[:<port>]/[<baseDN>][<??scope>]

7 パラメータ **DN** の [**ParamValue**] ボックスに, 権限を持つユーザの名前を入力します。

8 パラメータ **DNpass** の［**ParamValue**］ボックスに，権限を持つユーザのパスワードを入力します。

9 ［**Invoke**］をクリックします。

LDAP ユーザ認証が成功したかどうかが［JMX MBEAN Operation Result］ページに示されます。

第 3 章

HP Universal CMDB の操作

本章では，HP Universal CMDB の操作方法について詳しく説明します。

本章の内容

概念

➤ HP Universal CMDB ユーザ・インタフェースの操作（27 ページ）

➤ HP Universal CMDB ドキュメントを使った作業（29 ページ）

参照先

➤ メニューとオプション（32 ページ）

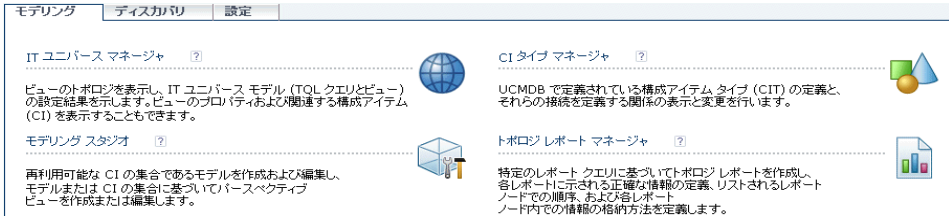
HP Universal CMDB ユーザ・インタフェースの操作

HP Universal CMDB は Web ブラウザで実行します。次のナビゲーション機能を使用して HP Universal CMDB 内を移動します。

➤ **トップ・メニュー・バー**：アプリケーション，管理ページ，およびヘルプのリソースにナビゲートできます。

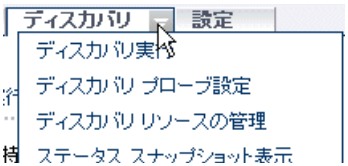
➤ **タブ**：1 つのアプリケーション内のさまざまなタイプのレポート，レポート内のさまざまなビュー，管理コンソール内のさまざまな管理機能など，HP Universal CMDB の特定領域の中にあるさまざまなコンテキストにナビゲートできます。コンテキストによって，機能を区別するためにタブが使用されることもあれば，論理的に似通った機能をグループにまとめるためにタブが使用されることもあります。

➤ **タブのメイン・メニュー**：タブのフロント・ページから，そのタブに関連したさまざまなコンテキストにナビゲートできます。タブのメイン・メニューは，複数のレポート・タイプや管理設定など，複数のコンテキストを含むカテゴリを表すタブが選択されたときに表示されます。タブのメイン・メニューには，各タブ・コンテキストの説明とアイコンが含まれています。

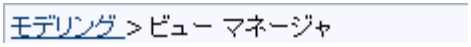


➤ **タブ・コントロール**：タブに関連した任意のコンテキストから，そのタブの別のコンテキストにナビゲートできます。タブのメイン・メニューを開くには，タブ名をクリックします。

タブに関連した別のコンテキストに移動するには，マウス・ポインタをタブに合わせて下向き矢印をクリックし，タブのドロップダウン・メニューを表示します。タブのメニュー オプションをクリックして，そのコンテキストに移動します。



➤ **現在位置表示リスト**：適切なページ・レベルをクリックして，マルチレベル・コンテキストにおいて前のページに戻ることができます。たとえば，次の現在位置表示リストでは，［**モデリング**］をクリックすると［モデリング］ページに戻ります。



➤ **折りたたみまたは展開矢印**：一度のクリックで複数の表示枠の折りたたみや展開ができます。

注：Web ブラウザの［**戻る**］機能は，HP Universal CMDB ではサポートされていません。［**戻る**］機能を使用しても，現在のコンテキストから直前のコンテキストに戻れるとはかぎりません。直前のコンテキストに戻るには，現在位置表示機能を使用してください。

HP Universal CMDB ドキュメントを使った作業

次の各項では，HP Universal CMDB ドキュメントの操作と使用方法について説明します。

本項の内容

- 29 ページ「UCMDB ヘルプの操作」
- 30 ページ「文書ライブラリの機能」
- 31 ページ「トピック単位での情報の編成」

UCMDB ヘルプの操作

統合されたヘルプ・システムである UCMDB ヘルプの操作方法は次のとおりです。

- **ホーム・ページから**：ホーム・ページにアクセスするには，［ヘルプ］メニューで［**UCMDB ヘルプ**］を選択します。

  ホーム・ページは次のタブで構成されています。

  - **［Main Topics］**：［Main Topics］タブでは，UCMDB ヘルプに含まれているさまざまなガイドが論理的に項目分けされて示されます。
  - **［PDFs］**：［PDFs］タブの構成は［Main Topics］タブに似ていますが，PDF 形式のガイドへのリンクを提供します。

- **ナビゲーション表示枠から**：ナビゲーション表示枠が表示されていない場合にこの表示枠にアクセスするには，［ナビゲーション バーの表示］ボタンをクリックします。

ナビゲーション表示枠は次のタブで構成されています。

- **［目次］**：［目次］タブには，さまざまなガイドが階層ツリーにまとめられており，特定のガイドまたはトピックに直接移動できます。
- **［索引］**：［索引］タブでは，特定のトピックを選択して表示することができます。索引のエントリをダブルクリックすると，対応するページが表示されます。選択した語が複数のドキュメントで検出された場合は，表示されるダイアログ・ボックスから該当するものを選択します。
- **［検索］**：［検索］タブでは，特定のトピックまたはキーワードを検索できます。結果は一致率の高いものから順に表示されます。
- **［お気に入り］**：［お気に入り］タブでは，特定のページを素早く参照できるよう，ブックマークを付けることができます。［お気に入り］タブは，UCMDB ヘルプの Java 実装を使用している場合のみ使用できます。お使いのブラウザが Java をサポートしていない場合は，JavaScript 実装が自動的に使用され，［お気に入り］タブは表示されません。

文書ライブラリの機能

次の機能は，文書ライブラリのメインの表示枠の上部にあるフレームから使用できます。

- **［ナビゲーション バーの表示］ボタン**：ナビゲーション表示枠を表示するときにクリックします。この表示枠には，［内容］，［索引］，［検索］，［お気に入り］のタブが含まれます。ナビゲーション表示枠の詳細については，29 ページ「HP Universal CMDB ドキュメントを使った作業」を参照してください。このボタンは，ナビゲーション表示枠が閉じているときのみ表示されます。

- **［内容の表示］ボタン**：このボタンをクリックすると，現在表示されているページに対応する項目が［目次］タブで強調表示されます。このボタンは，ナビゲーション表示枠が開いているときのみ表示されます。

- **［前へ］ボタンと［次へ］ボタン**：ガイドで現在表示されている内容の前の内容，あるいは次の内容へ移動するときにクリックします。

- **［HP にドキュメントのフィードバックを送信］ボタン**：電子メール・クライアントを開いて HP にフィードバックを送信するときにクリックします。［**宛先**］と［**件名**］が入力された状態で電子メールのメッセージが開きます。また，本文には，現在のページへのリンクが含まれます。フィードバックを入力して，電子メールを完成します。この機能を正しく使用するには，お使いのマシンで電子メール・クライアントが設定されていることを確認してください。

➤ **［印刷］ボタン :** 現在表示されているページを印刷するときにクリックします。

トピック単位での情報の編成

ガイドの大部分の資料は，トピックの種類別に編成されています。ここで使用されている主なトピックの種類は，**概念**，**タスク**，および**参照情報**の 3 つです。これらのトピックの種類は，アイコンで視覚的に分かりやすく分類されています。次に，各トピックの種類と，それらのトピックに対応するアイコンについて説明します。

➤ **概念 :** 概念に関するトピックでは，背景，説明，または概念的な情報を提供します。機能の内容やしくみに関する一般情報については，概念に関するトピックに目を通してください。

➤ **タスク** : タスクに関するトピックでは，一般的にソフトウェアの管理や使用に必要な，特定のタスクをどのように完了するかについて，順を追って説明します。また，特定のタスクのシナリオについても説明します。タスクを完了するには，タスクに関するトピックに目を通し，一連の手順に従ってください。

➤ **参照情報** : 参照情報のトピックは，パラメータ，共通のユーザ・インタフェース要素，およびその他の参考資料に関する，詳細なリストおよび説明を提供します。特定のコンテキストに関連する参照情報を探す必要がある場合は，参照情報のトピックに目を通してください。

➤ **ユーザ・インタフェース** : ユーザ・インタフェースのトピックは，主にコンテキストセンシティブ・ヘルプに使用される参照情報トピックです。ソフトウェアの ヘルプリンクをクリックすると，通常はユーザ・インタフェース・トピックが開きます。

➤ **トラブルシューティングおよび制限事項** : トラブルシューティングおよび制限事項のトピックは，機能のトラブルシューティングおよび制限事項の一覧を提供する参照情報トピックです。ソフトウェアの予期せぬ動作が発生した場合は，トラブルシューティングおよび制限事項のトピックに目を通してください。トラブルシューティングを行う前に，機能の制限事項を確認することをお勧めします。

メニューとオプション

トップ・メニュー バーで次のリソースにナビゲートできます。

本項の内容

- 32 ページ「管理」
- 33 ページ「アプリケーション」
- 36 ページ「[ヘルプ] メニュー」

管理

[管理] には，機能ごとに分類された次のセクションが表示されます。各機能領域へは，該当のタブをクリックしてアクセスします。

メニュー・オプション	説明
[モデリング]	[モデリング] ページが開きます。このページでは，CMDB 内に IT ユニバースのモデルを作成したり，管理することができます。詳細については，『**モデル管理**』の「モデリング」を参照してください。
[ディスカバリ]	[ディスカバリおよび依存関係マップ] (DDM) ページが開きます。このページでは，構成アイテム (CI) を IT ユニバースのモデルに取り込むために DDM プロセスのセットアップや実行ができます。詳細については，ディスカバリおよび依存関係マップを参照してください。コンテンツの詳細については，『**Discovery and Dependency Mapping Content Guide**』(英語版) を参照してください。
[設定]	管理ページが開きます。このページでは，ユーザ，役割，権限，フェデレート CMDB のデータ・ストア，およびスケジュールをセットアップします。詳細については，『**モデル管理**』の「設定」を参照してください。

アプリケーション

HP Universal CMDB をセットアップすると, CMDB および CI のステータスに関するレポートを表示できます。すべてのレポートには［アプリケーション］メニューからアクセスします。

メニュー・オプション	説明
［トポロジ ビュー］	［トポロジ ビュー］が開きます。ここでは，現在選択されているビューの CI をグラフィカルな形式で表示します。詳細については,『**モデル管理**』の「トポロジ ビュー アプリケーション」を参照してください。
［CI ライフサイクル］	［CI ライフサイクル］ページが開きます。このページでは，削除の候補である CI および関係の一覧をエージング メカニズムによって表示できます。詳細については,『**モデル管理**』の「CI ライフサイクルおよびエージング メカニズム」を参照してください。
［コンプライアンス］	コンプライアンス・ページが開きます。このページでは次の作業を行うことができます。 ➤ 2 つの複合 CI の階層を比較します。詳細については,『**モデル管理**』の「CI を比較」を参照してください。 ➤ ビューのステータスを，別の時点で取得したステータスと比較して 1 つのスナップショットで表示します。詳細については,『**モデル管理**』の「スナップショットを比較」を参照してください。 ➤ ゴールド・マスタ CI の設定を，同じ CI タイプのほかの CI，または同じ CI タイプの子と比較します。詳細については,『**モデル管理**』の「ゴールド・マスタ レポート」を参照してください。

メニュー・オプション	説明
［レポート］	レポート・ページが開きます。このページでは次の作業を行うことができます。 ➤ 選択されたビュー内の CI とその属性値のアセットレポートを表示します。詳細については,『**モデル管理**』の「アセット・レポート」を参照してください。 ➤ プロパティが「**変更をモニタ**」または「**比較可能**」とマークされている CI に加えられた変更に関して，変更レポートに情報を表示します。詳細については,『**モデル管理**』の「変更レポート」を参照してください。 ➤ **依存関係**タイプの関係を使用するエンリッチメント・マネージャで作成された TQL に基づく，ホスト依存関係レポートを表示します。詳細については,『**モデル管理**』の「ホスト依存関係レポート」を参照してください。 ➤ TQL の選択したレポート・ノードに関する情報を表示するトポロジ・レポートを表示します。詳細については,『**モデル管理**』の「トポロジ・レポート」を参照してください。

メニュー・オプション	説明
［概要レポート］	概要レポート・ページが開きます。このページでは次の作業を行うことができます。 ➤ 変更済みアプリケーション・レポートに棒グラフを表示します。これは定義された期間中にアプリケーションで検出された変更件数を示します。 ➤ 変更済みビューに棒グラフを表示します。これは定義された期間中に特定のビューで発生した変更件数を示します。 ➤ CMDB 使用率レポートに一般的な CMDB 統計を表示します。 ➤ データベース・ブレークダウン・レポートに円グラフを表示します。これはデータベースのタイプとバージョンのブレークダウンを示します。 ➤ 削除候補の概要レポートに棒グラフを表示します。これは一定時間内に削除されたか，削除される予定の CIT および関係を示します。 ➤ 次の項目による CI タイプの内訳を示す円グラフが表示されます。 　➤ CI タイプ・ツリーの選択した CI タイプでグループ化される CIT 　➤ CI タイプの属性 ➤ ホスト O/S ブレークダウン・レポートにオペレーティング・システムのブレークダウンを表示します。 ➤ メジャー・アプリケーション・タイプ・ブレークダウン・レポートに，主なアプリケーションとそのバージョンのブレークダウンを表示します。 ➤ ネットワーク・デバイス・ブレークダウン・レポートに，ネットワーク・デバイスのブレークダウンを表示します。 ➤ 変更数レポートに棒グラフを表示します。これは定義された期間中に検出された CIT の変更件数を示します。 これらのレポートの詳細については，『**モデル管理**』の「概要レポート」を参照してください。

［ヘルプ］メニュー

HP Universal CMDB の［ヘルプ］メニューから，次のオンライン・リソースにアクセスします。

- **［このページのヘルプ］**：現在のページまたはコンテキストを説明するトピックへの UCMDB ヘルプが開きます。
- **［UCMDB ヘルプ］**：ドキュメントのホーム・ページが開きます。このホーム・ページには，主なヘルプ・トピックへのクイック・リンクが含まれます。
- **［トラブルシューティングとナレッジ ベース］**: HP ソフトウェア・セルフ・ソルブ技術情報の待ち受けページへのリンクがある HP ソフトウェア･サポート Web サイトが開きます。この Web サイトの URL は **http://support.openview.hp.com/support.jsp** です。
- ［**HP ソフトウェア サポート］**: HP ソフトウェア・サポート・オンラインを開きます。このサイトでは，技術情報の閲覧や記事の投稿，ユーザ・ディスカッション・フォーラムへの参加と検索，サポート要求の送信，パッチやアップデートされたドキュメントのダウンロードなどが行えます。この Web サイトの URL は **http://support.openview.hp.com/support.jsp** です。
- ［**HP ソフトウェア Web サイト］**：［HP Software の Web サイト］が開きます。HP ソフトウェアの製品とサービスに関する情報やリソースが含まれます。この Web サイトの URL は **http://www.hp.com/country/us/en/prodserv/managementsoftware** です。
- **［新機能］:**当該バージョンの新機能と改良点を説明する新情報ドキュメントが開きます。
- ［**DDM Content ヘルプ**］:『**Discovery and Dependency Mapping Content Guide**』(英語版）が開きます。
- ［**HP ライブ ネットワーク**］: このサイトでは, Discovery and Dependency Mapping Content Pack をダウンロードできます。ログインするには HP Passport のユーザ名とパスワードが必要です。この Web サイトの URL は https://h20090.www2.hp.com/ です。
- **［HP Universal CMDB の バージョン情報**］: バージョン，ライセンス，パッチ，およびサードパーティの通知情報を表示する［HP Universal CMDB］ダイアログ・ボックスが開きます。

注：高可用性の詳細については『**HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド**』（PDF）を参照してください。

第4章

Lightweight シングル・サインオン認証 – 全般的な参照情報

本章では，LW-SSO バージョン 2.2 に適用される Lightweight シングル・サインオン (LW-SSO) 認証の全般的な参照情報を提供します。

本章の内容

概念

➤ Lightweight シングル・サインオンについて（40 ページ）

タスク

➤ Web シングル・サインオン – 使用例（40 ページ）

参照先

➤ LW-SSO のシステム要件（42 ページ）

➤ HP LW-SSO に統合された製品（43 ページ）

➤ LW-SSO の制限事項（43 ページ）

➤ LW-SSO のセキュリティに関する警告（47 ページ）

➤ LW-SSO の重要情報（49 ページ）

➤ LW-SSO のトラブルシュ - ティング（50 ページ）

Lightweight シングル・サインオンについて

シングル・サインオンは，一度ログオンしたユーザであれば，再びログオンせずに複数のソフトウェア・システムのリソースにアクセスできるようにするアクセス制御方法の 1 つです。設定されたソフトウェア・システムのグループに属するアプリケーションは，認証されていることを信用しているため，アプリケーションから別のアプリケーションに移動するときにさらに認証処理を行う必要がありません。

Web シングル・サインオン – 使用例

本項では，Web 経由での LW-SSO の使用例を示します。

本項の内容

- 40 ページ「ログインの使用例」
- 41 ページ「ログアウトの使用例」
- 41 ページ「アプリケーションによる要求のセキュリティ・チェック」

ログインの使用例

次に，ログインの使用例を示します。

1. アプリケーションがユーザを認証します。
2. アプリケーションは，**SecurityContextFactory** メソッドの 1 つを使用してユーザ・コンテキストを作成します。

```
// The application creates user context with SecurityContextFactory.
// Please find below one example. Application can use any API of
SecurityContextFactory
String userName = "Bob";
SecurityContextFactory factory =
SecurityContextFactoryUtils.getSecurityContextFactory();
SecurityContext securityContext = factory.createSecurityContext(userName);
```

3. アプリケーションがシングル・サインオンを有効にします。

```
LWSSOUtils.enableSSO(servletRequest, servletResponse, securityContext);
```

注：LW-SSO 統合アプリケーションで使用する，最も弱いタイプの認証フレームワークにより，アプリケーションすべての認証セキュリティ・レベルが決まります。強力で安全な認証フレームワークを使用するアプリケーションの場合のみ，LW-SSO トークンを発行することをお勧めします。

ログアウトの使用例

ログアウトは LW-SSO で宣言されます。ログアウト・ページは，LW-SSO インフラストラクチャ設定ファイルで設定されます。

アプリケーションからログアウト URL が要求されると，LW-SSO によりセキュリティ・コンテキストが消去されます。

アプリケーションによる要求のセキュリティ・チェック

LW-SSO では，**isRequestSecured** 関数を使用して，要求が安全かどうかを確認します。この関数を使用するのは，**LWSSOUtils.getSecurityContext** から **null** の値が返され，アプリケーションが次のような状況で判断を必要とする場合です。

- ユーザが，アプリケーションで保護されたリソースに認証なしでアクセスしようとしていて，ログイン画面が表示されている。
- ユーザが，ログイン・ページまたは保護されていないリソース (ヘルプ・ドキュメントなど) にアクセスしようとしている。

```
boolean isSecured = LWSSOUtils.isRequestSecured(servletRequest);
```

標準設定では，URL はすべて保護されていますが，LW-SSO インフラストラクチャは，保護されていない URL で設定されます。

ユーザが，保護されていない URL にアクセスすると，関数から **false** の値が返されます。

保護された URL にアクセスすると，関数から **true** の値が返されます。

注： このような方式で，LW-SSO Filter を使用した場合のみ，正しい答えが返されます。

LW-SSO のシステム要件

アプリケーションごとの LW-SSO 設定要件は，次のとおりです。

［アプリケーション］	［バージョン］	［コメント］
Java	1.5 以上	該当なし
HTTP サーブレット API	2.1 以上	該当なし
Internet Explorer	6.0 以上	ブラウザで, HTTP セッション cookie と HTTP 302 リダイレクト機能を有効にする必要あり
FireFox	2.0 以上	ブラウザで, HTTP セッション cookie と HTTP 302 リダイレクト機能を有効にする必要あり
Jboss 認証	Jboss 4.0.3 Jboss 4.3.0	
Tomcat 認証	スタンドアロン Tomcat 5.0.28 スタンドアロン Tomcat 5.5.20	該当なし

[アプリケーション]	[バージョン]	[コメント]
Acegi 認証	Acegi 0.9.0 Acegi 1.0.4	該当なし
Web サービス・エンジン	Axis 1 - 1.4 Axis 2 - 1.2 JAX-WS-RI 2.1.1	該当なし

HP LW-SSO に統合された製品

現在 LW-SSO に統合されている HP 製品は，次のとおりです。

HP 製品	バージョン
HP Universal CMDB	8.03
NNMi および SPi	8.11
Operations Orchestration	7.5
SAR (Service Automation Reporter)	7.5
SiteScope	10.0
Release Control	4.10

LW-SSO の制限事項

本項では，LW-SSO 設定の制限事項について説明します。

- **アプリケーションへのアクセス :**
  - **ドメインが LW-SSO 設定で定義されている場合 :**
    - クライアントは, ログイン URL で FQDN (完全修飾ドメイン名) を持つアプリケーション (例: http://myserver.companydomain.com:8080/WebApp) にアクセスする必要があります。
    - LW-SSO では，IP アドレスによる URL，またはドメインを持たない URL はサポートされていません。

- **ドメインが LW-SSO 設定で定義されていない場合 :**

  クライアントは，ログイン URL で FQDN を持たないアプリケーションにアクセスできます。

  注 : この場合，ドメイン情報を持たない単一のマシン専用に，LW-SSO のセッション cookie が作成されるため，ブラウザ間で委任が発生したり，同じ DNS ドメインにある別のコンピュータに渡されることはありません。つまり，SSO は同じドメインで機能しません。

- **LW-SSO フレームワークの統合 :**

  アプリケーションで LW-SSO の機能を活用できるのは，あらかじめ LW-SSO フレームワーク内に統合されている場合のみです。

- **JAAS Realm:**

  Tomcat の JAAS Realm はサポートされていません。

- **Tomcat ディレクトリでのスペースの使用 :**

  Tomcat ディレクトリでのスペースの使用はサポートされていません。

  Tomcat のインストール・パス (フォルダ) にスペースが含まれている場合 (［Program Files］など)，および LW-SSO 設定ファイルが Tomcat の common¥classes フォルダに置かれている場合，LW-SSO を使用できません。

- **ロード・バランサの設定 :**

  LW-SSO によりデプロイされたロード・バランサは，セッション維持を使用するよう設定する必要があります。

- **マルチドメインのサポート :**
  - マルチドメイン機能は, HTTP リファラに基づいています。そのため LW-SSO では，アプリケーション間のリンクはサポートされていますが，2 つのアプリケーションが同じドメインにある場合を除き，ブラウザ・ウィンドウへの URL の入力はサポートされていません。
  - 最初のクロス・ドメイン・リンクに **HTTP POST** を使用することはサポートされていません。

    マルチドメイン機能では，最初のアプリケーションから 2 番目のアプリケーションへ **HTTP POST** を要求することはサポートされていません (**HTTP GET** 要求のみサポートされています)。たとえば，最初のアプリケーションから 2 番目のアプリケーションへの HTTP リンクがある場合，**HTTP GET** 要求はサポートされていますが，**HTTP FORM** 要求はサポートされていません。2 回目以降の要求は，すべて **HTTP POST** か **HTTP GET** のいずれかです。
  - LW-SSO トークンのサイズ :

    LW-SSO が，あるドメインのアプリケーションから別のドメインのアプリケーションに転送できる情報量は，15 グループ/ロール/属性までに制限されています (各項目は平均 15 文字長)。
  - マルチドメイン・シナリオでの，保護されたページ (HTTPS) から保護されていないページ (HTTP) へのリンク :

    保護されたページ (HTTPS) から保護されていないページ (HTTP) にリンクする場合，マルチドメインは機能しません。これはブラウザの制限事項の 1 つです。この場合，保護されたリソースから保護されていないリソースにリンクするときに，Referrer ヘッダが送信されません。具体例については，http://support.microsoft.com/support/kb/articles/Q178/0/66.ASP を参照してください。
  - サードパーティ cookie の Internet Explorer での動作 :

    Microsoft Internet Explorer 6 には, P3P (Platform for Privacy Preferences) プロジェクトをサポートするモジュールが含まれています。そのため，サードパーティ・ドメインの cookie は，標準設定で［インターネット］セキュリティ・ゾーンでブロックされています。IE では，セッションの cookie もサードパーティ cookie とみなされるため，セッションの cookie もブロックされてしまい，LW-SSO が機能しません。詳細については，http://support.microsoft.com/kb/323752/ja-jp を参照してください。

この問題を解決するには，起動したアプリケーション (または *.mydomian.com などの DNS ドメイン・サブセット) を，コンピュータの［イントラネット］または［信頼済みサイト］ゾーンに追加します (Microsoft Internet Explorer の場合，メニューから［**ツール**］＞［**インターネット オプション**］＞［**セキュリティ**］＞［**イントラネット**］＞［**サイト**］＞［**詳細設定**］をクリックします)。こうすることで，cookie が許可されます。

重要: LW-SSO のセッション cookie は，ブロックされているサードパーティアプリケーションで使用する cookie の 1 つにすぎません。

➤ **SAML2 トークン**:

➤ SAML2 トークンを使用する場合，ログアウト機能がサポートされません。

そのため，SAML2 トークンを使用して 2 番目のアプリケーションにアクセスすると，最初のアプリケーションからログアウトするユーザが，2 番目のアプリケーションからログアウトされません。

➤ SAML2 トークンの期限切れは，アプリケーションのセッション管理に反映されません。

そのため，SAML2 トークンを使用して 2 番目のアプリケーションにアクセスする場合，アプリケーションのセッション管理が個別に処理されます。

➤ **セキュリティ・コンテキスト**:

LW-SSO のセキュリティ・コンテキストでは，1 つの属性名につき 1 つの属性値のみがサポートされています。

そのため，SAML2 トークンから，同じ属性名の値が複数送信されても，LW-SSO フレームワークで許可される値は 1 つのみです。

➤ **Internet Explorer 7 を使用したマルチドメインのログアウト機能**:

Internet Explorer 7 を使用していて，アプリケーションのログアウト手順で，3 回連続 HTTP 302 リダイレクトの動作が呼び出されると，マルチドメインのログアウトに失敗する場合があります。

このようなシナリオでは，Internet Explorer 7 で HTTP 302 リダイレクトの応答が正しく処理されず，［Internet Explorer ではこのページは表示できません］というエラー ページが表示される場合があります。

回避策として推奨されるのは，アプリケーションのログアウト手順で，できるだけリダイレクト・コマンドの数を少なくすることです。

➤ **LW-SSO デモ・モードを使用する場合 :**

LW-SSO では，アプリケーション間のリンクはサポートされていますが，デモ・モードを使用する場合，HTTP リファラ・ヘッダが存在しないため，ブラウザ・ウィンドウへの URL の入力はサポートされていません。

LW-SSO のセキュリティに関する警告

本項では，LW-SSO 設定に関するセキュリティの警告について説明します。

➤ **必要な場合のみ LW-SSO を有効化 :**

特に必要な場合を除き，LW-SSO を無効にする必要があります。

➤ **認証セキュリティのレベル :**

最も弱いタイプの認証フレームワークを使用し，他の統合アプリケーションで信頼されている LW-SSO トークンを発行するアプリケーションにより，アプリケーション全体の認証セキュリティ・レベルが決まります。

強力で安全な認証フレームワークを使用するアプリケーションの場合のみ，LW-SSO トークンを発行することをお勧めします。

➤ **LW-SSO の InitString 機密パラメータ :**

LW-SSO では，対称暗号化方式を使用して LW-SSO トークンを検証および作成します。設定内にある **initString** パラメータは，秘密鍵の初期化に使用します。アプリケーションでトークンが作成され，同じ initString パラメータを使用するアプリケーションにより，トークンが検証されます。

注 :

- initString パラメータの設定を行わずに LW-SSO を使用することはできません。
- initString パラメータは機密情報なので，公開，転送，永続性などの点で慎重に扱う必要があります。
- initString パラメータは，LW-SSO を使用して相互に統合されたアプリケーション間でのみ共有する必要があります。
- initString パラメータは，12 文字以上にすることをお勧めします。

- **対称暗号化方式の意味 :**

  LW-SSO では，対称暗号化方式を使用して LW-SSO トークンを発行および検証します。そのため，LW-SSO を使用するアプリケーションから，同じ initString パラメータを共有する，その他すべてのアプリケーションに信頼されたトークンを発行できます。initString を共有するアプリケーションが，信頼されていない場所に置かれているか，またはそのような場所からアクセスできる場合，リスクが発生する場合があります。

- **ユーザ・マッピング (同期):**

  LW-SSO フレームワークでは，統合アプリケーション間のユーザ・マッピングが保証されていません。そのため，統合アプリケーションでユーザ・マッピングを監視する必要があります。すべての統合アプリケーションで，同じユーザ・レジストリ (LDAP/AD など) を共有することをお勧めします。

  ユーザのマッピングに失敗すると，セキュリティ違反が発生し，さまざまなアプリケーションの複数ユーザに同じユーザ名が割り当てられるなど，アプリケーションの動作不良が発生する場合があります。

  さらに，ユーザがあるアプリケーション (AppA) にログオンしてから，コンテナ認証またはアプリケーション認証を使用する別のアプリケーション (AppB) にアクセスすると，ユーザのマッピングに失敗した場合に，ユーザが手動で AppB にログオンし，ユーザ名を入力する必要があります。ユーザが AppA へのログオンに使用していたのとは別のユーザ名を入力した場合，次のような予期せぬ動作が発生する場合があります。その後ユーザが AppA または AppB から第 3 のアプリケーション (AppC) にアクセスすると，AppA または AppB へのログオンに使用していたユーザ名で，AppC にアクセスしてしまいます。

- **デモ・モードの LW-SSO:**
  - LW-SSO のデモ・モードは，デモ目的の場合のみ使用してください。
  - デモ・モードは，保護されていないネットワークでのみ使用してください。
  - **実運用**モードで**デモ・モード**を使用しないでください。実運用モードとデモ・モードを併用しないでください。

LW-SSO の重要情報

本項では，LW-SSO に関する重要情報について説明します。

- **LW-SSO トークンの期限 :** LW-SSO トークンの期限の数値により, アプリケーションのセッションの有効性が判断されます。そのため，期限の数値は，アプリケーションのセッション期限の数値と同じか，またはそれよりも大きな値にする必要があります。
- **LW-SSO トークンの期限の推奨設定 :** LW-SSO を使用するアプリケーションごとに，トークンの期限を設定する必要があります。推奨値は 60 分です。高度なセキュリティを必要としないアプリケーションの場合，値を 300 分に設定できます。
- **GMT 時間 :** LW-SSO に統合されているアプリケーションでは, すべて同じ GMT 時間を使用し，最大誤差を 15 分に抑える必要があります。
- **マルチドメイン機能 :** マルチドメイン機能では, LW-SSO 統合に含まれるアプリケーションを，別の DNS ドメインのアプリケーションに統合する必要がある場合，それらすべてのアプリケーションで **protectedDomains** を設定する必要があります。さらに，設定の **lwsso** 要素に正しいドメインを追加する必要があります。
- **URL 機能のセキュリティ トークンの取得:** 他のアプリケーションの URL に対する**セキュリティ トークン**として送信された情報を取得するには，ホスト・アプリケーション設定の **lwsso** 要素で，正しいドメインを設定する必要があります。

LW-SSO のトラブルシュ -ティング

次の表に，LW-SSO で発生する可能性のある潜在的な問題と，考えられる解決策について説明します。

本項の内容

➤ 50 ページ「LW-SSO 関連の使用例」

➤ 53 ページ「SAML2 関連の使用例」

LW-SSO 関連の使用例

問題	考えられる原因	考えられる解決策
LW-SSO cookie がログイン後に作成されない。	ドメインが設定の LW-SSO 要素で正しく定義されていない。	LW-SSO 要素で定義されたドメインが，アプリケーションのドメインと一致していることを確認してください。
	パラメータとして **enableSSO** 関数に渡されたドメインが間違っている。	パラメータとして **enableSSO** 関数に渡されたドメインが, アプリケーションのドメインと一致していることを確認してください。
	ドメインが LW-SSO 設定で定義されているのに，ログイン URL で FQDN (完全修飾ドメイン名) を持つアプリケーションにアクセスしていない。例: http://192.168.12.13/WebApp。	ログイン URL で FQDN (完全修飾ドメイン名) を持つアプリケーションにアクセスしていることを確認してください。例: http://myserver/companydomain.com/WebApp。
LW-SSO で AutoCookieCreation 関数の cookie を作成できない。	ドメインが設定の LW-SSO 要素で正しく定義されていない。	LW-SSO 要素で定義されたドメインが，アプリケーションのドメインと一致していることを確認してください。

問題	考えられる原因	考えられる解決策
LW-SSO トークンが検証されていない。	2 つのアプリケーションで，設定の crypto 要素 (または他の crypto パラメータ) に異なる **initString** パラメータがある。	(LW-SSO の creation 要素にある, その他すべての crypto パラメータのほかに) 両方のアプリケーションで同じ **initString** を使用してください。
	一部のアプリケーションで，GMT 時間の誤差が 15 分以上になっている。	LW-SSO に統合されているアプリケーションが，すべて同じ GMT 時間に設定されていて, 最大誤差が 15 分になっていることを確認してください。
	ドメインが設定の LW-SSO 要素で定義されていないため，同じ DNS ドメインで別のコンピュータにあるアプリケーションにアクセスしている。	ドメインを LW-SSO 要素に追加し，定義されたドメインがアプリケーションのドメインと一致していることを確認してください。

問題	考えられる原因	考えられる解決策
LW-SSO が, マルチドメイン環境で LW-SSO トークンを検証できない。	いずれかのアプリケーションの設定で，ドメインが LW-SSO 要素で正しく定義されていない。	アプリケーション設定の LW-SSO 要素で定義されたドメインは, 使用中の実ドメインに基づいて, アプリケーションのドメインと同じである必要があります。
	いずれかのアプリケーションの設定で，ドメインが protectdDomains リストで正しく定義されていない。	すべてのアプリケーションの設定で，protectedDomains リストにあるドメインが正しく定義されていることを確認してください。
	Internet Explorer 6.0 または 7.0 ブラウザを使用していて，LW-SSO セッションの cookie がブロックまたは拒否されている。	すべての LW-SSO サーバを，コンピュータの Internet Explorer のセキュリティ・ゾーンで［イントラネット］または［信頼済みサイト］ゾーンに追加します (［**ツール**］＞［**インターネット オプション**］＞［**セキュリティ**］＞［**イントラネット**］＞［**サイト**］＞［**詳細設定**］)。これですべての cookie が許可されます。
	一部のアプリケーションで，設定の crypto 要素 (または他の crypto パラメータ) に異なる initString パラメータがある。	(LW-SSO の creation 要素にある, その他すべての crypto パラメータのほかに) すべてのアプリケーションで同じ initString を使用してください。
	一部のアプリケーションで，GMT 時間の誤差が 15 分以上になっている。	LW-SSO への統合に含まれるアプリケーションが，すべて同じ GMT 時間に設定されていて, 最大誤差が 15 分になっていることを確認してください。
	マルチドメインのリンクが，保護されたリソース (HTTPS) から保護されていないリソース (HTTP) にリンクしている。	ドメイン間のリンクまたはクロスドメインの場合，最初のリンクまたはクロスドメインの要求が，ある保護されたリソース (HTTPS) から別の保護されたリソース (HTTPS) にリンクしていることを確認してください。

SAML2 関連の使用例

問題	考えられる原因	考えられる解決策
LW-SSO から SAML2 トークンを発行できない。	SAML2 作成に必要なキーストア設定が有効ではなく，有効なキーストアを指定していない可能性が高い。	SAML2 作成に必要なキーストア設定が有効で，有効なキーストアを指定していることを確認してください。
	SAML2 作成に必要な privateKeyAlias または privateKeyPassword の設定が有効でない。有効な秘密鍵を指定していない可能性がある。	SAML2 作成に必要な privateKeyAlias または privateKeyPassword 設定が有効で，有効な秘密鍵を指定していることを確認してください。
LW-SSO で SAML2 トークンを検証できない。	SAML2 検証に必要なキーストア設定が有効でない。有効なキーストアを指定していない可能性が高い。	SAML2 検証に必要なキーストア設定が有効で，有効なキーストアを指定していることを確認してください。
	サインインに使用する証明書が，必要な公開鍵の別名とともに，設定したキーストアにインポートされていない。公開鍵の別名は, SAML2 検証設定で設定する場合と, SAML2 トークンに発行元から渡されている場合があります。	サインインに使用する証明書が，必要な公開鍵の別名とともに，設定したキーストアにインポートされていることを確認してください。
LW-SSO ですべてのロールまたはグループを受け入れることができない。	SAML2 設定で定義された要素の roleAttributeName または groupAttributeName が，アプリケーションの設定要素で設定されたものと異なっている。	roleAttributeName および groupAttributeName 要素が，すべてのアプリケーション設定で SAML2 設定と等しく定義 されていることを確認してください。

第 5 章

JMX コンソールを使った作業

本章では，JMX コンソールへのログイン方法，コンソールを使った作業，およびユーザ名とパスワードの変更方法について詳しく説明します。

本章の内容

タスク

- JMX コンソールへのアクセス（55 ページ）
- JMX 操作の実行（56 ページ）
- ユーザ名またはパスワードの変更（56 ページ）

JMX コンソールへのアクセス

JMX コンソールにアクセスするには，JMX コンソール認証アカウント情報を入力する必要があります。標準設定値は次のとおりです。

- ログイン名 = **admin**
- パスワード = **admin**

ユーザ名とパスワード変更の詳細については，56 ページ「ユーザ名またはパスワードの変更」を参照してください。

JMX 操作の実行

次の手順では，JMX コンソールを使った作業方法について説明します。

a Web ブラウザを起動し，アドレスに http://localhost<ドメイン名>:8080/jmx-console と入力します。

ユーザ名とパスワードでのログインが必要な場合もあります。

b 使用するサービスを見つけ，リンクをクリックして［JMX MBEAN View］ページを開きます。

c 操作を見つけて，必要に応じて適切なパラメータの値を入力します。

d ［**Invoke**］をクリックして操作を実行します。

ユーザ名またはパスワードの変更

標準設定のユーザ名またはパスワードを変更するには，次の手順を実行します。

1 次の場所にある関連するプロパティ・ファイルにアクセスします。

<サーバ名>¥hp¥UCMDB¥UCMDBServer¥j2f¥EJBContainer¥server¥mercury¥conf¥props¥jmx-console-users.properties

構文はこのファイル内で **username=password** と表示されています。

2 username または password を変更してファイルを保存します。

注： このファイルは暗号化されておらず，プロパティ・ファイルへの不正アクセスにつながる可能性があります。不正アクセスを防ぐには，選択したユーザのみにアクセスを許可するよう props ディレクトリを設定します。

---

3 この変更を次のファイルに実装します。

➤ **¥hp¥UCMDB¥UCMDBServer¥j2f¥conf¥jmxsecurity.txt**

構文はこのファイル内で **username password** と表示されています。username または password を変更してファイルを保存します。

➤ **¥hp¥UCMDB¥UCMDBServer¥j2f¥AppServer¥webapps¥myStatus.war¥myStatus.html**

次の構文を見つけます。

```
oReq.open("GET", url, false,"admin","admin");
```

ここで

"admin","admin" がユーザ名とパスワードです。

ユーザ名またはパスワードを変更してファイルを保存します。

第 II 部

HP Universal CMDB を使った作業

第 6 章

レポートでの作業

本章では，レポートでの作業の主要概念，タスク，および参照情報について説明します。

本章の内容

概念

- レポートでの作業 - 概要（62 ページ）
- レポートの生成（62 ページ）
- レポートの発行（63 ページ）
- レポートの注釈（64 ページ）
- Adobe Flash Player を使用したレポートの表示（64 ページ）

タスク

- レポートの生成（65 ページ）
- PDF へのエクスポート時のフォントの有効化（68 ページ）

参照先

- レポートでの作業のユーザ・インタフェース（69 ページ）

トラブルシューティングおよび制限事項（88 ページ）

レポートでの作業 - 概要

レポートは，監視対象の環境の状況を追跡して分析するのに役立つグラフと表で構成されています。レポートの表示と生成に加え，ドリルダウンや各種フィルタ条件を適用して，パフォーマンスの傾向を調査し，パフォーマンスの問題点の原因を突き止めます。

レポートを使って，HP Universal CMDB によって収集されたデータを調査，分析できます。レポートの生成時には，時間範囲や位置などのさまざまなレポート設定を指定できます。

ナビゲーション機能の詳細については，『**モデル管理**』の「ツールバー・オプション」を参照してください。

注釈ツールを使用して，選択したレポートのスナップショットを生成できます。これにより，レポートの重要な領域を強調表示できます。詳細については，64 ページ「レポートの注釈」を参照してください。

一部のユーザ・インタフェース要素は，ほとんどのレポート・ページで共通です。詳細については，75 ページ「共通のレポート要素」を参照してください。

レポートの生成

レポートを生成し，整理された形式でデータを受け取ることができるようにします。一部のレポートは初期状態で自動的に生成されますが，それ以外はレポートの条件を指定し，手動でレポートを生成する必要があります。レポートの生成に使用される，ほとんどのレポートに共通のレポート要素の一覧については，75 ページ「共通のレポート要素」を参照してください。

レポートを生成する時間範囲を設定できます。レポートの時間範囲の設定の詳細については，87 ページ「時間範囲バー」を参照してください。

また，HP Universal CMDB で作業をしないユーザ向けに，さまざまなオプションを選択してレポートを発行できます。レポートの発行の詳細については，63 ページ「レポートの発行」を参照してください。

レポートの発行

HP Universal CMDB で作業をしないためレポートの作成方法がわからないユーザが参照できる最新のレポートを生成できます。ただし，ユーザがレポートを表示するには，HP Universal CMDB へのネットワーク接続が必要です。レポートを CSV 形式，Excel 形式，XML 形式，または印刷用の形式で発行し，ユーザに (通常は電子メールで) 送信します。

レポートには，レポートにアクセスした時点の更新データが含まれています。たとえば，過去 1 か月 (2005 年 10 月 24 日午前 8:00 ～ 2005 年 11 月 21 日午前 8:00) のレポートを準備し，そのレポートを発行し，そのレポートの URL または HTML ファイルをユーザに送信したとします。ユーザが 1 週間後 (2005 年 11 月 28 日) にそのレポートにアクセスすると，レポートにはその時点の更新された過去 1 か月 (2005 年 10 月 31 日午前 8:00 ～ 2005 年 11 月 28 日午前 8:00) のデータが表示されます。

［カスタム］オプションを使用して指定期間を定義した場合，ユーザがどの時点でレポートにアクセスしても，レポートには常にユーザ定義の指定期間が反映されたデータが表示されます。

絶対的な追跡期間 (時間，日，月など) を使用するレポートを公開しても役に立たない可能性がある場合は，相対的な追跡期間 (過去 1 か月，月の始まりから現在までなど) を使用するレポートを発行することもできます。

レポートを発行する方法として，URL と HTML のいずれかを選択できます。URL を使用すると，**GET** メソッドを使ってフォームが送信されます (推奨)。HTML を使用すると，**POST** メソッドを使ってフォームが送信されます。

ヒント： レポートの発行時に，ユーザがレポートにアクセスした時点のデータが表示されるように，追跡期間を選択します。たとえば，プロファイルによって追跡されているモニタが監視を開始したばかりで，データを表示するようレポートを設定している場合は，モニタの動作時にデータを表示するようレポートを設定したことを確認します。このように設定しなければ，ユーザのレポートにはデータが表示されません。

レポート発行のためのユーザ・インタフェースの詳細については，81 ページ「［レポートを発行］ダイアログ・ボックス」を参照してください。

レポートの注釈

注釈ツールは表示しているレポートのスナップショットを作成します。また，スナップショットに図形や線を描画したりテキストを追加したりして，レポートの重要な領域を強調表示できます。注釈が追加されたレポートは，レポートの特別な領域を他者に対して強調して伝えたり，レポート・マネージャにアップロードしたり，ローカル・ディレクトリに保存したりできます。

注釈ツールには，ページの右側の［**結果をキャプチャして注釈を追加**］ボタンをクリックしてアクセスできます。

注釈を使用して次のアクションを実行できます。

- 注釈の印刷
- 注釈のスナップショットを .png 形式でローカル・マシンに保存
- 電子メールを使用して注釈を送信

注釈作成のユーザ・インタフェースの詳細については，69 ページ「［注釈ツール］ウィンドウ」を参照してください。

Adobe Flash Player を使用したレポートの表示

HP Universal CMDB では，選択したレポートで Adobe Flash Player 技術を使用してレポートのグラフを描画することにより，情報の流れを制御し，興味を引くレポートにすることができます。

Flash Player バージョン 8 またはそれ以降がマシンにインストールされている必要があります。インストールされていない場合は，Flash Player をダウンロードする手順を示すメッセージがブラウザに表示されます。

Flash レポートの円グラフには，ショートカット・メニューから使用できる次の機能があります。

- ［**Enable Rotation**］：このオプションが選択されている場合は，クリック・アンドドラッグで円を回転できます。［**Enable Slicing Movement**］と切り替えて使用します。
- ［**Enable Slicing Movement**］：このオプションが選択されている場合は，円グラフの項目をクリックしてメインの円グラフから引き出すことができます。［**Enable Rotation**］と切り替えて使用します。
- ［**View 2D/View 3D**］：必要に応じてこれらのオプション同士を切り替えます。

レポートの生成

このタスクでは，レポートを生成し，監視対象の環境の状況を追跡して分析する方法について説明します。

このタスクの手順は次のとおりです。

- 65 ページ「レポート・ページへのアクセス」
- 65 ページ「時間範囲の選択」
- 65 ページ「レポートのパラメータの設定」
- 66 ページ「フィルタをお気に入りに保存」
- 67 ページ「結果」

1 レポート・ページへのアクセス

レポートを設定する適切なレポート・ページにアクセスします。レポートのコンテキストの詳細については,「第 III 部: アプリケーション」を参照してください。

2 時間範囲の選択

レポートを生成するときは，レポートを表示する時間範囲を選択します。レポートの時間範囲の設定の詳細については，87 ページ「時間範囲バー」を参照してください。

3 レポートのパラメータの設定

レポートのパラメータを設定します。レポートの設定に使用される，ほとんどのレポートに共通のさまざまな要素の詳細については，75 ページ「共通のレポート要素」を参照してください。

例

a 時間範囲バーでレポートの時間範囲を選択します。

b 必要に応じて，次から選択します。

- ［**形式**］ボタンをクリックして，レポート生成時に使用する形式を選択します。
- ［**エクスポート**］ボタンをクリックして，レポート・データを転送する形式を，電子メール経由または発行から選択します。
- レポートに注釈を追加します。レポートに注釈のユーザ・インタフェースの詳細については，69 ページ「［注釈ツール］ウィンドウ」を参照してください。
- レポートに対してお気に入りのフィルタを設定します。このタスクを実行するためのユーザ・インタフェースの詳細については，86 ページ「［お気に入りにフィルタを保存］ダイアログ・ボックス」を参照してください。

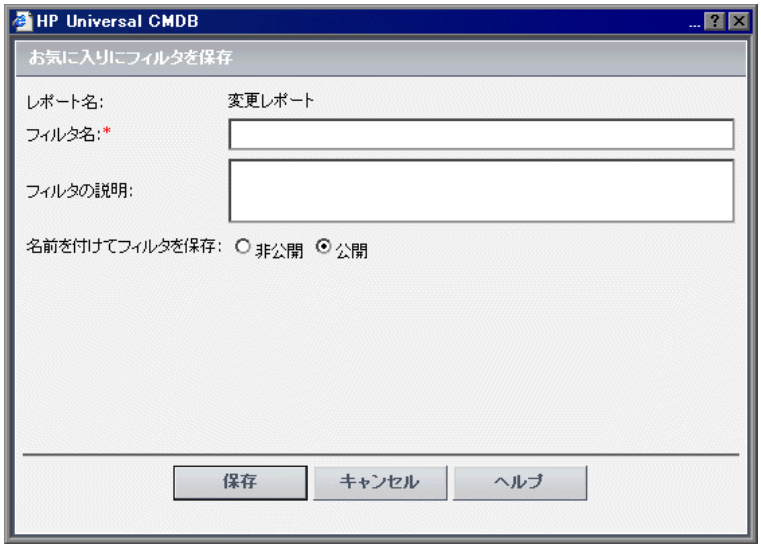
c ［**生成**］をクリックして，レポートを生成します。

4 フィルタをお気に入りに保存

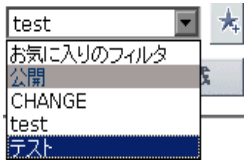
必要に応じて，設定したレポート・フィルタを保存して，ほかのレポートの生成に再度使用できます。お気に入りのフィルタの設定のユーザ・インタフェースの詳細については，86 ページ「［お気に入りにフィルタを保存］ダイアログ・ボックス」を参照してください。

例

画面の右側にある［**お気に入りのフィルタ**］ボタンをクリックして，［お気に入りにフィルタを保存］ダイアログ・ボックスを開きます。



保存したら，［お気に入りのフィルタ］ドロップダウン・リストで，指定したアクセス・レベル (［**非公開**］または［**公開**］) の下にフィルタが表示されます。



［お気に入りのフィルタ］を選択して［生成］をクリックし，特定のフィルタのパラメータに従ってレポートを生成します。

5 結果

レポートのパラメータは，レポートの上部の折りたたみ可能な表示枠に表示されます。

レポートに対してお気に入りのフィルタを設定した場合，［お気に入りのフィルタ］ドロップダウンから設定したフィルタを選択できます。選択したフィルタが，新しいレポートを生成するパラメータとして設定されます。

PDF へのエクスポート時のフォントの有効化

Unicode フォントを設定し，レポートを PDF にエクスポートする際にほとんどの言語で文字を表示することもできます。

Unicode フォントは，インフラストラクチャ設定マネージャを使用するか，システムのフォント・ライブラリにフォントをインストールして設定できます。

インフラストラクチャ設定マネージャを使用して Unicode フォントを設定するには，次の手順を実行します。

1 ［**管理**］＞［**設定**］＞［**インフラストラクチャ設定**］に移動します。

2 ［**Foundations**］を選択し，［**レポート生成**］を選択します。

3 ［**レポート生成 - 表示**］テーブルを見つけます。

4 ［**PDF の文字を表示するための Unicode フォント パス**］属性を，サーバ上にある Unicode フォントのパスに変更します。

- Windows の場合 : C:¥Windows¥Font_Location¥arialuni.ttf
- UNIX の場合 :/opt/tmp/arialuni.ttf

フォント・ライブラリを使用して Arial Unicode MS フォントを設定するには，次の手順を実行します。

1 システムのフォント・ライブラリに移動します。

たとえば，Windows の場合は C:¥Windows¥Fonts です。

2 次の Web サイトからフォントをダウンロードします。

http://www.microsoft.com/typography/fonts/family.aspx?FID=24

3 HP Universal CMDB を再起動します。

レポートでの作業のユーザ・インタフェース

本項では，次の項目について説明します。

- 69 ページ「[注釈ツール] ウィンドウ」
- 75 ページ「共通のレポート要素」
- 79 ページ「エクスポート・オプション」
- 85 ページ「形式オプション」
- 86 ページ「[お気に入りにフィルタを保存] ダイアログ・ボックス」
- 87 ページ「時間範囲バー」

[注釈ツール] ウィンドウ

説明	表示しているレポートのスナップショットに注釈を追加して，重要な領域を強調表示できます。 **利用方法:** ページの右側にある [**結果をキャプチャして注釈を追加**] ボタン をクリックします。
重要情報	注釈を保存する場合は，次の点に注意してください。 ➤ スナップショットは .png 形式で保存されます。 ➤ [**マイ ドキュメント**] ディレクトリまたはそのサブ・ディレクトリに保存する場合，[**新規フォルダ**] アイコン は選択できません。
タスクの内容	62 ページ「レポートの生成」
関連リンク	64 ページ「レポートの注釈」

注釈オプション

説明	スナップショットをカスタマイズできる要素です。 **利用方法:** レポート・ページの右側にある [**結果をキャプチャして注釈を追加**] ボタン をクリックします。注釈オプションは [注釈ツール] ウィンドウの左側にあります。
関連リンク	64 ページ「レポートの注釈」

含まれている要素は次のとおりです。

GUI 要素	説明
	スナップショットに移動します。
	スナップショットの特定の領域を選択します。
	スナップショットに図形を追加します。図形ツール・ボタンをクリックすると，次の図形ボタンが有効になります。 ➤ スナップショットの特定の領域を四角形でマークします。 ➤ スナップショットの特定の領域を塗りつぶした四角形でマークします。 ➤ スナップショットの特定の領域を楕円形でマークします。 ➤ スナップショットの特定の領域を塗りつぶした楕円形でマークします。 ➤ スナップショットの特定の領域を角丸四角形でマークします。 ➤ スナップショットの特定の領域を塗りつぶした角丸四角形でマークします。 **カスタマイズ:**このボタンを選択すると，次の各インタフェースを使用して線の外観をカスタマイズできます。 ➤ **［線の種類］：** 追加する線の種類を選択します。次のオプションがあります。 ➤ 実線 ➤ 点線 ➤ **［線の幅］:** 注釈内の線の幅をピクセル単位で選択します。

GUI 要素	説明
	線ツールが有効になります。このツールは，選択したスナップショットの領域を線でマークします。 **カスタマイズ:** このボタンを選択すると，次の各インタフェースを使用して線の外観をカスタマイズできます。 ➤ **[線の種類]:** 追加する線のスタイルを選択します。次のオプションがあります。 ➤ 標準の線 ➤ エンドポイント付きの線 ➤ 矢印付きの線 ➤ **[線の種類]:** 追加する線の種類を選択します。次のオプションがあります。 ➤ 実線 ➤ 点線 ➤ **[線の幅]:** 注釈内の線の幅をピクセル単位で選択します。
	スナップショットにテキストを追加します。 **例:** レポートの特定の領域をマークしている線の上に「This is the problematic transaction」と追加します。

GUI 要素	説明
境界線と塗りつぶしの色	該当の四角形を選択して，注釈の境界線と塗りつぶしの色を選択します。次の四角形を使用できます。 ➤ **上の四角形:** 線ツールで生成し塗りつぶしなしで表示されている図形の線の色を選択します。 ➤ **下の四角形:** 図形を塗りつぶす色を選択します。 どちらの四角形をクリックしても，色を選択する次のタブを含むダイアログ・ボックスが表示されます。 ➤［Swatches］ ➤［HSB］ ➤［RGB］
不透明度	不透明度バーをスライドして，注釈内で選択した図形の線，テキスト行，または図形の色の濃さのレベルを選択します。 **注:** ➤ 不透明度が高いほど，より暗く表示されます。不透明度が低いほど，より明るく表示されます。 ➤ このフィールドは，図形ツール，ライン・ツール，またはテキスト・ツール・ボタンのいずれかが選択された場合に有効です。

メニュー バー

説明	スナップショットに対して選択したアクションを実行できる要素を表示します。 **利用方法:** レポート・ページの右側にある［**結果をキャプチャして注釈を追加**］ボタン をクリックします。 メニュー バーの要素で次の作業ができます。 ➤ スナップショットの外観を変更します。 ➤ 注釈レポートをレポート・マネージャに保存，印刷，電子メールで送信，またはアップロードします。 ➤ スナップショットに追加された注釈のテキストの外観をカスタマイズします。これらの要素は，［**テキスト ツール**］ボタン T が選択されている場合にのみ有効です。
関連リンク	64 ページ「レポートの注釈」

含まれている要素は次のとおりです。

GUI 要素	説明
	スナップショットをローカル・マシンに保存します。 **注:** ➤ スナップショットは .png 形式で保存されます。 ➤ ［**マイ ドキュメント**］ディレクトリまたはそのサブ・ディレクトリに保存する場合，［**新規フォルダ**］アイコン は選択できません。
	スナップショットに追加されたすべての注釈を選択します。
	すべての注釈をクリアします。
	スナップショットに対して実行した最新のアクションを元に戻します。
	スナップショットに対して実行した最新のアクションをやり直します。
	スナップショット・ビューを拡大します。

GUI 要素	説明
	スナップショット・ビューを縮小します。
	スナップショットを元のサイズに戻します。
	スナップショットを印刷します。
	スナップショットを電子メール経由で送信します。
	スナップショットをレポート・マネージャにアップロードします。レポート・マネージャの詳細については，『**モデル管理**』の「レポート マネージャの概要」を参照してください。
	現在表示しているページのヘルプをオンライン ドキュメント・トで表示します。
B	テキストを太字にします。 **注:**このフィールドは，［**テキスト ツール**］ボタン T が選択されている場合にのみ有効です。
I	テキストをイタリック体にします。 **注:** このフィールドは，［**テキスト ツール**］ボタン T が選択されている場合にのみ有効です。
U	テキストを下線付きにします。 **注:** このフィールドは，［**テキスト ツール**］ボタン T が選択されている場合にのみ有効です。
<フォント・ファミリ>	レポート内のテキストのフォントを選択します。 **注:** このフィールドは，［**テキスト ツール**］ボタン T が選択されている場合にのみ有効です。

GUI 要素	説明
<フォント・サイズ>	レポート内のフォントのサイズを選択します。 **注 :** このフィールドは，［**テキスト ツール**］ボタン T が選択されている場合にのみ有効です。
［アンチエイリアス］	テキストまたは注釈行のピクセルの読み込みを調整し，滑らかに表示されるようにします。 **注 :** このフィールドは，［**テキスト ツール**］ボタン T が選択されている場合にのみ有効です。

共通のレポート要素

説明	ほとんどのレポート・ページで共通のオプションです。
重要情報	➤ 次に説明する項目のうちレポート内にあるのは 2 ～ 3 個かもしれません。特定のアプリケーションに固有のレポート要素については，そのアプリケーションのドキュメントの中で説明されています。 ➤ レポートには，後述の説明に示す，指定された要素を含む折りたたみ可能なレポート・フィルタが含まれています。これらの要素の多くは別のレポートでも表示されます。［**最小化**］または［**復元**］ボタンをクリックして，レポート・フィルタをそれぞれ折りたたんだり展開したりします。 **注:** 折りたたみ可能なレポート・フィルタが非表示の場合，フィルタ情報はツールチップで表示できます。ツールチップは，レポート・タイトル・バーにカーソルを置くと表示されます。

含まれている要素は次のとおりです (ラベルのない GUI 要素は山括弧内に表示されます)。

GUI 要素	説明
生成	レポートの条件を指定したら，［**生成**］をクリックしてレポートを生成します (レポートによっては，ページが読み込まれたときに自動的に生成されます)。 一部のレポートは初期状態で自動的に生成されますが，それ以外はレポートの条件を指定し，手動でレポートを生成する必要があります。
	レポートを電子メール経由で送信します。詳細については，79 ページ「［メールの詳細］ダイアログ・ボックス」を参照してください。
1 / 5	データのテーブルやレポートのリストを複数のページに分割します。次のようにして該当するボタンをクリックすることにより，ページ間を移動できます。 ➤ 後の方のレポートを表示するには，**次のページ・ボタン**または**最終ページ・ボタン**をクリックします。 ➤ リストの前の方にあるレポートを表示するには，**前のページ・ボタン**または**最初のページ・ボタン**をクリックします。
	➤ 左向き矢印をクリックし，［**表示期間**］ドロップダウンに表示された精度に従って，レポートの時間範囲を後ろに調整します。 ➤ 右向き矢印をクリックし，［**表示期間**］ドロップダウンに表示された精度に従って，レポートの時間範囲を前に調整します。
	昇順ボタンをクリックして，選択したカラムでアルファベット順のリストを表示します。
	降順ボタンをクリックして，選択したカラムで逆アルファベット順のリストを表示します。
	テーブル・カラムの幅を標準設定に戻します。テーブル・カラムの幅は，カラムの境界線を左右にドラッグして調整できます。

GUI 要素	説明
	［**カラムの選択**］ボタンをクリックして［カラムの選択］ダイアログ・ボックスを開き，テーブルに表示するカラムを選択します。 ［カラムの選択］ダイアログ・ボックスの詳細については，『**参照情報**』の「テーブルを使用した作業」を参照してください。
	［**形式**］ボタンをクリックして，レポートの形式に関するオプションをドリルダウンします。その後レポートをローカル・マシンに保存できます。形式オプションの詳細については，85 ページ「形式オプション」を参照してください。
	［**エクスポート**］ボタンをクリックして，レポートのエクスポートに関するオプションをドリルダウンします。エクスポート・オプションの詳細については，79 ページ「エクスポート・オプション」を参照してください。
	［**結果をキャプチャして注釈を追加**］ボタンをクリックして，レポートをキャプチャして注釈を追加します。レポートの注釈の詳細については，64 ページ「レポートの注釈」を参照してください。
	［**フィルタを保存します**］ボタンをクリックして［お気に入りにフィルタを保存］ダイアログ・ボックスを開き，現在のフィルタをお気に入りのフィルタとして設定します。お気に入りのフィルタの詳細については，86 ページ「［お気に入りにフィルタを保存］ダイアログ・ボックス」を参照してください。
＜現在位置表示リスト＞	ページの最上部に横方向に表示されるページの一覧です。現在のページに到達するまでに移動してきたページが表示されます。 **注 :** 現在位置表示の一覧の各ページは，クリックするとナビゲーションのパスを追跡できるリンクです。

GUI 要素	説明
<カレンダー>	レポートの開始と終了の日，月，年，および特定の期間を設定できます。［カレンダー］ダイアログ・ボックスには，次のボタンも含まれます。 ➤ **［戻す］:** カレンダーを直前に保存された設定に戻します。 ➤ ［現在］: カレンダーを現在の日付と時刻で設定します。 **注:** 設定される日付と時刻は，［カレンダー］ダイアログ・ボックスを開いた時刻に対応します。
<カラー コーディング>	HP Universal CMDB では，レポートに色分けを使用することで，データを有用な方法で整理し，レポートを読みやすいものにしています。 レポートに使用されている色分けの基本的な説明を見るには，レポートに表示される凡例を使用します。特定のレポートと，使用されている色分けの解釈方法の詳細については，そのレポートのドキュメントを参照してください。
<時間範囲バー>	レポート領域の最上部に表示されます。現在選択されているレポートの日付と時間範囲が表示されます。詳細については，87 ページ「時間範囲バー」を参照してください。

エクスポート・オプション

説明	レポートは，電子メールで送信するか，発行することによってエクスポートできます。 **利用方法:** レポート・ページの右側にある［**エクスポート**］ボタン をクリックします。
関連リンク	75 ページ「共通のレポート要素」

GUI 要素	説明
	電子メールを使用してレポートを送信します。詳細については，79 ページ「［メールの詳細］ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	更新されたデータとともにレポートを発行します。詳細については，81 ページ「［レポートを発行］ダイアログ・ボックス」を参照してください。

［メールの詳細］ダイアログ・ボックス

説明	電子メール経由で送信するレポートを設定できます。 **利用方法: ［エクスポート］**ボタン をクリックして，［**電子メール**］を選択します。
重要情報	レポートの内容を電子メール・クライアントに表示するメール・オプションを選択する場合は，電子メール・クライアントが HTML メールに含まれているスクリプトの実行を防ぐセキュリティ制限を指定していないことを確認します。このような制限を指定する電子メール・クライアントは，レポートの内容を正しく表示できない場合があります。
関連リンク	79 ページ「エクスポート・オプション」

含まれている要素は次のとおりです (ラベルのない GUI 要素は山括弧内に表示されます)。

GUI 要素	説明
[コメント]	必要に応じて，適切なコメントを入力します。
[画像を含める]	レポートのすべてのリソース (グラフィックなど) を電子メールに取り込みます。 クリアすると電子メールから画像が削除されます。画像は HP Universal CMDB サーバ上にあります。HP Universal CMDB サーバにアクセスしてレポート用の画像を表示するには，HP Universal CMDB へのネットワーク接続が必要になります。
[返信アドレス]	返信を受信する電子メール・アドレスを入力します。
[Internet Explorer HTML アーカイブファイル (.mht) として送信する]	レポートのすべてのリソース (グラフィックなど) が，MHT 形式をサポートするブラウザ (Microsoft Internet Explorer など) に表示されます。添付ファイルを表示できるようにするために HP Universal CMDB マシンに接続する必要はありません。
[レポートの送信形式]	レポートを送信する形式を指定します。次のオプションから選びます。 ➤ **[HTML メール]** : レポートは電子メール・クライアントに表示されます (電子メール・クライアントは，HTML をサポートし，HTML を表示するよう設定されている必要があります)。 ➤ **[HTML アタッチメント]** : レポートは HTML 形式でブラウザに表示されます。 ➤ **[PDF]** : レポートは PDF 形式で新しいブラウザ・ウィンドウに表示されます。
[件名]	わかりやすいサブジェクトを入力するか, 標準設定値を使用します。
[終了]	レポートの送信先の電子メール・アドレスを入力します。
[Zip されたアタッチメント]	添付ファイルを圧縮形式で送信します。 **注 :** このフィールドは，[**レポートの送信形式**] フィールドで [**HTML アタッチメント**] または [**PDF**] が選択されている場合にのみ使用できます。

［レポートを発行］ダイアログ・ボックス

説明	ほかのユーザの表示向けに，HP Universal CMDB レポートをさまざまな形式で発行できます。 **利用方法:** レポート・ページの右側にある［**エクスポート**］ボタン をクリックして，［**レポートの発行**］ を選択します。
重要情報	レポートを表示するためのログインとログアウトの手順は，ユーザに対して透過的に実行されます。
関連リンク	63 ページ「レポートの発行」

含まれている要素は次のとおりです (ラベルのない GUI 要素は山括弧内に表示されます)。

GUI 要素	説明
[エクスポート形式選択]	レポートのエクスポートの形式を選択します。次のオプションを使用できます。 ➤ **[CSV] :** レポートは，カンマで区切られた値（CSV）のテキスト・ファイル形式に設定されます。これは，スプレッドシードで表示できます。 **注 :** CSV 形式に設定されたレポートを正しく表示するために，区切り文字としてカンマ (,) を定義する必要があります。Windows では，区切り文字の値を確認または変更するには，コントロール・パネルの［地域のオプション］を開いて，［数値］タブでカンマが区切り文字の値として定義されていることを確認します。Solaris では，区切り文字は CSV ファイルを開くアプリケーションで指定できます。 ➤ **[Excel] :** レポートは，スプレッドシートに表示できる .xls (Excel) ファイル形式に整形されます。 **注:** レポート内のすべてのツールチップは，Microsoft Excel 内でコメントに変換されます。大きなツールチップのすべてのテキストを表示するには，セルを右クリックして［コメントを編集］を選択し，コメントを編集します。コメント・ボックスの角をドラッグして，ボックスを拡大します。 ➤ **XML :** レポートは，テキスト・エディタまたは XML エディタで開くことができる XML ファイルとして整形されます。 **ヒント:** レポートから HTML コードを抽出するには，次の手順を実行します。 1. ファイルを HTML 形式で保存します。 2. ファイルを HTML エディタで開きます。 3. 関連するテーブルをターゲット・ファイルにコピーします。 ➤ **[印刷用] :** 印刷向けにレポートが HTML 形式で保存されます。

GUI 要素	説明
[HTML を生成]	レポートを HTML ファイルとして送信します。ファイルを開いたりローカル・マシンに保存したりできます。 **注:** ➤ HTML ファイルでは，ユーザ名とパスワードは暗号化されます。 ➤ ユーザ名とパスワードを HTML ファイルに含めると，ユーザがレポートを閉じたときにユーザも同時にHP Universal CMDB からログアウトします。
[URL を生成]	URL を生成し，生成された［発行 URL］ウィンドウに表示します。 ［**コピー**］をクリックして URL を選択し，電子メールに URL を貼り付けてユーザに送信します。 **注:** ➤ すべてのシステムで URL が読み取られるように, URL の長さを最大長の 2,000 文字 (～ 2K) 以内にすることをお勧めします。 ➤ URL 文字列を変更しないでください。必要な場合は，レポート自体に変更を加えてから，レポートを再発行してください。 ➤ URL ファイルでは，ユーザ名とパスワードは暗号化されます。 ➤ ユーザ名とパスワードを URL ファイルに含めると，ユーザがレポートを閉じたときにユーザも同時に HP Universal CMDB からログアウトします。
[レポートとともに送信するログイン名]	レポートの受信者が HP Universal CMDB にログインしてレポートを表示するためのログイン名です。 **注:** ➤ 標準のログイン名は，現在のセッションで HP Universal CMDB にログインしたときのものです。 ➤ 管理者権限を使ってレポートを発行しないでください。管理者より低い権限を持つユーザに対してログイン名とパスワードを作成することをお勧めします。詳細については，『**モデル管理**』の「［新規ユーザの追加］ウィザード」を参照してください。

GUI 要素	説明
［レポートともに送信するパスワード名］	レポートの受信者が HP Universal CMDB にログインしてレポートを表示するためのパスワードです。 **注:** ➤ 標準のパスワードは，現在のセッションで HP Universal CMDB にログインしたときのものです。 ➤ 管理者権限を使ってレポートを発行しないでください。管理者より低い権限を持つユーザに対してログイン名とパスワードを作成することをお勧めします。詳細については，『**モデル管理**』の「［新規ユーザの追加］ウィザード」を参照してください。

形式オプション

説明	ローカル・マシンに保存するレポートを特定の形式で形式設定できます。 **利用方法:** レポート・ページの右側にある［形式］ボタン をクリックします。
関連リンク	75 ページ「共通のレポート要素」

GUI 要素	説明
	レポートをプリンタに送信します。 **ヒント:** 印刷の前に，プリンタの設定が選択されたフレームのみを印刷し，画面上に表示されたとおりにフレームを印刷しないようになっていることを確認してください。 Microsoft Internet Explorer を使用している場合は，最適な印刷結果が得られるように，［**背景の色とイメージを印刷する**］オプションを有効にしてください (［**ツール**］＞［**インターネットオプション**］＞［**詳細設定**］タブ＞［**印刷**］)。
	PDF 形式のファイルを生成します。 **注 :** PDF ファイルであらゆる言語の文字を表示できるようにするには，サーバ上の適切な Unicode ファイルにアクセスするようにインフラストラクチャ設定マネージャを設定する必要があります。このタスクの実行の詳細については，68 ページ「PDF へのエクスポート時のフォントの有効化」を参照してください。
	CSV 形式のファイルを生成します。 **注 :** CSV 形式に設定されたレポートを正しく表示するために，区切り文字としてカンマ (,) を定義する必要があります。Windows では，区切り文字の値を確認または変更するには，コントロール・パネルから［**地域と言語のオプション**］を開いて，［**数値**］タブでカンマが［**区切り文字**］の値として定義されていることを確認します。Solaris では，CSV ファイルを開くアプリケーションで区切り文字を指定できます。

GUI 要素	説明
	Excel 形式のファイルを生成します。 **注 :** グラフの情報は Microsoft Excel にエクスポートできません。
	XML 形式のファイルを生成します。 **注 :**［**XML**］ボタンはこの機能をサポートするレポートためだけにあります。

［お気に入りにフィルタを保存］ダイアログ・ボックス

説明	現在のフィルタを［お気に入りのフィルタ］のリストに保存できます。これは，作成したフィルタと同じレポート・タイプの新しいインスタンスの生成に使用します。 **利用方法:** レポート・ページの右側にある［フィルタを保存します］ボタン をクリックします。
重要情報	保存したフィルタを表示するには，［お気に入りのフィルタ］ドロップダウン ウィンドウで特定のフィルタを選択します。
タスクの内容	65 ページ「レポートの生成」
関連リンク	62 ページ「レポートの生成」

含まれている要素は次のとおりです。

GUI 要素	説明
［フィルタの説明］	作成するフィルタの詳細を入力します。入力した詳細は，レポート・マネージャの［お気に入りのフィルタ］のリストにのみ表示されます。
［フィルタ名］	作成するフィルタのわかりやすい名前を入力します。

GUI 要素	説明
[レポート名]	お気に入りのフィルタを作成したレポートの名前です。 **注:** このフィールドは編集できません。
[名前を付けてフィルタを保存:]	レポートを保存するアクセス・レベルを選択します。 ➤ **[非公開]:** レポートの作成者のみがフィルタによって生成されたレポートを表示できます。 ➤ **[公開]:** 適切な権限レベルを持つすべてのユーザがフィルタによって生成されたレポートを表示できます。

時間範囲バー

説明	レポートが生成される時間範囲を表示します。 **利用方法:** レポート画面の最上部にアクセスするか，レポートの上部にある［復元］ボタン をクリックして，折りたたみ可能なフィルタ表示枠を開きます。
重要情報	時間範囲によっては，使用できないレポートもあります。
タスクの内容	64 ページ「レポートの注釈」
関連リンク	62 ページ「レポートの生成」

含まれている要素は次のとおりです。

GUI 要素	説明
◀	現在表示している時間枠よりも 1 つ前の時間枠のレポートを表示します。 **例**：［**表示期間**］フィールドの値が［**日**］である場合，このボタンをクリックすると，現在表示しているレポートの 1 日前のデータが表示されます。
▶	現在表示している時間枠よりも 1 つ後の時間枠のレポートを表示します。 **例**：［**表示期間**］フィールドの値が［**日**］である場合，このボタンをクリックすると，現在表示しているレポートの 1 日後のデータが表示されます。
［**開始**］	リンクをクリックしてカレンダーを開き，レポートの開始日付と時刻を設定します。
［**終了**］	リンクをクリックしてカレンダーを開き，レポートの終了日付と時刻を設定します。
［**表示期間**］	レポートを表示する時間範囲を選択します。次の時間範囲を使用できます。 ➤ 過去 1 時間，過去 1 日，過去 1 週間，過去 1 か月，過去 1 四半期，過去 1 年 ➤ 時間，日，週，月，四半期，年 ➤ カスタム（ユーザ定義の期間）

トラブルシューティングおよび制限事項

レポートでの作業のさまざまな分野に関するトラブルシューティングと制限事項を次に示します。

レポートへの注釈の追加

注釈を［**マイ ドキュメント**］ディレクトリまたはそのサブ・ディレクトリに保存する場合，［**新規フォルダ**］アイコンは選択できません。

レポートの形式設定

- レポートを Microsoft Excel にエクスポートする際, Microsoft Excel 2007 を使用している場合はエラー メッセージが表示されます。［**OK**］をクリックしてエラー・メッセージ・ウィンドウを閉じ，Microsoft Excel にデータを表示します。
- グラフの情報は Microsoft Excel にエクスポートできません。

レポートの生成

終了が現時点に含まれていない時間範囲 (2 日前，3 日前，2 日後，3 日後など) を使用してレポートを設定した場合，［**生成**］をクリックしてレポートを生成しても，レポートの時間範囲は元の設定のままです。時間範囲自体は現時点で終了するよう更新されません。

レポートの表示

特定のレポートの表示に問題が発生する場合，レポートを正しく表示するために Flash Player が必要になることがあります。マシンに Flash Player をインストールし，再度レポートにアクセスしてみます。Adobe Flash Player を使用したレポートの表示の詳細については，64 ページ「Adobe Flash Player を使用したレポートの表示」を参照してください。

レポートの発行

階層構造の UCMDB レポートを生成する場合，PDF のサイズの上限は，環境に対して定義されたデータ・ユニットの標準設定値です。標準設定の値は 400 です。データ・ユニットは，レポート内で CI の下に表示される情報です。テーブルでは，各行が 1 つのデータ・ユニットとして数えられます。この値がニーズに合わない場合は変更する必要があるので，HP ソフトウェア・サポートまでお問い合わせください。

生成したファイルにデータ・ユニットの割り当て数より多くのデータ・ユニットが含まれている場合，PDF ファイルは切り捨てられます。

次の UCMDB レポートに影響します。

- **トポロジ・レポート** : 詳細については，**モデル管理**の「[トポロジ レポート] ページ」を参照してください。
- **アセット・レポート** : 詳細については，**モデル管理**の「[アセット レポート] ページ」を参照してください。
- **関連 CI レポート** : 詳細については，**モデル管理**の「関連 CI のレポートを取得」を参照してください。

- **相関レポート** : 詳細については，**モデル管理**の「[相関マネージャ] ウィンドウ」を参照してください。
- **レポートへのエクスポート** : 詳細については，**モデル管理**の「パッケージ・マネージャ・ウィンドウ」を参照してください。

第 7 章

システムの状況

本章では，システムの状況の主要概念，タスク，および参考情報について述べます。

本章の内容

概念

- システムの状況 – 概要（92 ページ）
- システムの状況セットアップ・ウィザード – 概要（93 ページ）
- システムの状況の表示（94 ページ）
- モニタ・テーブルについて（98 ページ）
- サービスの再割り当てについて（99 ページ）

タスク

- システムの状況のデプロイとアクセス（100 ページ）
- システムの状況確認 ー ワークフロー（105 ページ）

参照先

- HP Universal CMDB コンポーネント（108 ページ）
- HP Universal CMDB プロセス（109 ページ）
- システムの状況モニタ（110 ページ）
- コンポーネントとモニタのステータス・インジケータケータ（117 ページ）
- システムの状況ユーザ・インタフェース（118 ページ）

トラブルシューティングと制限事項（149 ページ）

システムの状況 – 概要

システムの状況では，SiteScope 監視システムを使って，システムの一部として実行されているサーバ，データベース，および DDM Probe を監視できます。

システムの状況 の用途:

- さまざまなシステム・コンポーネントで実行されているモニタからの出力を表示して，パフォーマンスを測定する。
- パフォーマンスに影響を与えるデータベースの領域を監視する。
- サーバ，データベース，および DDM Probe の問題領域を表示する。
- 環境で次のような操作を実行します。
  - **バックエンド・サービスを移動する :** サーバ・マシンが適切に機能していないか，サービスを提供するのにダウンタイムを必要とする場合は，同タイプのサーバ間でバックエンド・サービスを移動できます。このタスクを実行するユーザ・インタフェースの詳細については，144 ページ「[サーバ マネージャ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
  - **バックアップ・サーバを設定する:** サーバ・マシンが適切に機能していないか，サービスを提供するのにダウンタイムを必要とする場合は，バックアップ・サーバを定義できます。このタスクを実行するユーザ・インタフェースの詳細については，145 ページ「[バックアップ サーバ セットアップ] ウィンドウ」を参照してください。
  - **UCMDB プロセスを管理する :** さまざまな HP Universal CMDB プロセスを開始または停止できます。このタスクを実行するユーザ・インタフェースの詳細については，146 ページ「[プロセス マネージャ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
- 特定コンポーネントのログ・ファイルをさまざまな形式で表示する。
- コンポーネントとモニタの情報を .csv 形式 (現在のステータスを表示) およびクイック・レポート形式 (過去 24 時間のステータスを表示) で表示する。

システムの状況セットアップ・ウィザード – 概要

システムの状況 セットアップ・ウィザードでは, システムの状況で監視するサーバへのリモート接続を作成できます。リモート接続を作成しないと，システムの状況サーバにアクセスする資格情報/認証を必要としないモニタのみがデータを提供します。

重要： システムの状況セットアップ・ウィザードを設定していると，ほかのユーザが システムの状況インタフェースにアクセスすることはできません。

システムの状況セットアップ・ウィザードの設定の詳細については，105 ページ「システムの状況確認 ― ワークフロー」を参照してください。

システムの状況セットアップ・ウィザードに含まれているページと要素の詳細については，131 ページ「システムの状況セットアップ・ウィザード」を参照してください。

システムの状況セットアップ・ウィザードへのアクセス

システムの状況セットアップ・ウィザードは次のいずれかの方法でアクセスできます。

➤ HP Universal CMDB を実行しているマシンで, システムの状況アプリケーションに最初にアクセスするとき。

➤ 特定のコンポーネントを選択していないときに，システムの状況ダッシュボード・ツールバーで［**完全モデル同期化**］ボタンをクリックする。

➤ システムの状況ダッシュボード・ツールバーで［**ソフト同期化**］ボタンをクリックする。

注：［**ソフト同期化**］ボタンをクリックすると，システムで行われた変更に関するウィザードの一部だけが表示されます。変更が行われていない場合，システムの状況セットアップ・ウィザードは表示されません。

システムの状況の表示

HP Universal CMDB コンポーネントのステータスは次の形式で表示できます。

システムの状況ダッシュボード

すべてのコンポーネントのマップを表示します。コンポーネント・ボックスの輪郭の色や，［**モニタ**］テーブルにあるステータス・アイコンの色でコンポーネントのステータスがわかります。コンポーネントの輪郭色の詳細については，125 ページ「コンポーネントのステータスと説明」を参照してください。ステータス・アイコンの色の詳細については，117 ページ「コンポーネントとモニタのステータス・インジケータケータ」を参照してください。

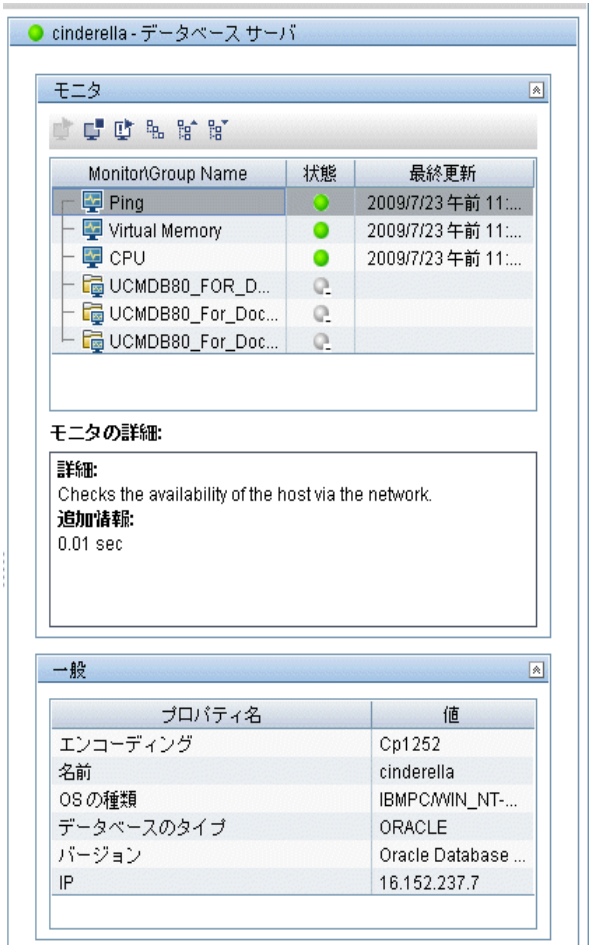
コンポーネント上の［**展開**］アイコンをクリックすると，そのサブコンポーネントが表示されます。

コンポーネント上の［**折りたたみ**］アイコンをクリックすると，そのサブコンポーネントが非表示になります。

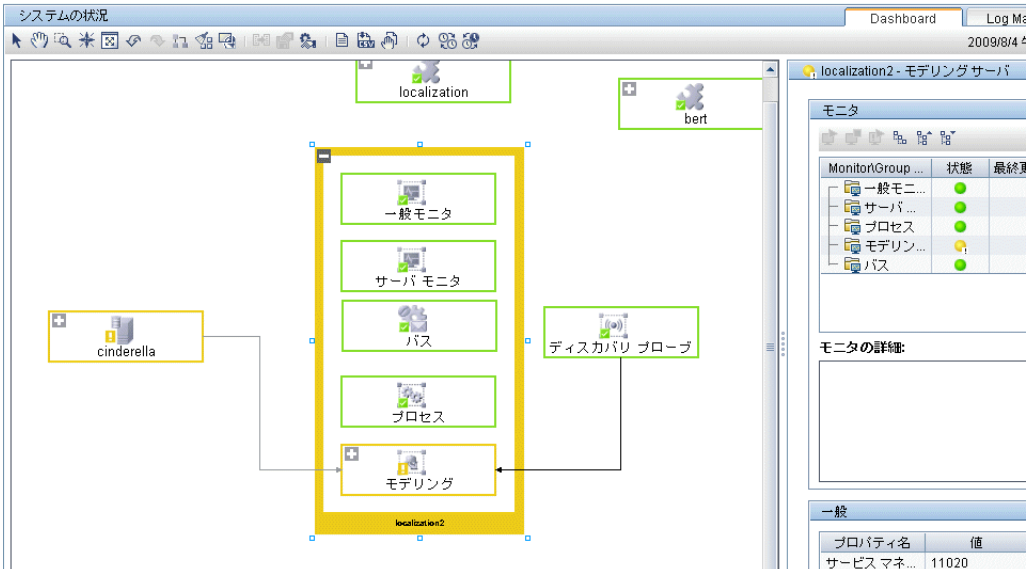
コンポーネントを操作するには，システムの状況ダッシュボード・ツールバーでさまざまなアイコンをクリックします。システムの状況ダッシュボード・ツールバーの詳細については，138 ページ「ツールバー」を参照してください。

［**一般**］テーブルで HP Universal CMDB サーバに関する情報を，システムの状況ダッシュボードの右表示枠にある［**モニタ**］テーブルでサーバのコンポーネントに関する情報を取得できます。表示されるモニタは，システムの状況ダッシュボードの左表示枠で選択したコンポーネント上で実行されます。詳細については，98 ページ「モニタ・テーブルについて」を参照してください。

モニタ・テーブルが次のように表示されます。



［Dashboard］タブが次のように表示されます。



［Log Manager］タブ

［Log Manager］タブに，システムの状況で監視しているコンポーネントに関するさまざまなログ・ファイルが表示されます。ログは**ログ・バンドル**に階層化されて配置されます。ログ・バンドルの下にネストされるのは，HP Universal CMDB デプロイメントで個々のログ・ファイルが含まれているマシンです。［**ログ バンドル**］表示枠ツリーには，次のエンティティが表示されます。

- **ログ・バンドル:** 次のいずれかまたは全部を含むことができます。
  - ほかのログ・バンドル。
  - マシン。
  - カテゴリ別に整理されたログ (システムの状況ダッシュボードで設定されたモデルがない場合)。
- **マシン:** あるマシン別に整理されたログのグループが含まれています。マシンは階層ツリーでログ・バンドルの下にネストされます。

➤ **個々のログ:** 監視対象コンポーネントの動作を監視する個々のログ・ファイル。ログはログ・バンドル，またはログが実行される特定マシンの下にネストされます。

［**タイム フレーム**］表示枠でデータを取得する時間枠を設定し，［**Log Bundle**］表示枠で 1 つ以上のコンポーネントを選択します。次の操作のいずれかを実行できます。

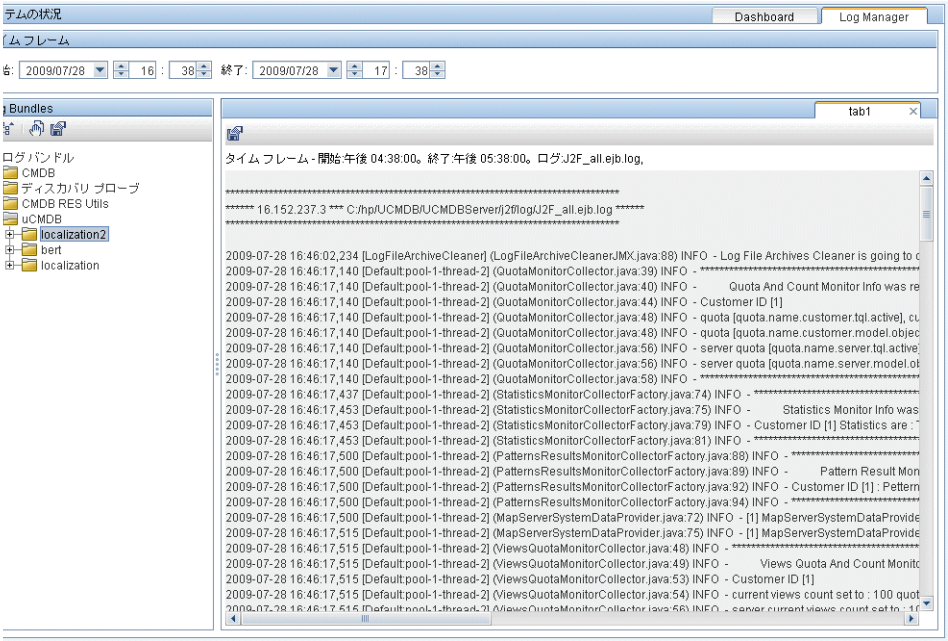
➤ ［Log Bundle］表示枠で［**出力を保存**］ボタンをクリックして，選択したログをダウンロードして保存する。

➤ ［**ログを取得**］ボタンをクリックして，選択したログを取得して表示する。ログは**メイン**表示枠に表示され，ここで［**出力を保存**］ボタンをクリックして表示された出力を保存することができます。

ログ・バンドル，マシン，およびログ・ファイルの組み合わせを選択できます。

実行する各ログ取得操作ごとに，選択したものに含まれているログを表示する個別のタブが**メイン**表示枠に開きます。タブには，実行する取得操作に従って番号が付けられます。ログ・マネージャで利用できる機能の詳細については，118 ページ「ログ・マネージャ」を参照してください。

［Log Manager］タブが次のように表示されます。



モニタ・テーブルについて

モニタ・テーブルには，システムの状況ダッシュボードで選択したコンポーネントに実行されているモニタに関する情報が表示されます。

モニタ・テーブルで特定のモニタにドリル・ダウンすると，次のことが行えます。

- モニタを有効にする
- モニタを無効にする
- スケジュールに従って実行されるのを待つのではなく，モニタをすぐに実行する

モニタ・グループは，システムの状況ダッシュボードの左表示枠で強調表示されたコンポーネントに含まれているコンポーネントに対応しています。［**モニタの詳細**］表示枠には，個々のモニタに関する追加情報が表示されます。

モニタ・テーブルでグループをダブル・クリックすると，システムの状況ダッシュボードにモニタの親コンポーネントを開くことができます。

SiteScope アプリケーションで実行されるシステムの状況モニタの詳細については，［システムの状況］インタフェースの左上隅にある［**SiteScope**］リンクをクリックします。

モニタ・テーブル・ユーザ・インタフェースの詳細については，122 ページ「モニタ・テーブル」を参照してください。

サービスの再割り当てについて

特定のマシンが適切に機能していないか，サービスを提供するのにダウンタイムを必要とする場合は，HP Universal CMDB サーバで実行されるサービスを再割り当てできます。また，システム・ダウンタイムの場合にデータが失われないように，特定のサーバが特定のバックアップ・マシンに自動でフェイルオーバするように事前設定することもできます。

注：サービスの再割り当ては管理者のみが実行できます。

再割り当てプロセスは最大 25 分間かかることがあり，その間システムはダウンタイムになります。

サービスの再割り当ての詳細については，144 ページ「［サーバ マネージャ］ダイアログ・ボックス」を参照してください。

システムの状況のデプロイとアクセス

システムの状況 は次のいずれかの方法でデプロイします。

- HP Universal CMDB にアクセスできるスタンドアロン・マシン (HP Universal CMDB サーバがダウンしても, システムの状況を引き続き実行できるよう, 推奨)。
- 任意の HP Universal CMDB サーバ (スタンドアロン・マシンが利用できない場合にのみ実行)。

システムの状況のデプロイ

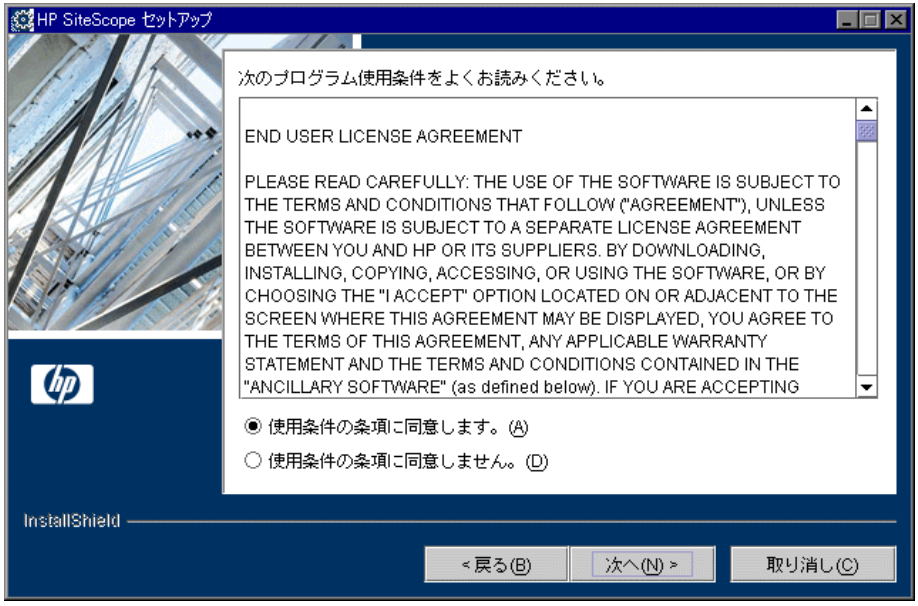
システムの状況をデプロイする前に，UCMDB サーバと Foundation データベースを起動して稼働させる必要があります。システムの状況は HP Universal CMDB と同じドメインにデプロイする必要があり，任意のファイアウォールを起動する必要があります。

システムの状況 をデプロイするには，次の手順を実行します。

1 SiteScope インストール・ディスクをマシンに挿入します。

2 **setup.exe** オプションを選択します。HP SiteScope インストール・ウィザードが表示されます。

3 ［**使用条件の条項に同意します。**］を選択し，［**次へ**］をクリックします。



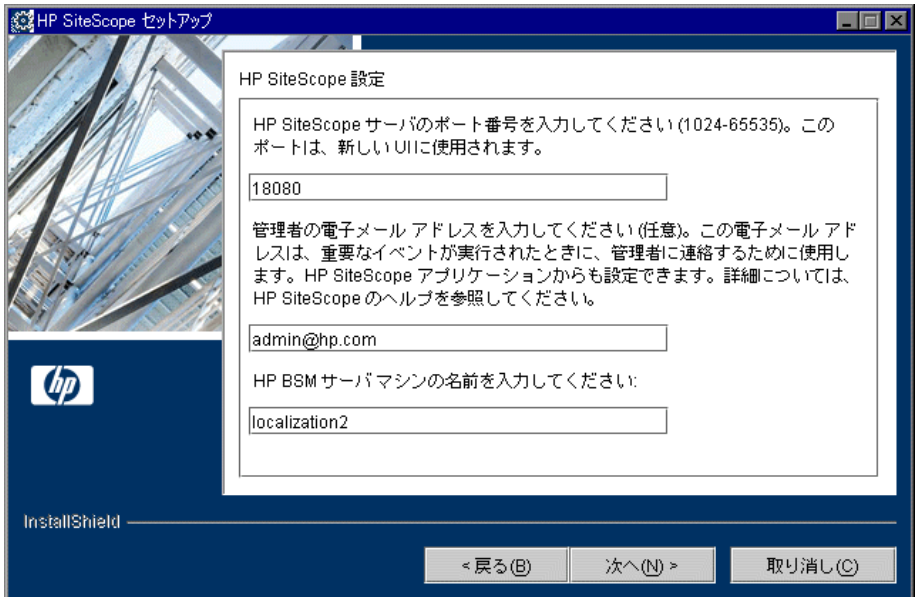
4 SiteScope をインストールするディレクトリを入力するか，標準設定の **C:¥SiteScope** を受け入れて，［**次へ**］をクリックします。

5 ［**HP System Health**］セットアップ・タイプを選択し，［**次へ**］をクリックします。

6 ［HP SiteScope 設定］ウィンドウで次の情報を入力します。

- HP SiteScope サーバのポート番号。標準設定ポート番号の 18080 を受け入れるか，空いている別のポートを選択します。
- (任意選択) 発生した重要なイベントを管理者に通知するための管理者の電子メール・アドレスを指定します。

➤ HP Universal CMDB サーバの名前を入力します。



7 結果として表示されるウィンドウで情報の概要を確認し，［**次へ**］をクリックします。HP SiteScope インストール・プロセスが実行されます。

8 インストール・プロセスが終了したら，［**次へ**］をクリックします。

9 HP SiteScope のインストールを有効にするために，コンピュータを再起動する必要があります。コンピュータをすぐに再起動するには［**はい**］をクリックし，コンピュータを後で再起動する場合は［**いいえ**］をクリックします。

10 ［**完了**］をクリックして，HP SiteScope インストール・ウィザードを終了します。

注： システムの状況が Solaris マシンにデプロイされている場合，監視できるのはほかの Solaris マシンだけです。一般的なプロパティはシステムの状況セットアップ・ウィザードで設定できますが，詳細なプロパティは SiteScope で設定します。

システムの状況へのアクセス

システムの状況 にアクセスするには，Web ブラウザで **http://＜サーバ名＞.＜ドメイン名＞:＜HP SiteScope Server ポート番号＞/** と入力します。**＜サーバ名＞**は，システムの状況がデプロイされるサーバの名前です。

システムの状況アプリケーションは，スーパーユーザまたは管理者権限のあるユーザのみがアクセスできます。

システムの状況にアクセスするには，次の手順を実行します。

1 システムの状況が適切にインストールされているか確認します。

2 ブラウザ・ウィンドウに次のリンクを入力します。

http://<マシン名>:<ポート番号>

<マシン名> = システムの状況がインストールされているマシンです。

<ポート番号> = 標準設定では 18080, あるいは空いている別のポートを選択できます。

注： システムの状況アプリケーションが画面に表示されまでに，数分かかることもあります。

---

3 ログイン名とパスワードを適切なボックスに入力して，システムの状況にログインします。

最初のアクセスには，次の標準設定ログイン・パラメータを使います。

ログイン名 = **systemhealth**, パスワード = **systemhealth**

管理者レベル・アクセスには，次の標準設定ログイン・パラメータを使います。

ログイン名 = **administrator**, パスワード = **syshealthadmin**

不正なアクセスを防ぐために，パスワードをすぐに変更することをお勧めします。パスワードを変更するには，システムの状況 ログイン・ページで［**パスワード変更**］リンクをクリックします。

セキュア環境へのシステムの状況のデプロイ

セキュア環境にシステムの状況をデプロイする場合は，次の点に注意してください。

- システムの状況ダッシュボードでは，リバース・プロキシ・コンポーネントが左の表示枠に表示されます。
- SiteScope にモニタのユーザ名とパスワードを入力するまで，WDE URL モニタは赤で表示されます。
- リバース・プロキシではなく, UCMDB サーバの名前を指定する必要があります。

システムの状況確認 ー ワークフロー

このタスクでは，システムのコンポーネントを監視し，適切に機能しているか確認する方法について説明します。

このタスクの手順は次のとおりです。

- 105 ページ「前提条件」
- 106 ページ「モニタのリモート接続情報の設定」
- 106 ページ「コンポーネントのパフォーマンスを監視する」
- 106 ページ「バックエンド・サービスの移動」
- 106 ページ「バックアップ・サーバの設定」
- 106 ページ「BSM プロセスの管理」
- 107 ページ「クイック・レポートを表示する」

1 前提条件

HP Universal CMDB システムの状況を監視するには，システムの状況アプリケーションを適切にデプロイする必要があります。詳細については，100 ページ「システムの状況のデプロイとアクセス」を参照してください。

2 モニタのリモート接続情報の設定

(任意選択) システムの状況セットアップ・ウィザードを使って，サーバのリモート接続情報を，必要とする HP Universal CMDB モニタに提供します。また，電子メールでシステムの状況アラートを受信する受信者も設定できます。詳細については，131 ページ「システムの状況セットアップ・ウィザード」を参照してください。

3 コンポーネントのパフォーマンスを監視する

HP Universal CMDB システムの一部として実行されているサーバ, データベース, および Discovery Probe のパフォーマンスを監視し，その結果をシステムの状況ダッシュボード・タブを使って表示できます。使用可能なシステムの状況の表示の詳細については，94 ページ「システムの状況の表示」を参照してください。

4 バックエンド・サービスの移動

サーバ・マシンが適切に機能していないか，サービスを提供するのにダウンタイムを必要とする場合は，［サービス マネージャ］ダイアログ・ボックスで，同タイプのサーバ間でバックエンド・サービスを移動します。

このタスクを実行するユーザ・インタフェースの詳細については，144 ページ「［サーバ マネージャ］ダイアログ・ボックス」を参照してください。

5 バックアップ・サーバの設定

サーバ・マシンが適切に機能していないか，サービスを提供するのにダウンタイムを必要とする場合は，［バックアップ サーバの設定］ダイアログ・ボックスでバックアップ・サーバを定義します。このタスクを実行するユーザ・インタフェースの詳細については，145 ページ「［バックアップ サーバ セットアップ］ウィンドウ」を参照してください。

6 BSM プロセスの管理

［プロセス マネージャ］ダイアログ・ボックスで，特定のサーバにおけるプロセスを開始または停止します。このタスクを実行するユーザ・インタフェースの詳細については，146 ページ「［プロセス マネージャ］ダイアログ・ボックス」を参照してください。

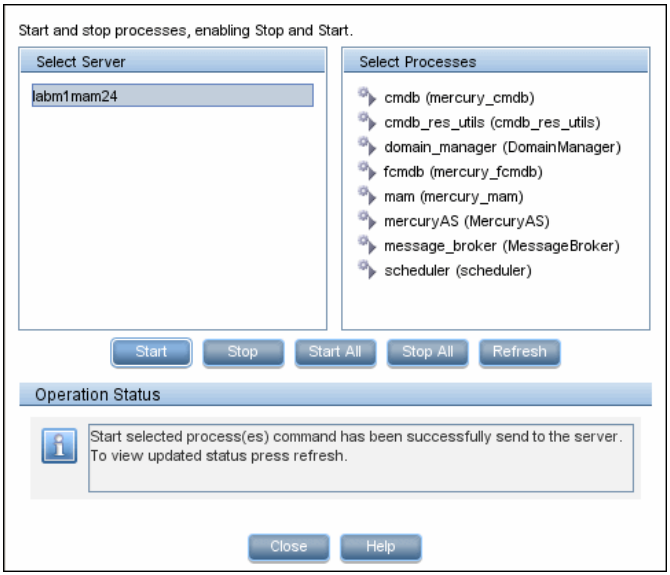
例

a システムの状況ダッシュボードのツールバーで，［**プロセス マネージャ**］ボタンをクリックします。

b ［**サーバの選択**］ウィンドウで，プロセスを開始または停止するサーバを選択します。

c ［**プロセスの選択**］ウィンドウで，開始または停止するプロセスを選択します。

d ［**開始**］をクリックして選択したプロセスを開始するか，［**停止**］をクリックして選択したプロセスを停止するか，［**更新**］をクリックしてプロセスのステータスを更新します。また，［**すべて開始**］ボタンをクリックしてすべてのプロセスを開始し，［**すべて停止**］ボタンをクリックしてすべてのプロセスを停止することもできます。［**Operation Status**］ウィンドウに，操作が成功したかどうか表示されます。



7 クイック・レポートを表示する

［**クイック レポート**］ボタンをクリックすると，選択したコンポーネントにデプロイされたモニタで過去 24 時間にわたって収集された情報の含まれたクイック・レポートが表示されます。［クイック レポート］画面の詳細については，147 ページ「［クイック レポート］画面」を参照してください。

例

Table Format
Error List
Warning List
Good List

Close Window

Summary for Multiple Monitors

(information from 8:58 AM 7/9/07 to 12:18 PM 7/9/07)

Uptime Summary

Name	Uptime %	Error %	Warning %	Last
Durable Subscriber Group	94.73	0	5.27	good
Monitor Broker Group	94.73	0	5.27	good
Monitor Subscriber Group	94.73	0	5.27	good
Monitor Container Group	94.73	0	5.27	good
Log Level for D$\HPBAC\conf\core\Tools\log4j\mercury_online_engine	100	0	0	good
Log Level for D$\HPBAC\conf\core\Tools\log4j\mercury_offline_engine	100	0	0	good
Log Level for D$\HPBAC\conf\core\Tools\log4j\mercury_data_upgrade	100	0	0	good
Log Level for D$\HPBAC\conf\core\Tools\log4j\mam	100	0	0	good
Log Level for D$\HPBAC\conf\core\Tools\log4j\mercury_upgrade_wizard	100	0	0	good
Log Level for D$\HPBAC\conf\core\Tools\log4j\cmdb	100	0	0	good
Log Level for D$\HPBAC\conf\core\Tools\log4j\common	100	0	0	good
Log Level for D$\HPBAC\conf\core\Tools\log4j\mercury_wde	100	0	0	good
Log Level for D$\HPBAC\conf\core\Tools\log4j\data_marking	100	0	0	good
Log Level for D$\HPBAC\conf\core\Tools\log4j\PlainJava	100	0	0	good
Log Level for D$\HPBAC\conf\core\Tools\log4j\EJB	100	0	0	good
Log Level for D$\HPBAC\conf\core\Tools\log4j\mercury_pm	100	0	0	good
Log Level for D$\HPBAC\conf\core\Tools\log4j\Servlets	100	0	0	good
Log Level for D$\HPBAC\conf\core\Tools\log4j\bus	100	0	0	good
Log Level for D$\HPBAC\conf\core\Tools\log4j\mercury_db_loader	100	0	0	good
Out of Memory in log	100	0	0	good
Logged in Users	94.73	0	5.27	good

HP Universal CMDB コンポーネント

システムの状況 インタフェースには次のコンポーネントが表示されます。

- **Discovery Probes** : IT インフラストラクチャのコンポーネントを検出し，それらの CI を作成して，データを CMDB に送信します。
- **UCMDB サーバ** : HP Universal CMDB アプリケーションを実行するサーバを監視します。
- **データベース** : HP Universal CMDB が使用しているデータベースを監視します。
- **リバース・プロキシ・サーバ** : システムの状況がセキュア環境で設定されている場合にのみ表示されます。

HP Universal CMDB プロセス

次のテーブルには，HP Universal CMDB サーバで実行されているプロセスが表示されます。

GUI 要素	説明
cmdb	クラス・モデル・コンポーネント，モデル・コンポーネント，調整エンジン，およびモデル変更通知に関与するサービスを実行します。
cmdb_res_utils	TQL およびエンリッチメントの計算結果が保管されているサーバでサービスを実行します。
domain_manager	すべての HP Universal CMDB サーバにおけるすべてのバス・プロセスに関与します。 **プロセス名**: DomainManager
fcmdb	外部データ・ソースからレプリケーション・タスクと連携クエリに関する連携データを取得します。
mam	システム・コンポーネント，レポート・コンポーネント，スナップショット・コンポーネント，パッケージ・コンポーネント，ディスカバリ・コンポーネント，ユーザ管理，および構成を表示するサービスを実行します。
mercuryAS	すべての HP Universal CMDB アプリケーションにアクセスする JBoss アプリケーション・サーバを実行します。 **プロセス名**: MercuryAS
message_broker	メッセージを送信側マシンの正式なメッセージング・プロトコルから受信側マシンの正式なメッセージング・プロトコルに変換できます。 **プロセス名**: MessageBroker

システムの状況モニタ

システムの状況では，SiteScope モニタを使用して，コンポーネントのパフォーマンスを測定します。SiteScope アプリケーションで利用できるモニタもあれば，システムの状況専用に設定されているモニタもあります。

モニタはシステムの状況ダッシュボードの右表示枠にある［**モニタ**］テーブルに表示されます。［モニタ］テーブルの詳細については，122 ページ「モニタ・テーブル」を参照してください。

本項では次のモニタ・グループについて説明します。

- 110 ページ「マシン・ハードウェア・モニタ」
- 111 ページ「データベース・モニタ」
- 111 ページ「HP Universal CMDB サーバ・モニタ」

マシン・ハードウェア・モニタ

次のモニタ・グループは，HP Universal CMDB アプリケーションが実行されているハードウェアおよびデータベース (必要な場合) を監視します。

マシン・ハードウェア・モニタ

モニタ名	説明
Ping	ネットワーク経由でホストの可用性をチェックします。HP Universal CMDB およびデータベース・サーバで実行されます。HP Universal CMDB にプロキシ・サーバまたはロード・バランサが含まれている場合，このモニタはメディエータまたはロード・バランサで実行されます。 **含まれる測定値:** ➤ **往復時間** ➤ **損失率**
Server Virtual Memory	サーバで仮想メモリが現在どのくらい使用されているかを追跡します。HP Universal CMDB およびデータベース・サーバで実行されます。

モニタ名	説明
Server CPU	サーバで CPU が現在どのくらい使用されているかを追跡します。HP Universal CMDB およびデータベース・サーバで実行されます。
Server Disk Space	HP Universal CMDB がインストールされているハードディスク・ドライブで，ディスク容量が現在どのくらい使用されているかを追跡します。HP Universal CMDB サーバ上でのみ実行されます。

データベース・モニタ

次のモニタはデータベース・サーバで実行されます。1 つのサーバ上で複数のデータベースが実行されていることもあり，各データベースごとにモニタ・インスタンスがあります。

モニタ表示名	目的
DB Statistics	24 時間以上前に作成されたすべてのテーブルについて，データベース統計情報が収集されているか確認します。
Database Connectivity	HP Universal CMDB とデータベースの接続を確認します。

HP Universal CMDB サーバ・モニタ

次のモニタはUCMDB サーバで実行されます。

一般的なモニタ

モニタ名	説明
Nanny Manager Process	HP Universal CMDB サーバ・プロセスが起動して稼働しているかを監視します。

プロセス モニタ

プロセスについては，146 ページ「[プロセス マネージャ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

以下の表に示す 2 つの JVM モニタは，下記の Java プロセスのみを監視します。

- scheduler
- MercuryAS
- MessageBroker
- DomainManager
- mercury_mam
- cmdb_res_utils
- mercury_cmdb
- mercury_fcmdb

<プロセス名> モニタは，Java および Java 以外のプロセスを監視します。プロセスの詳細については，109 ページ「HP Universal CMDB プロセス」を参照してください。

モニタ表示名	説明
<プロセス名>	**<プロセス名>**プロセスが実行されているか，その CPU，および仮想メモリ使用率を確認します。

モニタ表示名	説明
＜プロセス名＞ JVM Statistics Memory Monitors	Java プロセスのメモリ測定値を監視します。 **含まれる測定値:** ➤ **Heap Free:** JVM のヒープ空き容量を表示します。 ➤ **Permanent Heap Free Memory:** JVM の永続ヒープ空き容量を表示します。
＜プロセス名＞ JVM Statistics Threads Monitors	Java プロセスのスレッド測定値を監視します。プロセス名はモニタの名前に基づいています。 **含まれる測定値:** ➤ **Current Thread Count:** プロセスで使用されている現在のスレッド数です。 ➤ **Dead Locked Threads:** プロセスでデッドロック状態になったスレッドの数です。

Bus

モニタ表示名	目的
Subscriber Group	サブスクライバ関連の測定値を監視します。 **しきい値の設定場所**: インフラストラクチャ設定。 アクセスするには，［**管理**］＞［**設定**］＞［**インフラストラクチャ設定マネージャ**］に移動し，［**Foundations**］の下で［**バス モニタ**］オプションを選択します。

モニタ表示名	目的
Broker Group	ブローカ測定値を監視します。 **しきい値の設定場所**:インフラストラクチャ設定。 アクセスするには,［**管理**］>［**設定**］>［**インフラストラクチャ設定マネージャ**］に移動し,［**Foundations**］の下で［**バス モニタ**］オプションを選択します。
Durable Subscriber Group	ブローカの持続的サブスクライバに関する情報を提供します。 **しきい値の設定場所**:インフラストラクチャ設定。 アクセスするには,［**管理**］>［**設定**］>［**インフラストラクチャ設定マネージャ**］に移動し,［**Foundations**］の下で［**バス モニタ**］オプションを選択します。

モデリング/CMDB

モニタ表示名	目的
Model Objects Quota and Count	現在の CI カウントと CI 割り当てを比較します。 **しきい値の設定場所**:インフラストラクチャ設定。 アクセスするには,［**管理**］>［**設定**］>［**インフラストラクチャ設定マネージャ**］に移動し,［**Foundations**］の下で［**CMDB**］コンテキストを選択します。［**CMDB - 割り当て設定**］セクションで関連設定を見つけます。
TQL Quota and Count	現在の TQL カウントと TQL 割り当てを比較します。 **しきい値の設定場所**:インフラストラクチャ設定。 アクセスするには,［**管理**］>［**設定**］>［**インフラストラクチャ設定マネージャ**］に移動し,［**Foundations**］の下で［**CMDB**］コンテキストを選択します。［**CMDB - 割り当て設定**］セクションで関連設定を見つけます。

モニタ表示名	目的
Oversized TQLs	設定済みしきい値で許可されているサイズより大きい TQL を表示します。 **しきい値の設定場所**: インフラストラクチャ設定。 アクセスするには，［**管理**］＞［**設定**］＞［**インフラストラクチャ設定マネージャ**］に移動し，［**Foundations**］の下で［**CMDB**］コンテキストを選択します。［**CCMDB TQL の設定**］セクションで関連設定を見つけます。
Availability and Performance	システムの可用性と応答時間をチェックします。 **含まれる測定値:** ➤ **Run AdHoc TQL.** Run AdHoc TQL 操作にかかる時間をチェックします。 ➤ **Load ClassModel:** Load ClassModel 操作にかかる時間をチェックします。 **しきい値の設定場所**: インフラストラクチャ設定。 アクセスするには，［**管理**］＞［**設定**］＞［**インフラストラクチャ設定マネージャ**］に移動し，［**Foundations**］の下で［**CMDB**］コンテキストを選択します。［**CMDB - モニタの設定**］セクションで関連設定を見つけます。
DB - Could not reset timeout because the object is not monitored	**cmdb.log** で Couldn't reset timeout because the object isn't monitored を検索します。
DB - Failed to borrow object from pool	**cmdb.log** で Failed to borrow object from pool を検索します。 **しきい値の設定場所** : SiteScope
DB - Failed to create a connection	**cmdb.log** で Failed to create a connection for を検索します。 **しきい値の設定場所** : SiteScope
Notification - Cannot Publish	**cmdb.log** で cannot publish を検索します。

モニタ表示名	目的
Notification - Cannot get notifications from the BUS	**cmdb.log** で error occurred during receive of JMS message を検索します。
Performance - Request Timeout	**cmdb.log** で Request Timeout を検索します。

システムのモデリング/表示

モニタ表示名	目的
All Symbols Quota and Count	現在のシンボル・カウントとシンボル割り当てを比較します。 **しきい値の設定場所**:インフラストラクチャ設定。 アクセスするには,［**管理**］＞［**設定**］＞［**インフラストラクチャ設定マネージャ**］に移動し,［**Foundations**］の下で［**MAMServer**］コンテキストを選択します。
Views Quota and Count	現在のビュー カウントとビュー割り当てを比較します。 **しきい値の設定場所**:インフラストラクチャ設定。 アクセスするには,［**管理**］＞［**設定**］＞［**インフラストラクチャ設定マネージャ**］に移動し,［**Foundations**］の下で［**MAMServer**］コンテキストを選択します。
Oversized Views	インフラストラクチャ設定で設定したしきい値より大きいビューをチェックします。 **しきい値の設定場所**:インフラストラクチャ設定。 アクセスするには,［**管理**］＞［**設定**］＞［**インフラストラクチャ設定マネージャ**］に移動し,［**Foundations**］の下で［**MAMServer**］コンテキストを選択します。

コンポーネントとモニタのステータス・インジケータケータ

次の表に，システムの状況ダッシュボードの右表示枠の［モニタ］テーブルに表示される色付きのアイコンとそのステータスの説明を示します。

ステータス	説明
	コンポーネントとすべてのサブコンポーネントが適切に機能しています (ステータスは**良好**です)。
	コンポーネントまたはサブコンポーネントに重大な問題があります (ステータスは**エラー**です)。 赤のインジケータには **x** 記号が付きます。 コンポーネントをドリル・ダウンして，問題のあるモニタを特定することをお勧めします。
	コンポーネントまたはサブコンポーネントに重大でない問題があるか，サーバから応答を受信していません (ステータスは**警告**です)。 黄色のインジケータには **!** 記号が付きます。
	モニタに利用できるデータがありません。モニタがまだ実行されていない場合に表示されます。 灰色のインジケータには **-** 記号が付きます。

注： システムの状況 をデプロイすると，各モニタがスケジュールに従って実行され，モニタの色が次第に表示されます。

システムの状況ユーザ・インタフェース

本項の内容

➤ 118 ページ「ログ・マネージャ」

➤ 121 ページ「システムの状況ダッシュボード」

➤ 131 ページ「システムの状況セットアップ・ウィザード」

➤ 138 ページ「ツールバー」

ログ・マネージャ

説明	システムの状況で監視されているさまざまなコンポーネントと関連するログ・ファイル出力を表示します。 **利用方法:** ［システムの状況］インタフェースの［**Log Manager**］タブをクリックします。
重要情報	➤ ログ・ファイルを表示するには，［**Log Bundle**］表示枠でコンポーネントを選択して，次の操作のいずれかを実行します。 ➤ ダブル・クリック。 ➤ **メイン**表示枠にドラッグ・アンド・ドロップ。 ➤ ［**ログを取得**］ボタン をクリック。 ➤ **メイン**表示枠で文字列を検索するには，表示枠で任意のポイントを選択し，検索する文字列を入力します。また，出力を .txt ファイルに保存して検索を実行しても，一連のログの内容を検索できます。
関連リンク	96 ページ「［Log Manager］タブ」

含まれている要素は次のとおりです (ラベルのない GUI 要素は山括弧内に表示されます)。

GUI 要素	説明
	指定したエンティティのログを取得する場合にクリックします。ログ・ファイルを取得するには，特定のファイル，バンドル，またはマシンを選択します。 **注:** ➤ また，ログ・ファイルを表示するには，選択したエンティティをメイン・フレームにドラッグします。 ➤ ログ・マネージャでは，1 MB より大きいログ・ファイルを表示できません。1 MB より大きいログ・ファイルを取得しようとすると，ファイルをローカル・マシンにダウンロードするよう要求するメッセージが表示されます。
	選択したログ・ファイルを保存する場合にクリックします。 ➤ メイン・フレームでこのボタンを選択すると，現在表示されているログが保存されます。 ➤ ［**Log Bundle**］表示枠でこのボタンを選択すると，選択したエンティティがメインフレームに表示されずに保存されます。このオプションが役に立つのは，大きなデータ出力を保存する場合や，データ出力に関する複雑な検索を実行する場合です。
	［ログ バンドル］階層ツリーで内容が折りたたまれた (展開されていない) ログ・バンドルまたはマシンを示します。 **注:** これは［**Log Bundle**］表示枠の標準設定ビューです。
	［Log Bundle］階層ツリーで内容が展開されたログ・バンドルまたはマシンを示します。
	ログ・ファイルを示します。ログ・ファイルは次の方法のいずれかで表示できます。 ➤ ログ・ファイルをダブル・クリックする ➤ ログ・ファイルをメイン表示枠にドラッグ・アンド・ドロップする ➤ ログ・ファイルを選択して，［**ログを取得**］ボタン をクリックする

GUI 要素	説明
<タブ #>	バンドル，マシン，またはログ・ファイルの組み合わせの選択を示します。タブには，実行した取得操作の順番に従って番号が付けられます。 **注 :** タブに表示されている特定のログが，表示枠の上部にリストアップされます。6 つ以上のログを取得すると，ログ・リストの代わりに**さまざまなログ (6 つ以上)** が表示されます。
開始	ログ・データの表示を始める日付と時刻を選択します。
終了	ログ・データの表示を終える日付と時刻を選択します。

システムの状況ダッシュボード

説明	HP Universal CMDB コンポーネントとそのステータス (コンポーネントと関連するプロパティおよびモニタに関する情報など) を表示できます。 これはシステムの状況にアクセスするときの標準設定画面です。 システムの状況ダッシュボードは次の領域で構成されています。 ➤ 左表示枠 ➤ 右表示枠 ➤ モニタ・テーブル ➤ 全般テーブル システムの状況ダッシュボードで操作を実行するには，左表示枠の上にあるツールバーを使います。詳細については，138 ページ「ツールバー」を参照してください。 **利用方法:** システムの状況アプリケーションにログインするには，ブラウザ・ウィンドウに「**http://<サーバ名>.<ドメイン名> : <HP SiteScope Server ポート番号>/**」と入力します。
その他のリンク	100 ページ「システムの状況のデプロイとアクセス」 131 ページ「システムの状況セットアップ・ウィザード」 94 ページ「システムの状況の表示」

左表示枠

説明	HP Universal CMDB に導入されたデータベース，サーバ，およびディスカバリ・プローブのマップを表示します。詳細については，125 ページ「HP Universal CMDB システムおよびコンポーネントのマップ」を参照してください。
重要情報	コンポーネントのステータスは，アイコンの周りにあるボックスの色と添付されている記号によって示されます。詳細については，125 ページ「コンポーネントのステータスと説明」を参照してください。
関連リンク	94 ページ「システムの状況の表示」

右表示枠

説明	左表示枠で選択したコンポーネントに関する情報を表示します。
重要情報	右表示枠は次のテーブルで構成されています。 ➤ **モニタ** : 左表示枠で強調表示したコンポーネントのモニタとサブコンポーネントに関する情報を表示します。 ➤ **一般** : 左表示枠で強調表示したサーバのプロパティに関する情報を表示します。 ➤ **データ・コレクタ詳細**: 左表示枠で強調表示したデータ・コレクタに関する情報を表示します。
関連リンク	94 ページ「システムの状況の表示」

モニタ・テーブル

説明	システムの状況ダッシュボードで選択したコンポーネントで実行されているモニタに関する情報を表示します。 ヘッダの矢印をクリックして, テーブルを展開または折りたたみます。
関連リンク	108 ページ「HP Universal CMDB コンポーネント」

モニタに含まれている要素は次のとおりです。

GUI 要素	説明
	選択したモニタを無効化する場合にクリックします。
	選択したモニタのスケジュールを再アクティブ化する場合にクリックします。
	選択したモニタをすぐに実行する場合にクリックします。このオプションを使用するには, まずモニタを有効にする必要があります。
	モニタのリストを展開して当該オブジェクトのモニタと測定値をすべて表示する場合にクリックします。これは標準設定ビューです。

GUI 要素	説明
	モニタのリストを折りたたんで，モニタのみを表示し，モニタ測定値を非表示にする場合にクリックします。
	モニタのリストを更新して，モニタの最新ステータスを表示する場合にクリックします。
	選択したコンポーネントで実行されている各モニタです。
	選択したコンポーネントで実行されているモニタのグループです。
最新更新	モニタが最後に実行された日時を示します。
モニタの詳細	次のフィールドがあります。 ➤ **詳細 :** 選択したモニタについて説明します。 ➤ **追加情報 :** 選 択したモニタ の出力のテキスト文字列結果を表示します。 ➤ **値 :** 選択したモニタの出力の計算結果を表示します。 **注:** モニタによっては表示されないフィールドもあります。
モニタ/グループ名	左表示枠で選択したコンポーネントで実行されているモニタまたはモニタ・グループの名前です。
ステータス	色付きの丸アイコンで表示されるモニタまたはモニタ・グループのステータスを示します。これらのアイコンの詳細については，117 ページ「コンポーネントとモニタのステータス・インジケータケータ」を参照してください。

全般テーブル

説明	左表示枠で選択したサーバと関連するプロパティに関する情報を表示します。 ヘッダの矢印をクリックして，テーブルの折りたたみや展開を行います。 ヘッダ名をクリックすると，ヘッダの値でソートされます。
重要情報	このテーブルは，システムの状況ダッシュボードでサーバを選択した場合にのみ表示されます。

全般テーブルに含まれている要素は次のとおりです。

GUI 要素	説明
プロパティ名	選択したコンポーネントと関連する次のようなプロパティを表示します。 ➤ IP アドレス ➤ ビルド番号 ➤ オペレーティング・システムのタイプ
値	指定したプロパティの値を表示します。

データ・コレクタ詳細テーブル

説明	左表示枠で選択したディスカバリ・プローブに関する情報をツリー形式で表示します。 ヘッダの矢印をクリックして，テーブルの折りたたみや展開を行います。
重要情報	このテーブルは，システムの状況ダッシュボードでデータ・コレクタを選択した場合にのみ表示されます。

［データ コレクタ詳細］テーブルに含まれている要素は次のとおりです。

GUI 要素	説明
	ディスカバリ・プローブ。
	ディスカバリ・プローブが実行されているマシンの IP アドレスの横に表示されます。
	ディスカバリ・プローブのインスタンスを示します。

GUI 要素	説明
プロパティ名	選択したデータ・コレクタと関連する次のようなプロパティを表示します。 ➤ ビルド番号 ➤ ポート番号 ➤ バージョン番号
値	指定したプロパティの値を表示します。

HP Universal CMDB システムおよびコンポーネントのマップ

説明	システムの状況で測定されるさまざまな HP Universal CMDB コンポーネントを表示します。 ➤ **データベース**・コンポーネントはマップの左側に表示されます。 ➤ **サーバ**・コンポーネントはデータベース・コンポーネントの右に表示されます。 ➤ **ディスカバリ・プローブ**・コンポーネントはマップの右側に表示されます。 **利用方法**:［システムの状況］インタフェースの［**Dashboard** ］タブにあります。
関連リンク	94 ページ「システムの状況の表示」 117 ページ「コンポーネントとモニタのステータス・インジケータケータ」 122 ページ「モニタ・テーブル」

コンポーネントのステータスと説明

説明	システムの状況で監視するコンポーネントのステータスを表示します。

重要情報	すべてのコンポーネントの輪郭色には，コンポーネントに含まれている最低動作レベルのサブコンポーネントまたはモニタ (**ワースト・チャイルド・ルール**という) が反映されます。このルールの例外は灰色の輪郭のコンポーネントで，それらの親コンポーネントは自動では灰色の輪郭になりません。
関連リンク	94 ページ「システムの状況の表示」 117 ページ「コンポーネントとモニタのステータス・インジケータケータ」 122 ページ「モニタ・テーブル」

次の表に，システムの状況ダッシュボードに表示されるサンプル・アイコンとその輪郭色およびステータスの説明を示します。

ステータス	説明
	緑色の輪郭は，コンポーネントとそのサブコンポーネントが適切に機能していることを示します。コンポーネントのアイコンには，緑色の四角形内にチェック記号が付きます。
	赤色の輪郭は，コンポーネント，そのサブコンポーネントのいずれか，またはその両方に重大な問題があることを示します。コンポーネントのアイコンには，赤色の四角形内に x 記号が付きます。 コンポーネントをドリル・ダウンして，問題のあるモニタを特定することをお勧めします。
	黄色の輪郭は次のいずれかを示します。 ➤ 重要でない問題がコンポーネント，1 つ以上のサブコンポーネント，またはその両方に存在します。 ➤ コンポーネントのモニタがサーバと接続できませんでした。 コンポーネントのアイコンには，黄色の四角の内にチェック記号が付きます。

ステータス	説明
	灰色の輪郭は，実行するようスケジュールされたモニタが現在コンポーネントに存在しないことを示します。コンポーネントのアイコンには，灰色の四角形の内部に - 記号が付きます。
	破線の青色の輪郭は，コンポーネントのステータス・カラーとともに，現在強調表示されているコンポーネントを示します。

アイコンとボタン

HP Universal CMDB システムおよびコンポーネントのマップには，次のコンポーネント・アイコンとボタンがあります。

GUI 要素	説明
	クリックすると，コンポーネントが展開されて，そのサブコンポーネントが表示されます。 **重要:** [**展開**] ボタンを操作するには，システムの状況ダッシュボード・ツールバーでカーソル・ボタン を選択する必要があります。
	クリックすると，選択したコンポーネント内にあるサブコンポーネントが非表示になります。 **重要:** [**非表示**] ボタンを操作するには，システムの状況ダッシュボード・ツールバーでカーソル・ボタン を選択する必要があります。
	データベース・サーバ。
	データベース。
	A UCMDB server
	プロセスのグループ。

GUI 要素	説明
	サーバ・モニタのグループ。
	バス・コンポーネント。
	論理グループ。 **例:** アラート・エンジン
	アプリケーション。 **例:** ダッシュボード
	アプリケーションのグループ。
	サービス。 **例:** サービス・レベル管理エンジン
	ディスカバリ・プローブのグループ。
	データのフローを示します。 **注:**［**ナビゲーション**］ボタン をクリックし，矢印線のどこかをクリックして矢印の起点または終点を見つけます。

データベース・コンポーネント

説明	HP Universal CMDB にデプロイされているデータベースです。 データベース・コンポーネントはシステムの状況ダッシュボード左表示枠の左側に表示されます。
関連リンク	94 ページ「システムの状況の表示」 117 ページ「コンポーネントとモニタのステータス・インジケータケータ」 122 ページ「モニタ・テーブル」

次の要素が表示されます。

GUI 要素	説明
CMDB データベース	構成情報の中央リポジトリです。
ファウンデーション データベース	HP Universal CMDB 環境でシステム全体および管理関連のメタデータを保管するのに使用されます。
履歴データベース	CMDB 構成アイテム (CI) に関するデータを長期にわたって保管するのに使用されます。

サーバ・コンポーネントおよびプロセス

HP Universal CMDB のシステムおよびコンポーネントのマップには, 次のサーバ要素が含まれています 。

- バス
- CMDB
- ディスカバリおよび依存関係マッピング・プローブ
- モデリング
- プロセス (詳細については, 108 ページ「HP Universal CMDB コンポーネント」を参照)
- サーバ・モニタ

ディスカバリ・プローブ・コンポーネント

説明	HP Universal CMDB にデプロイされているデータ・コレクタ要素を表示します。 データ・コレクタ・コンポーネントはシステムの状況ダッシュボード左表示枠の右側に表示されます。

重要情報	HP Universal CMDB を実行していない廃止されたホストも確認できます。これらの廃止ホストを無効にするには，URL **http://<ゲートウェイ・サーバ・マシン名>.<ドメイン名>/topaz/systemConsole/displayBACHosts.do** を参照して, 廃止ホストをすべて無効にします。
関連リンク	94 ページ「システムの状況の表示」 117 ページ「コンポーネントとモニタのステータス・インジケータケータ」 122 ページ「モニタ・テーブル」

次の要素が表示されます。

GUI 要素	説明
ディスカバリ・プローブ	ディスカバリ・プローブのステータスを表示します。

システムの状況セットアップ・ウィザード

説明	完全な監視のために，HP Universal CMDB およびデータベース・サーバへのリモート接続を確立できます。 **利用方法:** ブラウザ・ウィンドウで「**http://<マシン名>:<ポート番号>**」と入力します。 **注:** ➤ システムの状況アプリケーションを構成するには, インストール後に初めてアプリケーションにアクセスすると, システムの状況 セットアップ・ウィザードが自動的に開きます。その後のユーザおよびユーザ インスタンスについては，ウィザードが自動的に開きません。 ➤ また，Full Model Synchronization または Soft Synchronization を実行して，システムの状況セットアップ・ウィザードにアクセスすることもできます。Soft Synchronization でウィザードが起動されるのは, システムの状況モデルに変更が加えられた場合だけで, Full Model Synchronization でウィザードが起動されるのは，コンポーネントが選択されていない場合だけです。 ➤ システムの状況セットアップ・ウィザードにリモート接続情報を入力されたユーザは, 権限のある操作のみを実行できます。
重要情報	➤ サーバへのリモート接続詳細を入力しない場合, システムの状況は HP Universal CMDB サーバにアクセスする資格情報 / 認証を必要としないモニタのみに関する情報を取得します。 ➤ システムの状況セットアップ・ウィザードの左表示枠には，現在作業しているウィザードのページが示されます。
ウィザード マップ	システムの状況 セットアップ・ウィザードには次のページがあります。 リモート・サーバ・セットアップ・ページ > リモート・データベース・セットアップ・ページ > ［受信者セットアップ］ページ
その他のリンク	93 ページ「システムの状況セットアップ・ウィザード – 概要」 100 ページ「システムの状況のデプロイとアクセス」 110 ページ「システムの状況モニタ」

サンプル・ステータスと説明

システムの状況 セットアップ・ウィザードでリモート接続を作成するときは，色付きのアイコンで接続ステータスが示されます。

次の表で，それぞれの色とそのステータスについて説明します。

ステータス	説明
	緑色アイコンは, すべてのモニタが HP Universal CMDB サーバにアクセスするのに，入力した資格情報で十分であることを示します。
	赤色アイコンは，次の理由のいずれかによって，選択したサーバへのリモート接続が失敗したことを示します。 ➤ ウィザードで入力したユーザの権限レベルでは，モニタが指定のサーバから情報を取得するのに十分でありません。 ➤ ウィザードで入力したユーザが，指定のサーバで実行されている HP Universal CMDB マシンに存在しません。 ➤ ウィザードで入力したユーザ資格情報に間違いがありました。 赤色アイコンは, 赤色の四角形内に **x** 記号が付きます。
	灰色アイコンは，指定のサーバへのリモート接続を確立しようとしなかったことを示します。 灰色アイコンは，灰色の四角形内に - 記号が付きます。

リモート・サーバ・セットアップ・ページ

説明	システムの状況で監視するために，HP Universal CMDB サーバへのリモート接続を作成できます。
重要情報	➤ 各サーバごとに異なる設定を行うか, すべてのサーバに同じ設定を適用できます。 ➤ サーバの使用可能なモニタすべてをシステムの状況で実行するためには, そのサーバのリモート接続詳細を設定する必要があります。サーバへのリモート接続詳細を入力しないと，システムの状況は，HP Universal CMDB サーバにアクセスするために資格情報/認証を必要としないモニタのみに関する情報を取得します。 ウィザードに関する一般情報は，131 ページ「システムの状況セットアップ・ウィザード」で入手できます。
その他のリンク	93 ページ「システムの状況セットアップ・ウィザード – 概要」
ウィザード マップ	システムの状況 セットアップ・ウィザードには次のページがあります。 **リモート・サーバ・セットアップ・ページ** > リモート・データベース・セットアップ・ページ > ［受信者セットアップ］ページ

［サーバ リモート セットアップ］ページに含まれている要素は次のとおりです。

GUI 要素	説明
	クリックすると，［Remote connection details］フィールドの説明が表示されます。もう一度クリックすると，説明が非表示になります。
Apply	クリックすると，選択したサーバにリモート接続設定が適用されます。
Encoding	サーバで使用されるエンコーディングです。 **例:** Cp1252，UTF-8

GUI 要素	説明
Login	モニタと指定サーバ間でのリモート接続を確立するために使用するログイン名を入力します。 ログイン名を入力するユーザは，サーバでモニタを実行するのに適切な権限レベルを持っている必要があります。 このセルに情報を入力する形式は **DOMAINNAME¥login** です。
Method	HP Universal CMDB コンポーネントに接続する通信方法を選択します。 **例:** NetBIOS，SSH
OS Type	サーバで実行されているオペレーティング・システムを入力します。 **例:** Windows，UNIX **注 :** このフィールドが表示されるのは，システムの状況がサーバのオペレーティング・システムを特定していない場合のみです。
Password	指定サーバとのリモート接続を確立するのに使用するログイン名のパスワードを入力します。 パスワードを入力するユーザは，サーバでモニタを実行するのに適切な権限レベルを持っている必要があります。

リモート・データベース・セットアップ・ページ

説明	システムの状況で監視するために，データベースへのリモート接続を作成できます。
重要情報	➤ 各サーバごとに異なる設定を行うか，すべてのサーバに同じ設定を適用できます。 ➤ データベースの使用可能なモニタすべてをシステムの状況で実行するためには，そのデータベースのリモート接続詳細を設定する必要があります。データベースへのリモート接続詳細を入力しないと，システムの状況は HP Universal CMDB サーバにアクセスする資格情報 / 認証を必要としないモニタのみに関する情報を取得します。 ウィザードに関する一般情報は，131 ページ「システムの状況セットアップ・ウィザード」で入手できます。
ウィザード マップ	システムの状況 セットアップ・ウィザードには次のページがあります。 リモート・サーバ・セットアップ・ページ > **リモート・データベース・セットアップ・ページ** > ［受信者セットアップ］ページ
その他のリンク	93 ページ「システムの状況セットアップ・ウィザード – 概要」

［データベース リモート セットアップ］ページに含まれている要素は次のとおりです。

GUI 要素	説明
	クリックすると，［Remote connection details］フィールドの説明が表示されます。もう一度クリックすると，説明が非表示になります。
Apply	クリックすると，選択したデータベースに設定が適用されます。
Encoding	データベースを実行しているサーバで使用されているエンコーディングを示します。 **例**: Cp1252，UTF-8
Initialize Shell Environment	(任意選択) セッションの初めに実行するシェル・コマンドを入力します。複数のコマンドはセミコロン (;) で区切ります。このオプションでは，Telnet または SSH セッションを初期化した直後に，リモート・マシンで実行するシェル・コマンドを指定します。

GUI 要素	説明
Login	データベースをインストールするサーバで実行されているオペレーティング・システムへのアクセスに使用するログイン名を入力します。 **注:** このセルに情報を入力する形式は **DOMAINNAME¥login** です。
Login Prompt	システムがログインの入力を待っているときのプロンプト出力です。 **標準設定:** login:
Method	システムの状況がデータベースと対話する通信方法を選択します。 **例:** NetBIOS，SSH
Operating System	サーバで実行されているオペレーティング・システムを入力します。 **例:** Windows，UNIX **注:** このフィールドが表示されるのは，システムの状況がサーバのオペレーティング・システムを特定していない場合のみです。
Password	データベースをインストールするサーバで実行されているオペレーティング・システムへのアクセスに使用するパスワードを入力します。
Password Prompt	システムがパスワードの入力を待っているときのプロンプト出力です。 **標準設定:** password:
Prompt	リモート・システムがコマンドを処理できるときのプロンプト出力です。 **標準設定:** #
Secondary Prompt	(任意選択) リモート・サーバへの telnet 接続によってリモート・サーバが接続に関する詳細情報を要求する場合に，二次プロンプトを入力します。複数のプロンプト文字列はコンマ (,) で区切ります。
Secondary Response	(任意選択) 該当リモート・サーバとの接続を確立するよう要求される二次プロンプトに応答を入力します。複数の応答はコンマ (,) で区切ります。

［受信者セットアップ］ページ

説明	定義済みのシステムの状況アラートを電子メールで受信する受信者を設定できます。
重要情報	ウィザードに関する一般情報は，131 ページ「システムの状況セットアップ・ウィザード」で入手できます。
ウィザード マップ	システムの状況 セットアップ・ウィザードには次のページがあります。 リモート・サーバ・セットアップ・ページ > リモート・データベース・セットアップ・ページ > ［受信者セットアップ］ページ
その他のリンク	93 ページ「システムの状況セットアップ・ウィザード – 概要」

［受信者セットアップ］ページに含まれている要素は次のとおりです。

GUI 要素	説明
	クリックすると，［Recipient Details］フィールドの説明が表示されます。もう一度クリックすると，説明が非表示になります。
＜Recipients Pane＞	定義済みのシステムの状況アラートを電子メールで受信するよう設定された受信者のリストを表示します。 受信者の名前をクリックして，その詳細を編集します。 ［**Add new recipient**］をクリックして，新規受信者を設定します。
BSM Databases	HP Business Service Management Databases のステータスに関するアラートを受信する場合に選択します。
BSM servers, services, and applications	HP Business Service Management サーバ，サービス，およびアプリケーションのステータスに関するアラートを受信する場合に選択します。
Create	設定した受信者を受信者リスト表示枠に追加します。
Email	受信者の電子メール・アドレスを入力します。
Name	受信者の名前を入力します。

ツールバー

説明	次のことができます。 ➤ システムの状況ダッシュボードで HP Universal CMDB コンポーネントの表示をカスタマイズする。 ➤ コンポーネントを操作する。 ➤ コンポーネントに管理操作を実行する。 ➤ コンポーネントのステータスとモデルを同期化する。 **利用方法:** ツールバーはシステムの状況ダッシュボードの上部にあります。
関連リンク	144 ページ「[サーバ マネージャ] ダイアログ・ボックス」 145 ページ「[バックアップ サーバ セットアップ] ウィンドウ」 146 ページ「[プロセス マネージャ] ダイアログ・ボックス」 147 ページ「[クイック レポート] 画面」

ダッシュボードのカスタマイズ・ボタン

説明	システムの状況ダッシュボードでコンポーネントの外観をカスタマイズできます。
関連リンク	94 ページ「システムの状況の表示」

ダッシュボードのカスタマイズ・ボタンは次のとおりです。

GUI 要素	説明
	システムの状況ダッシュボード左表示枠のコンポーネントを選択できるようにする場合にクリックします。 **注:** このボタンは，システムの状況ダッシュボードを表示するときに標準設定で選択されます。
	システムの状況ダッシュボード左表示枠をパンする場合にクリックします。

GUI 要素	説明
	システムの状況ダッシュボード左表示枠の特定領域でズームする場合にクリックします。 ズームするには，ポインタの左クリック・ボタンを押したままにします。ズームインするにはポインタを下方向に移動し，ズームアウトするにはポインタを上方向に移動します。
	ダッシュボードのコンポーネント間を移動する場合にクリックします。 [**ナビゲーション**] ボタンをクリックして，2 つのコンポーネントまたはサブコンポーネントを接続しているラインをクリックします。ラインのどこをクリックするかに応じて，カーソルが起点または終点コンポーネントに移動します (どちらにでも進みます)。
	開いているコンポーネントおよびサブコンポーネントをすべて表示領域に合わせる場合にクリックします。
	直前の操作を元に戻して，システムの状況ダッシュボード左表示枠で前の表示に戻る場合にクリックします。 **注:** このボタンを使用できるのは，システムの状況ダッシュボード左表示枠で複数のビューを作成した場合だけです。
	[**元に戻す**] ボタン で元に戻した操作をやり直す場合にクリックします。 **注:** このボタンを使用できるのは，システムの状況ダッシュボードで複数のビューを作成したものの，最新のビューには表示されてない場合だけです。
	コンポーネントが元の順番（左から右）に整列するように，システムの状況 ダッシュボード左表示枠のコンポーネントを再整列する場合にクリックします。 ➤ データベース ➤ サーバ ➤ ディスカバリ・プローブ

GUI 要素	説明
	システムの状況ダッシュボード左表示枠を標準設定ビューに戻す場合にクリックします。これにより，開いているコンポーネントが閉じられ，コンポーネント・ボックスが元の状態に再整列されます。
	クリックすると，システムの状況ダッシュボード左表示枠にあるすべてのコンポーネント・ボックスの概要マップが表示されます。 概要マップは別のウィンドウに表示され，青色のラインでシステムの状況ダッシュボード左表示枠の境界を示します。 **注:** 概要マップが開いている間は，システムの状況ダッシュボードのほかの機能は実行できません。

操作ボタン

説明	システムの状況で監視する HP Universal CMDB コンポーネントに対する操作を実行できます。
関連リンク	94 ページ「システムの状況の表示」

次の操作ボタンがあります。

GUI 要素	説明
	クリックすると，［サービス マネージャ］ダイアログ・ボックスが開きます。サーバ・マシンが適切に機能していない，サービスを提供するのにダウンタイムを必要としている，あるいは過負荷状態の場合は，このオプションによって同タイプのサーバ間でバックエンド・サービスを移動できます。［サービス マネージャ］ダイアログ・ボックスの詳細については，144 ページ「［サーバ マネージャ］ダイアログ・ボックス」を参照してください。 **注:** このボタンを使用するには，HP Universal CMDB 環境で同じタイプの複数のサーバを構成している必要があります。
	サーバ・マシンが適切に機能していないか，サービスを提供するのにダウンタイムを必要とする場合に，クリックしてバックアップ・サーバを定義します。 **注:** このボタンを使用するには，HP Universal CMDB 環境で同じタイプの複数のサーバを構成している必要があります。
	保守目的で，またはそのプロセスにおいてシステムの状況ダッシュボードに問題のあるステータスが表示された場合に，クリックして，選択したサーバ上でプロセスを停止または開始します。

情報ボタン

説明	システムの状況で監視する HP Universal CMDB コンポーネントに関する情報を取得できます。
関連リンク	94 ページ「システムの状況の表示」

次の情報ボタンがあります。

GUI 要素	説明
	選択したコンポーネントで過去 24 時間にわたって収集したデータに関するクイック・レポートを受信する場合にクリックします。クイック・レポートの詳細については，147 ページ「[クイック レポート] 画面」を参照してください。
	システムの状況モニタおよび HP Universal CMDB のコンポーネントの現在のステータスが含まれているレポートを .csv ファイルにエクスポートする場合にクリックします。
	特定サーバのログ・ファイルが含まれる .zip ファイルを生成する場合にクリックします。 **注:** このボタンを使用するには，システムの状況ダッシュボード左表示枠でサーバ・コンポーネントを選択する必要があります。

同期化ボタン

説明	システムの状況で監視する HP Universal CMDB コンポーネントのステータスおよびモデルを同期化できます。
重要情報	ソフトまたは完全モデル同期化を実行している間に，HP Universal CMDB コンポーネントがダウンした場合は，システムの状況でそれらのコンポーネントに関する完全監視ソリューションが設定されていなかった可能性があります。このようなことが発生しないようにするには，システムの状況セットアップ・ウィザード構成ですべてのコンポーネントを起動して稼働させ，ソフトまたは完全モデル同期化を実行します。
関連リンク	94 ページ「システムの状況の表示」

次の同期化ボタンがあります。

GUI 要素	説明
	コンポーネントのモニタを実行せずに，選択したコンポーネントを更新して現在のステータスを取得する場合にクリックします。
	システムの状況モデルへの変更で，システムの状況を更新する場合にクリックします。必要に応じて，変更が適用されたシステムの状況の領域に関してシステムの状況セットアップ・ウィザードが起動されます。
	すべてのモニタとそのステータスをリセットするなど，選択したコンポーネントの構成をリセットする場合にクリックします。特定のコンポーネントを選択しないと，システムの状況構成全体がリセットされ，システムの状況セットアップ・ウィザードが起動されます。この場合は，サーバに対するすべてのシステム・モニタの接続を再設定する必要があります。詳細については，131 ページ「システムの状況セットアップ・ウィザード」を参照してください。

［サーバ マネージャ］ダイアログ・ボックス

説明	サーバ・マシンが適切に機能していない，サービスを提供するのにダウンタイムを必要としている，あるいは過負荷状態の場合は，同タイプのサーバ間でバックエンド・サービスを移動できます。 **利用方法 :** システムの状況ダッシュボードのツールバーで［**サービス マネージャ**］ボタン をクリックします。
重要情報	➤ 同じ HP Universal CMDB タイプのサーバ間でサービスを移動できます。 ➤ 自動フェイルオーバによってプロセスがバックアップ・マシンに移動すると，サービス・グループの一部だけが移動し，システムの状況によって同じサービス・グループが 2 つの異なるサーバに表示されることがあります。
関連リンク	99 ページ「サービスの再割り当てについて」

［サービス マネージャ］ダイアログ・ボックスに含まれている要素は次のとおりです。

GUI 要素	説明
実行	指示されたカスタマ・サービスをサーバ間で移動する場合にクリックします。
Operation Status	実行された操作のステータスを表示します。
Select Operation	移動するサービスのタイプを選択します。
Select Source Machine	サービスをどのマシンから移動するか選択します。
Select Target Machine	サービスをどのマシンに移動するか選択します。

［バックアップ サーバ セットアップ］ウィンドウ

説明	サーバ・マシンが適切に機能していないか，サービスを提供するのにダウンタイムを必要とする場合に，HP Universal CMDB サーバ・コンポーネントを実行するバックアップ・サーバを定義できます。 **利用方法:** ツールバーで［**バックアップ サーバ セットアップ**］ボタン をクリックします。
重要情報	➤ このボタンを使用できるのは，複数のサーバを構成している場合だけです。 ➤ バックアップ・サーバを使用可能にするには，［**Enable Automatic Failover**］ボックスをクリックする必要があります。
関連リンク	106 ページ「バックエンド・サービスの移動」

［バックアップ サーバ セットアップ］ウィンドウに含まれている要素は次のとおりです。

GUI 要素	説明
Enable Automatic Failover	選択したサーバをバックアップ・サーバとしてアクティブ化する場合に選択します。
実行	選択したサーバをバックアップ・サーバとして定義する場合にクリックします。
Operation Status	実行された操作のステータスを表示します。
Select Backed-up Servers	バックアップするサーバを選択します。
Select Backup Server	バックアップ・サーバを選択します。

［プロセス マネージャ］ダイアログ・ボックス

説明	プロセスでシステムの状況ダッシュボードに問題のステータスが表示されたり，プロセスで保守が必要になったりする場合に，特定のサーバ上でプロセスを停止または開始できます。 **利用方法:** ツールバーで［**プロセス マネージャ**］ボタン をクリックします。
重要情報	［プロセス マネージャ］ダイアログ・ボックスでは，複数のプロセスを選択して開始または停止できます。
関連リンク	106 ページ「BSM プロセスの管理」 109 ページ「HP Universal CMDB プロセス」

［プロセス マネージャ］ダイアログ・ボックスに含まれている要素は次のとおりです。

GUI 要素	説明
	選択したプロセスが実行されていることを示します。
	選択したプロセスが開始されているものの，まだ実行されていないことを示します。
	選択したプロセスが停止されたことを示します。
	選択したプロセスが現在停止処理中であることを示します。
	選択したプロセスが起動されたことを示します。
	選択したプロセスのステータスが不明であることを示します。
操作の状態	実行された操作のステータスを表示します。
更新	クリックすると，プロセスのステータスが更新されます。 **注:** 停止されたプロセスは赤色で表示されます。
プロセスの選択	停止または開始するプロセスを選択します。
サーバの選択	プロセスを開始または停止するサーバを選択します。

GUI 要素	説明
開始	クリックすると，選択したプロセスが開始されます。
すべて開始	クリックすると，［**プロセスの選択**］ウィンドウのプロセスがすべて開始されます。
停止	クリックすると，選択したプロセスが停止されます。
すべて停止	クリックすると，［**プロセスの選択**］ウィンドウのプロセスがすべて停止されます。

［クイック レポート］画面

説明	選択したコンポーネントのモニタで過去 24 時間にわたって収集されたデータに関するレポートを表示します。 **利用方法:** ツールバーで［**クイック レポート**］ボタン をクリックします。
重要情報	次のリンクがクイック・レポート画面に表示され，モニタに関する個別の情報を表示できます。 ➤ **Table Format:** ➤ **Error List:** ➤ **Warning List:** ➤ **Good List:** 各リンクで表示される情報の詳細については，下記を参照してください。
関連リンク	107 ページ「クイック・レポートを表示する」 HP Business Availability Center 文書ライブラリにあるシステム可用性管理の「New SiteScope Quick Report Dialog Box」。

クイック・レポート画面に含まれている要素は次のとおりです (ラベルのない GUI 要素は山括弧で示しています)。

GUI 要素	説明
<グラフ>	モニタ・グループの出力をグラフ形式で表示します。
Error List	クリックすると，モニタに設定されたしきい値に基づいて，**エラー** ステータスを取得したモニタ実行が表示されます。
Good List	クリックすると，モニタに設定されたしきい値に基づいて，**良好**ステータスを取得したモニタ実行が表示されます。
Measurement Summary Table	各 HP Universal CMDB モニタの測定データを表示します。
Table Format	モニタ・グループの出力を表形式で表示します。
Uptime Summary Table	指示された時間内に各 HP Universal CMDB モニタが検出した稼働時間のパーセンテージを表示します。
Warning List	クリックすると，モニタに設定されたしきい値に基づいて，**警告**ステータスを取得したモニタ実行が表示されます。

トラブルシューティングと制限事項

次の表に，［システムの状況］インタフェースで発生するおそれのある潜在的な問題と推奨されるソリューションについて説明します。

問題	ソリューション
インタフェースに HP Universal CMDB コンポーネントが表示されない	ブラウザで［**更新**］ボタンをクリックします。 **注:** この問題が最も よく見られるのは，Microsoft Internet Explorer 7.0 でシステムの状況に初めてログインしたときです。
すべてのコンポーネントとモニタが灰色で表示される	**システムの状況ダッシュボード**のツールバーで［**完全モデル同期化**］ボタンをクリックします。［**完全モデル同期化**］ボタンにより，システムの状況の構成がリセットされ, HP Universal CMDB のモニタの履歴すべてが消去されます。次にシステムの状況 セットアップ・ウィザードを使って，システムの状況を再構成し，システムの状況で監視するサーバへのリモート接続を作成します。詳細については，131 ページ「システムの状況セットアップ・ウィザード」を参照してください。
コンポーネントに関するモニタが表示されない	

第 8 章

テーブルを使用した作業

本章では，HP Universal CMDB での作業に使用するテーブルのカスタマイズ方法について説明します。

本章の内容

参照先

➤ カラムのユーザ・インタフェース（151 ページ）

カラムのユーザ・インタフェース

本項では，次の項目について説明します。

➤ 152 ページ「[カラムの選択] ダイアログ・ボックス」

➤ 153 ページ「[カラム コンテンツの並べ替え] ダイアログ・ボックス」

［カラムの選択］ダイアログ・ボックス

説明	テーブルに表示する情報を選択できます。カラムの表示順序の変更, カラムの非表示, 非表示のカラムの表示を行います。 **利用方法：**［**カラムの選択**］ボタンをクリックします。

含まれている要素は次のとおりです (ラベルのない GUI 要素は山括弧内に表示されます)。

GUI 要素	説明
	非表示のカラムを表示します。選択したカラムを［**利用可能なカラム**］/［**非表示カラム**］表示枠から［**可視カラム**］表示枠に移動します。
	選択したカラムを非表示にします。選択したカラムを［**可視カラム**］表示枠から［**利用可能なカラム**］/［**非表示カラム**］表示枠に移動します。
	すべての非表示カラムを表示します。すべてのカラムを［**利用可能なカラム**］/［**非表示カラム**］表示枠から［**可視カラム**］表示枠に移動します。
	選択したすべてのカラムを非表示にします。すべてのカラムを［**可視カラム**］表示枠から［**利用可能なカラム**］/［**非表示カラム**］表示枠に移動します。
	選択した 1 つのカラムを上下に移動して, テーブルのカラムの位置を決定します。
［利用可能なカラム］	この表示枠内のカラムはテーブルに表示されません。
［可視カラム］	この表示枠内のカラムはテーブルに表示されます。

［カラム コンテンツの並べ替え］ダイアログ・ボックス

説明	可視カラムの表示順序の変更や，昇順または降順でのカラム・コンテンツの並べ替えができます。 **注:** テーブルに表示するカラムの定義方法の詳細については，［カラムの選択］ダイアログ・ボックスを参照してください。 **利用方法：**［ **カラム コンテンツの並べ替え**］ボタンをクリックします。

含まれている要素は次のとおりです (ラベルのない GUI 要素は山括弧で囲んで示します)。

GUI 要素	説明
	選択したカラムを［**利用可能なカラム**］表示枠から［**並べ替えられたカラム**］表示枠に移動します。
	選択したカラムを［**並べ替えられたカラム**］表示枠から［**利用可能なカラム**］表示枠に移動します。
	すべてのカラムを［**利用可能なカラム**］表示枠から［**並べ替えられたカラム**］表示枠に移動します。
	すべてのカラムを［**並べ替えられたカラム**］表示枠から［**利用可能なカラム**］表示枠に移動します。
	選択した 1 つのカラムを上下に移動して，カラムの位置を決定します。

GUI 要素	説明
	カラムの内容を昇順または降順に並べ替えることができます。 カラム・ヘッダの上向きの三角形は昇順を，下向きの三角形は降順を示します。 複数のカラムを並べ替える場合は，三角形の横に数字が表示されます。表示される数字は，［**並べ替えられたカラム**］表示枠に表示される順序と一致します。数字は，カラムの並べ替え順序を示します。 たとえば，テーブルは，最初に「1」とマークされているカラムの内容で並べ替えられ (昇順または降順)，次に「2」とマークされているカラムの内容で並べ替えられ (昇順または降順)，その後も同様に繰り返されます。 **注:** カラム・ヘッダをクリックして，カラムの内容を昇順または降順で並べ替えることもできます。 ➤ 最初のクリックで，内容が昇順に並べ替えられます。 ➤ 2 回目のクリックで，内容が降順に並べ替えられます。 ➤ 3 回目のクリックで，ソート順序が削除されます。
［利用可能なカラム］	内容が並べ替えられていないカラムです。 **注:** 複数のカラムを選択できます。
［並べ替えられたカラム］	内容が昇順または降順で並べ替えられたカラムです。

第 9 章

正規表現の例

本章では，正規表現の例を示します。

本章の内容

参照先

➤ 正規表現の例（155 ページ）

正規表現の例

➤ IP アドレス (aa.yy.zz.mm) を定義する正規表現は，次のように入力します。

目的	最初のフィールドへの入力内容	2 つ目のフィールドへの入力内容
aa でラベルを作成する	(.*)([.].*[.].*[.].*)	1
yy でラベルを作成する	(.*[.])(.*)([.].*[.].*)	2
zz でラベルを作成する	(.*[.].*[.])(.*)([.].*)	2
mm でラベルを作成する	(.*[.].*[.].*[.])(.*)	2

➤ 次のように正規表現を入力して，選択された属性の最初または最後の文字でラベルを作成できます。

目的	最初のフィールドへの入力内容	2 つ目のフィールドへの入力内容
最初の文字でラベルを作成する	(.)(.*)	1
最後の文字でラベルを作成する	(.*)(.)	2

目的	最初のフィールドへの入力内容	2 つ目のフィールドへの入力内容
最初の 2 文字でラベルを作成する	(..)(.*)	1
最後の 2 文字でラベルを作成する	(.*)(..)	2

第 10 章

関係の定義

本章では，HP Universal CMDB で使用する関係のタイプを定義します。

本章の内容

参照先

➤ 関係タイプの定義（157 ページ）

関係タイプの定義

Backbone

2 つのスイッチ間の物理的な接続です。この関係は，ディスカバリおよび依存関係マップ (DDM) ネットワーク － レイヤ 2 モジュールによって検出されます。

Bcast Domain

elan (エミュレートされた LAN) とスイッチの関係です。

Chassis LAN Map

chassis と elan (エミュレートされた LAN) の関係です。

Chassis VLAN Map

chassis と vlan (仮想 LAN) の関係です。

Client-Server

管理情報ベース (MIB) ツリーの tcpConnLocalAddress テーブルのデータ行です。サーバ・ポートとクライアント・ポートを区別できる場合，このデータには，2 つのホストのポート間の TCP 接続に関する情報が含まれます。tcpConnLocalAddress テーブルは，MIB アドレス **1.3.6.1.2.1.6.13.1.2** にあります。clientserver 関係は，DDM TCP connection collector によって検出されます。

Contained

2 番目の CI が 1 番目の CI に含まれる 2 つの CI 間の関係です。この関係は，IP とホストの間にのみ成り立ちます。

Contains

2 番目の CI が 1 番目の CI に含まれる 2 つの CI 間の関係です。

DB Client

プロセスとデータベースの関係です。

DB Link

データベースとデータベース・リンク・オブジェクトの関係です。

Depend

一方の CI が他方の CI の機能を必要とする関係です。

Dependency

一方の CI が他方の CI の機能を必要とする関係です。

Deployed

一方の CI が他方の CI によって実行される関係です。

ELAN-VLAN Map

elan (エミュレートされた LAN) ネットワーク・コンポーネントと vlan (仮想 LAN) ネットワーク・コンポーネントの関係です。

Layer 2

スイッチとホストの物理的な接続です。layertwo 関係は，DDM layer 2 service によって検出されます。

Member

一方の CI が他方の CI に含まれる 2 つの CI 間の関係です。

IBM MQ Alias

別名キューとローカル・キューの関係です。

IBM MQ Channel Of

チャネルとその送信キューの関係です。

IBM MQ Repository

メッセージ・キュー・クラスタとメッセージ・キュー・キュー・マネージャの関係です。

IBM MQ Resolve

リモート・キューと，リモート・キューが割り当てられるローカル・キューとの関係です。

NFS

ネットワーク・ファイル・サーバです。

Owner

リソースのユーザです。

Parent

一方の要素が他方の要素の親である要素間の関係です。たとえば，ip は interface の親です。

PNNI Connection

2 つの ATM ポート間の関係です。

RFC Connection

SAP システムとホストの関係です。ホストは，ほかの SAP システムまたは SAP 以外のシステムにすることができます。

Resource

一方の要素が他方の要素のリソースである要素間の関係です。たとえば，dbsnapshot は dblinkobject のリソースです。

Route

next_hop IP アドレスおよび宛先ネットワーク・アドレスのデータを含む管理情報ベース (MIB) のルーティング・テーブルのデータ行です。ルーティング・テーブルは，MIB アドレス **1.3.6.1.2.1.4.21.1.7** にあります。この関係は，DDM route collector によって検出されます。

Talk

2 つのホスト間の関係です。

TCP

管理情報ベース (MIB) ツリーの tcpConnLocalAddress テーブルのデータ行です。サーバ・ポートとクライアント・ポートを区別できる場合，このデータには，2 つのホストのポート間の TCP 接続に関する情報が含まれます。tcpConnLocalAddress テーブルは，MIB アドレス **1.3.6.1.2.1.6.13.1.2** にあります。この関係は，DDM TCP connection collector によって検出されます。

Traffic

プロトコルに関係なく，2 つの IP 間のすべてのネットワーク・フローを表します。

Unnumbered

管理情報ベース (MIB) ツリーのルーティング・テーブルのデータ行です。このデータには，next_hop IP アドレスおよび宛先ネットワーク・アドレスに関する情報が含まれます。ルーティング・テーブルは，MIB アドレス **1.3.6.1.2.1.4.21.1.7** にあります。Unnumbered 関係は，base collector によって検出されます。

USB

2 つのインタフェース間の関係です。

Use

一方の要素が他方の要素を使用する要素間の関係です。たとえば, process は file を使用します。

Virtual

ルータとその仮想 IP の関係です。

第 III 部

日付と時間

第 11 章

日付と時間

本章では，HP Universal CMDB の日付と時間の参照情報を示します。

本章の内容

概念

➤ 時間とタイム・ゾーン（165 ページ）

➤ クライアント・マシンの日付の形式（165 ページ）

時間とタイム・ゾーン

HP Universal CMDB では，状況によって，時間とタイム・ゾーンの扱い方が異なります。日付は，ユーザに対して設定されたタイム・ゾーンに従って表示されます。詳細については，『**モデル管理**』の「ユーザ・プロファイル」を参照してください。

注：すべての HP Universal CMDB サーバとデータベース・サーバは，同じタイム・ゾーンでインストールし，夏時間の設定を同じにして，同じ時刻に設定する必要があります。

クライアント・マシンの日付の形式

.HP Universal CMDB は，マシンのロケールに従って日付を表示します
(HP Universal CMDB は，17 のロケール定義をサポートします)。

第 IV 部

トラブルシューティング

第 12 章

使用可能なトラブルシューティング・リソース

本章では，HP Universal CMDB での作業中に発生する問題のトラブルシューティングに使用できるリソースについての情報を提供します。

本章の内容

トラブルシューティング・リソース（169 ページ）

トラブルシューティング・リソース

- **インストールのトラブルシューティング:** HP Universal CMDB をインストールするときに発生する可能性のある一般的な問題とその解決方法のトラブルシューティングに使用します。詳細については，16 ページ「トラブルシューティングおよび制限事項」を参照してください。
- **ログイン時のトラブルシューティング:** HP Universal CMDB へのログインの失敗を引き起こすと考えられる原因を検証します。詳細については，16 ページ「トラブルシューティングおよび制限事項」を参照してください。
- **HP ソフトウェア・セルフ・ソルブ技術情報 :** さまざまな項目に関する特定のトラブルシューティング情報を検索できます。HP ソフトウェア・サポート Web サイトにある HP ソフトウェア・セルフ・ソルブ 技術情報には，HP Universal CMDB の［ヘルプ］メニューから［**トラブルシューティングとナレッジ ベース**］を選択してアクセスできます。

  登録済みのカスタマのみが，HP ソフトウェア・サポート Web サイトのリソースにアクセスできます。未登録のカスタマは，このサイトから登録できます。
- **HP Universal CMDB ログ･ファイル:** CMDB の実行時の問題のトラブル･シューティングに使用します。詳細については，『**モデル管理**』の「CMDB ログ・ファイル」を参照してください。

- **ディスカバリおよび依存関係マップ・ログ・ファイル:** DDM 問題のトラブルシューティングに使用します。詳細については,『**ディスカバリおよび依存関係マップ**』の「ログ ファイル」を参照してください。
- **TQL ログ・ファイル:** TQL パラメータ・ログ・ファイルの定義を表示するために使用します。詳細については,『**モデル管理**』の「TQL ログ」を参照してください。

第 13 章

英語以外のロケールでの作業

本章では，英語以外のロケールでの作業に関する情報を提供します。

本章の内容

参照先

- インストールとデプロイメントに関する問題（172 ページ）
- データベース環境に関する問題（172 ページ）
- 管理に関する問題（173 ページ）
- レポートに関する問題（173 ページ）
- ディスカバリおよび依存関係マップに関する問題（174 ページ）
- 多言語ユーザ (MLU) インタフェースのサポート（174 ページ）

インストールとデプロイメントに関する問題

- ブラウザで中国語，日本語，韓国語を使用する場合は，HP Universal CMDB サーバに東アジア言語がインストールされていることを確認する必要があります。HP Universal CMDB サーバがインストールされているマシンで，［**コントロール パネル**］＞［**地域と言語のオプション**］＞［**言語**］＞［**東アジア言語のファイルをインストールする**］を選択してください。
- I18N 環境での HP Universal CMDB のインストールは，Windows プラットフォームまたは Solaris プラットフォームにインストールされた HP Universal CMDB でサポートされています。ほかの UNIX プラットフォームはサポートされていません。Windows プラットフォームでの HP Universal CMDB のインストールの詳細については，『**HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド**』(PDF)の「インストール」を参照してください。
- UCMDB サーバを日本語版または中国語版のオペレーティング・システムを搭載した Windows 2003 マシンにインストールする場合，HP Universal CMDB へのログオンで，ユーザ・パスワードに日本語または中国語の文字を含めることはできません。
- すべての HP Universal CMDB コンポーネントのインストール・パスには，英語以外の文字を含めることができません。

データベース環境に関する問題

- 英語以外の HP Universal CMDB 環境で作業を行うには，Oracle サーバ・データベースまたは Microsoft SQL Server データベースを使用します。データベースのエンコーディングと特定の言語のエンコーディングは同じでなければなりません。Oracle サーバ・データベースを使用する場合，データベースのエンコーディングは，英語以外の言語と多言語の両方をサポートする UTF-8 または AL32UTF-8 エンコーディングが可能です。
- Oracle データベースで新規の Oracle インスタンスを作成する場合は，インスタンスの文字セットを指定する必要があります。データ・ディクショナリ内のデータを含め，文字データはすべてインスタンスの文字セットを使って格納されます。Oracle データベースを使った作業の詳細については，『**HP Universal CMDB データベース・ガイド**』(PDF)の「Oracle サーバ・データベースのデプロイと保守」を参照してください。
- データベース・クエリ・モニタが Oracle データベースに接続するには，Oracle のユーザ名とパスワードが英字のみを含んでいる必要があります。
- 日本語のクライアントに Microsoft SQL Server データベースをインストールするとき，［照合順序の設定］ダイアログ・ボックスで次の設定を選択してください。

- バイナリでの並べ替え順序は選択しない。
- アクセント，かな，および文字幅の区別を選択する。

管理に関する問題

- 英語以外の文字をサポートするには，HP Universal CMDB データベースのエンコーディングを UTF-8 または AL32UTF-8 として定義する，つまり特定の言語に設定する必要があります。詳細については，172 ページ「データベース環境に関する問題」を参照してください。

レポートに関する問題

- HP Universal CMDB は，50 文字より長いマルチバイト文字を含むカスタム・レポート名はサポートしていません。
- HP Universal CMDB から Excel にダウンロードしたレポートは，データ言語と異なる言語のオペレーティング・システムでは正しく表示できません。

  マルチバイト・データを持った Excel ファイルをダウンロードするには，HP Universal CMDB を英語版のマシンにインストールするときに，**＜HP Universal CMDBルート・ディレクトリ＞¥UCMDBServer¥j2f¥AppServer¥resources¥G11N_Strings.properties** ファイルの **user.encoding** エントリを正しいエンコードに設定します。
- ある言語ロケールで作成されたレポートが別の言語ロケールの電子メールで送信された場合，レポートにはサーバの言語と元のロケールの言語のシステム情報が含まれます。
- 標準設定では，Microsoft Excel 2003 Service Pack 2 以前は UTF-8 エンコードされた CSV ドキュメントを正しく開けません。レポートを .csv ファイルとして保存したら，そのレポートを Excel にインポートできます。

  .csv ファイルとして保存したレポートを Excel にインポートするには，次の手順を実行します。

1. ［**データ**］メニューで［**外部データの取り込み**］を選択し，［**データの取り込み**］をクリックします。
2. ［ファイルの種類］ボックスで，［**テキスト ファイル**］をクリックします。
3. リスト・ボックスで，テキスト・ファイルを見つけてダブルクリックし，外部データ範囲としてインポートします。

4 テキストをカラムに分割する方法を指定するには，テキスト・インポート・ウィザードの指示に従い，［**完了**］をクリックします。

ディスカバリおよび依存関係マップに関する問題

CI インスタンスを PDF ファイルにエクスポートすると，PDF ファイルで日本語の文字が表示されません (［**ディスカバリ**］＞［**ディスカバリ実行**］＞［**ベーシック モード**］を選択します。ディスカバリが終了したら，［**統計結果**］表示枠で CIT を選択します。［**インスタンスの表示**］ボタンをクリックします。［検出済み］ダイアログ・ボックスで，［**エクスポート**］＞［**表示 CI**］＞［**表示 CI を PDF へエクスポート**］を選択します)。

多言語ユーザ (MLU) インタフェースのサポート

HP Universal CMDB ユーザ・インタフェースは，Web ブラウザで次の言語で表示できます。

言語	Web ブラウザの言語設定
英語	英語
フランス語	フランス語 (フランス)［fr］
日本語	日本語［ja］
韓国語	韓国語［ko］
簡体中国語	中国語 (中国)［zh-cn］
オランダ語	オランダ語（オランダ）［nl］
ドイツ語	ドイツ語（ドイツ）［de］
ポルトガル語	ポルトガル語（ブラジル）［pt-br］
ロシア語	ロシア語［ru］
スペイン語	スペイン語［es］
イタリア語	イタリア語（イタリア）［it］

HP Universal CMDB の表示方法を指定するには, ブラウザの言語設定オプションを使用します。言語設定の選択は，ユーザのローカル・マシン (クライアント・マシン) だけに影響があり，HP Universal CMDB マシンや同じ HP Universal CMDB マシンへのほかのユーザ ・アクセスには影響しません。

HP Universal CMDB を特定の言語で設定して表示するには，次の手順を実行します。

1. ローカル・マシンに適切な言語のフォントがインストールされていない場合はインストールします。フォントがインストールされていない言語を Web ブラウザで選択すると，HP Universal CMDB では文字が四角形で表示されます。
2. HP Universal CMDB にログインしている場合は, ログアウトする必要があります。HP Universal CMDB ウィンドウ上部の［**ログアウト**］をクリックします。

   開いているすべてのブラウザ・ウィンドウを閉じるか，キャッシュをクリアします。
3. Internet Explorer で HP Universal CMDB を実行している場合，ローカル・マシンの Web ブラウザを設定して，HP Universal CMDB を表示する言語を指定します (［**ツール**］＞［**インターネット オプション**］)。
   - **a** ［**言語**］ボタンをクリックし，［言語の優先順位］ダイアログ・ボックスで HP Universal CMDB を表示する言語を強調表示します。
   - **b** 使用する言語がダイアログ・ボックスにない場合は，［**追加**］をクリックして言語のリストを表示します。追加する言語を選択して［**OK**］をクリックします。
   - **c** ［**上に移動**］をクリックして，選択した言語を最初の行に移動します。
   - **d** ［**OK**］をクリックして設定を保存します。
   - **e** HP Universal CMDB のログイン・ウィンドウを表示します。
   - **f** Internet Explorer のメニューで, ［**表示**］＞［**更新**］を選択します。HP Universal CMDB がすぐに更新され，選択した言語でユーザ・インタフェースが表示されます。

注： 異なる言語で書かれた Web ページを Internet Explorer で表示する方法の詳細については, http://support.microsoft.com/kb/306872/jp-ja を参照してください。

注意事項および制限事項

- 言語パックをインストールする必要はありません。表示されるすべての言語は HP Universal CMDB 多言語ユーザ・インタフェース (MLU) に統合されています。
- Web ブラウザの言語が変更されても，データは入力された言語で残されます。ローカル・マシンで Web ブラウザの言語を変更しても，データ入力定義およびデータ入力設定の言語は変更されません。
- サーバとクライアントのロケールが異なり，パッケージ名に英語以外の文字が含まれている場合，パッケージをデプロイできません。詳細については，『**モデル管理**』の「パッケージ・マネージャ」を参照してください。
- サーバとクライアントのロケールが異なる場合，名前に英語以外の文字を持つリソース (ビューや TQL など) を含むパッケージは作成できません。詳細については，『**モデル管理**』の「パッケージ・マネージャ」を参照してください。
- 新しいユーザの名前に 16 文字より多い日本語文字が含まれていると，［ユーザとロール］で新しいユーザを作成できません。詳細については，『**モデル管理**』の「ユーザとロール」を参照してください。
- ビュー マネージャで，ビューの名前に 18 文字より多い日本語文字が含まれていると，新しいビューを作成できません。詳細については，『**モデル管理**』の「ビュー マネージャ」を参照してください。
- トポロジ・レポート・マネージャで，レポートの名前に 16 文字より多い日本語文字が含まれていると，新しいレポートを作成できません。詳細については，『**モデル管理**』の「トポロジ・レポート・マネージャ」を参照してください。
- HP Universal CMDB サーバ・ステータス HTML ページは英語でのみ表示されます。他の言語には翻訳されません。詳細については，『**HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド**』（PDF）の「サーバ・ステータスの表示」を参照してください。

索引

A

Adobe Flash Player
　を使用したレポートの表示 64

H

高可用性
　『HP Universal CMDB デプロイメント ガイド』PDF を参照 37

I

I18N
　Discovery と Dependency Mapping に関する問題 174
　インストールとデプロイメントに関する問題 172
　管理に関する問題 173
　データベース環境に関する問題 172
　レポートに関する問題 173

J

JMX コンソール
　操作 55
　操作の実行 56
　認証アカウント情報 55
　ユーザ名またはパスワードの変更 56

L

LDAP
　認証メソッドの定義 22
LDAP 認証
　JMX コンソールを使用したテスト 25
Lightweight シングル サインオン
　Web シングル サインオンの使用例 40
　システム要件 42
　重要情報 49
　制限事項 43
　セキュリティに関する警告 47
　説明 40
　トラブルシューティング 50
　トラブルシューティング、LW-SSO 関連の使用例 50
　トラブルシューティング、SAML2 関連の使用例 53
　認証 39

S

SSL
　認証のためのセキュリティ保護された接続の設定 23

U

UCMDB ヘルプ
　操作 29

か

[カラム コンテンツの並べ替え]ダイアログ ボックス 153
[カラムの選択]ダイアログ ボックス 152
カラムのユーザ インタフェース 151
関係
　定義 157

き

共通のレポート要素 75

け

言語
　英語以外のロケールでの作業 171
言語の優先順位 174

し

システムの状況
　アイコン 127
　アクセス 100
　概念 91
　概要 92
　クイック レポート 147
　コンポーネント 108
　コンポーネント ステータス 117, 125
　サーバ コンポーネント 129
　サービスの再割り当て
　　理解 99
　サービス マネージャ 144
　情報ボタン 142
　制限事項 149
　セキュア環境へのデプロイ 105
　ダッシュボードのカスタマイズ 138
　ツールバー ボタン 138
　デプロイ 100
　同期化 143
　トラブルシューティング 149
　[バックアップ サーバ セットアップ]
　　ウィンドウ 145
　表示 94
　プロセス 109, 129
　プロセス マネージャ 146
　モニタ ステータス 117
　モニタ テーブル 98
　ログ マネージャ 118
システムの状況セットアップ ウィザード 131
　アクセス 93
　概要 93
　[受信者セットアップ]ダイアログ ボッ
　　クス 137
　ステータス 132
　[リモート サーバ セットアップ]ページ
　　133
　[リモート データベース セットアップ]
　　ページ 135
システムの状況ダッシュボード 121
　全般テーブル 123, 124
　[左]表示枠 121
　[右]表示枠 122
　モニタ テーブル 122
システムの状況モニタ 110
　Bus 113
　システムのモデリング/表示 116
　データベース 111
　データベース コンポーネント 128
　プロセス 112
　マシン・ハードウェア 110
　モデリング/CMDB 114

せ

正規表現
　例 155

た

タイム ゾーン 165
多言語ユーザ インタフェースのサポート 174

ち

注釈 64
注釈ツール 69

と

トラブルシューティング
　リソース 169
　ログイン 16
トラブルシューティング・リソース 169

な

ナビゲーション 27
　ドキュメントを使った作業 29
　メニューとオプション 32
　ユーザ インタフェース 27

に

認証
　Lightweight シングル サインオン 39
認証メソッド 21

LDAP 用の定義 22
識別名の解決 24
セキュリティ保護された SSL の設定 23
セットアップ 22

ひ

日付と時間
クライアント・マシン 165
参照情報 165
タイム ゾーン 165

ふ

フォント
PDF へのエクスポート時の有効化 68
ブラウザの言語のプリファレンス 174

ゆ

ユーザ インタフェース
操作 27
多言語のサポート 174

れ

レポート
Adobe Flash Player を使用したレポートの表示 64
お気に入りのフィルタ 86
お気に入りのフィルタの設定 86
共通のレポート要素 75
時間範囲 78, 87
生成ボタン 76
注釈 64
注釈ツール・ユーザ インタフェース 69
発行 63, 81
レポートでの作業 62
レポートでの作業の概要 62
レポートの注釈 64
レポートの発行 63

ろ

ログイン 11
Lightweight シングル サインオン 12
自動 14
対応ブラウザ 11
トラブルシューティング 16
認証 21
ログインとログアウト 13
ログ マネージャ 118
ロケール
英語以外 171